

手車の里

○八幡林村

(七) 屬郷拾箇村之内

里正

佐佐

兵

衛 高橋氏
助 草薙氏

○此村東は下櫻田、野田、西は上鶯野、袴田、下鶯野、南は長樂寺村、谷地乙森、北は下花園村を近隣とせり。

○享保郡邑記に、○八幡林村、家卅七軒○傳馬柳、同二軒○荒田、同三軒○手車、同一軒云々。今存在は、○

北村、家二戸○内村、同四戸○荒田、同四戸○小屋舗、同三戸○谷地、同一戸○槐、同二戸○天間柳、同二

戸、この天間柳また天魔柳ナギと作る、古來は傳馬柳たり、いにしへ在りし驛舎の迹にや。○小泉、同二

戸○八卦、同六戸○上野、同十戸○手車、同一戸。云々と見ゆ。

○寒泉○小瀧川原清水一泉。

○神社部

○正八幡宮 一郷、鎮守也、祭日八月十五日、別當當村ノ驗者不動院。

○正觀音堂 祭日九月十七日、齋主庄介。 ○藥師如來 祭日八月八日、齋主市兵衛。

○大山祇社 祭日十二月十二日、齋主佐介。刈和野宿地頭梅津主税殿より御神燈料として、しらげの

よね五升寄附ある也。

○諏訪大明神社 祭日四月五日、齋主介作。久保田古川町地頭今宮伊織殿より、御最花として白銀三

泉、米五升、寄附あり。

○八幡山不動院修驗宗歷代

○開祖不動院秀覺、天文廿二年八月遷化○二世不動院眞靜、永祿二年十二月化○三世不動院賢空、慶長六年九月化○四世不動院心惠、明曆三年正月化○五世不動院宥香、寶永五年八月化○六世不動院宥應、元文四年三月化○七世不動院快秀、寬延四年閏六月化○八世不動院快春、明和八年三月化○九世不動院快琳、寬政四年六月化○十世不動院大仙、享和三年八月化○十一世現住不動院覺幽也。

○東陽寺曹洞宗歷代

○八幡山東陽寺、角館縣久米山常光院、末山也。○當寺開祖、本寺久米山常光院、三世子心全養和尚、以正保二年乙酉二月二十五日示寂。今至文政十二年己丑百六十九年。

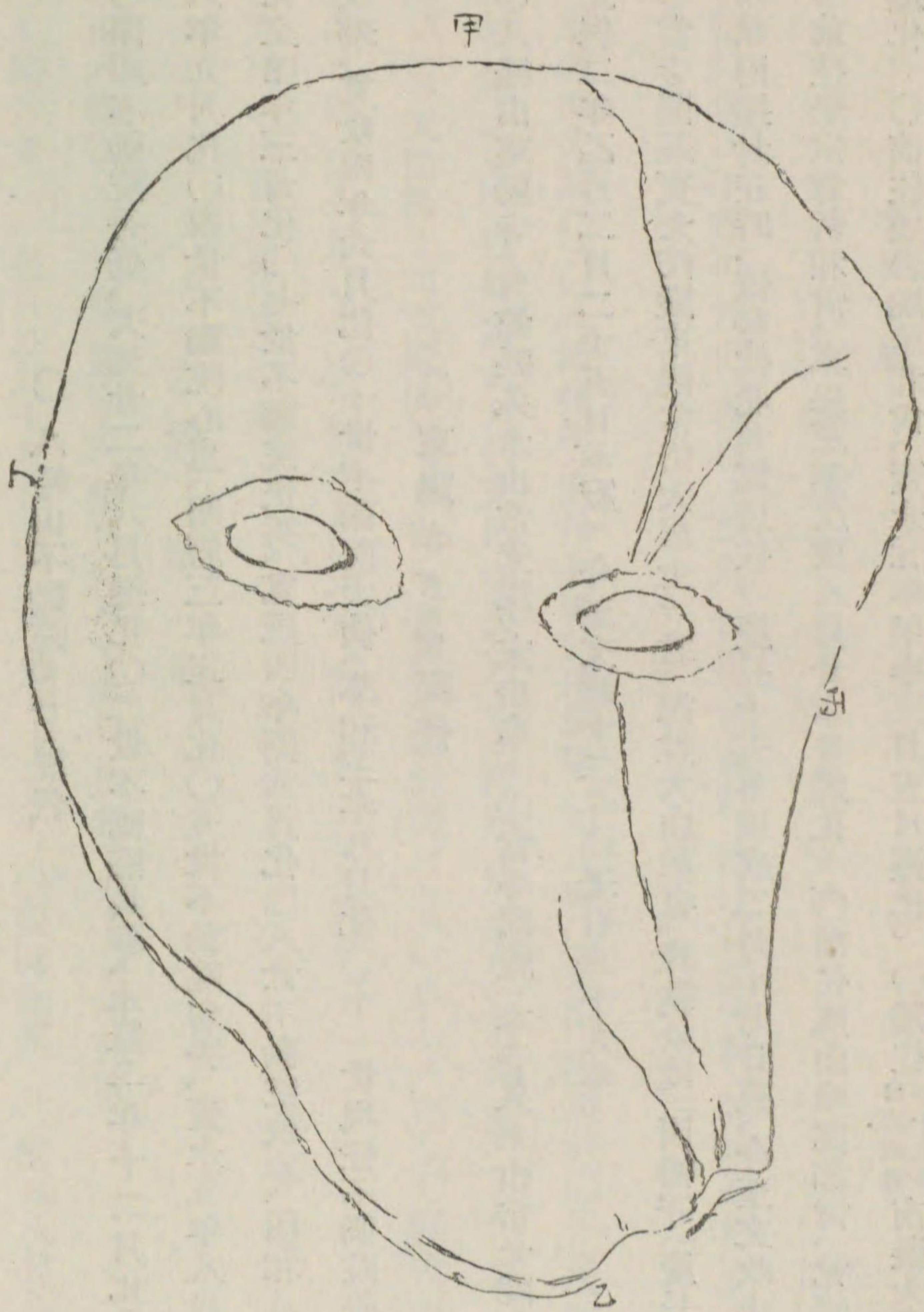
○當寺開基寶光院殿東陽常岱大居士。君、源姓大山統也、諱義景號、因幡守、慶長七年壬寅佐竹義宣公羽州秋田遷封在時、依命仙北角館居住。慶長十五年庚戌二月十七日薨、今至文政十二年己丑二百二十年。

○前任船宗尊哲和尚、享保三年戊戌八月廿六日遷化。○前任風山喚虎和尚、元錄八年乙亥十二月十九日遷化。○前任通岩順達和尚、寶永元年甲申三月五日遷化。○鑑住白岩雲巖寺十三世南巖大薰大和尚、寬保三年癸亥

九月廿九日化。

○藥師石 青色堅實石也。

○東陽寺什物



重拾二貫百十泉零
石厚處五六寸斗

(甲)(乙)亘一尺七寸斗

(丙)(丁)間一尺二寸餘

(戊)(己)眼ノ横行二寸三

四分

(睛)玉ノ横行一寸二三

餘也。

○此藥師石は當寺ノ四世和尚天承洞然の代に、夢に見てゆくりなう得るといへり。石の面に、おのづから化る兩眼の圖あり。眼疾人は此石面の兩眼を撫てまたおのが目を撫るにその靈驗ありとて、人みな藥師石といふ。あやしくも珍らしき石にこそあなれ。

○當寺二世中興開祖角館常光院十六世通關覺周大和尚、天明三年癸卯出世開闢タリ。慶長七年ヨリ前年ニ至テ凡百七十餘年、常光院隸屬ニ而鑑住幾世ト云事不詳、大槩上ニ記ス前住是也。師以寛政七年乙卯四月四日示寂於常光院。○三世如鏡覺圓大和尚、寛政七卯天德寺ノ會下ヨリ始テ視篆、又角館松庵寺ニ移住年月未考。寛政八年丙辰六月二十七日示寂於松庵寺。○四世天承洞然大和尚、天德會下ヨリ晋山年月不知。寛政六年甲寅六月七日化。○五世祖宗月海大和尚、寛政六年大平村源正寺ヨリ當山ニ視篆。文化十四年七月廿五日化。○六世大應薰寛大和尚、文政四年辛巳十二月廿三日男鹿ノ脇本邑萬境寺ヨリ住ニ當山。居事十一年、文政十一年丁亥七月二日又本寺常光院ニ移住ス。○此寺當時無住持也。

○鎮守白山妙理大權現 末社八幡大菩薩。稻荷大明神。

○總家員二十九戸 ○同人員九拾三人 ○同馬員廿三匹。

霞む初音野 上卷

○上鶯野村

(八) 屬郷拾个村之内

里正 喜左衛門富岡氏

○此村東は下花園、櫻田、八幡林田島堰埭畛、西は下延村玉川際リ、南は袴田、館、郷田島混雜、北は遠藤野新田、下鶯野村田島入リ交リ、勝樂村、玉川、流レ際リ也。そもく此鶯野といふ地は、本堂城回村の内若林

といふ野良の内に、春日野と並びたる野良の名也、其處より出產たりし人の草創たりし村にて、しかいへるにこそありけめ。六郷政乘傳記に、關ヶ原に於て談々、神君、津輕、六郷を召出され戸澤が討死を惜み給ふ々、戸澤盛安の臣戸澤長兵衛、茂木因幡、鶯野伊賀、長山小重郎、佐々木氏從て登り々々見えたり。また鶯野左衛門といふ名聞えたり、また鶯野佐介あり。此佐助が後なほありて、今此村に伊藤佐介といふあり。その鶯野左介が家たるよしをいへり。枝郷○上遠藤野、家三戸○境田、同二戸○小八卦、同三戸○澤田、同拾戸○吉田、同五戸○田向、同一戸○谷地、同一戸○吹張、同四戸○四屋、同三戸○熊野、同二戸○中道、同七戸○新關、同四戸○高八卦今は人○石持、家九戸○新屋鋪、同三戸○古館、家一戸。此地むかし戸澤侯の居館ありしよしをいへり。考ルに、鶯野加賀なごの住みて戸澤家の砦ありし迹ならむかし、なほ考べし。

○寒泉あり○高橋清水といふ。

○此村の水源は高橋清水、下花園、逆清水、八幡林、永喰清水、玉川横揚々ともに、四ヶ所の水をもて佃といへり。

○神社部

○三嶋大明神 上下鶯野兩村鎮守、祭日九月十三日、神官下鶯野邑鈴木鞞負。此三嶋の御神は伊豆國の一宮にして大山祇命也。書紀ニ、伊弉諾斬三刺遇突智爲三段、其一爲大山祇神々々見えゆ。延喜式ニ、伊豆國

賀茂郡三嶋神社、攝津國嶋下郡三嶋鴨社、伊豫國越智郡大山積社此三社皆大山祇神也。また書紀に、事代主神通三嶋溝織姫々々見えたり。此地には福一滿虚空藏菩薩を内陣にひめて鎮齋といへり。此ほさちは淺間、最上におなじう、世にいふ三虚空藏といふ、おなじ木の本末中もて作り奉るといへり。此處なむ八幡太郎義家將軍阿部統征伐のとき、ふりはへて御參籠ありて、ねきことし給ひしみやごころなりといひ、なほゆるよし多かること話れり。また下鶯野邑のくだりにも委曲に記すべし。

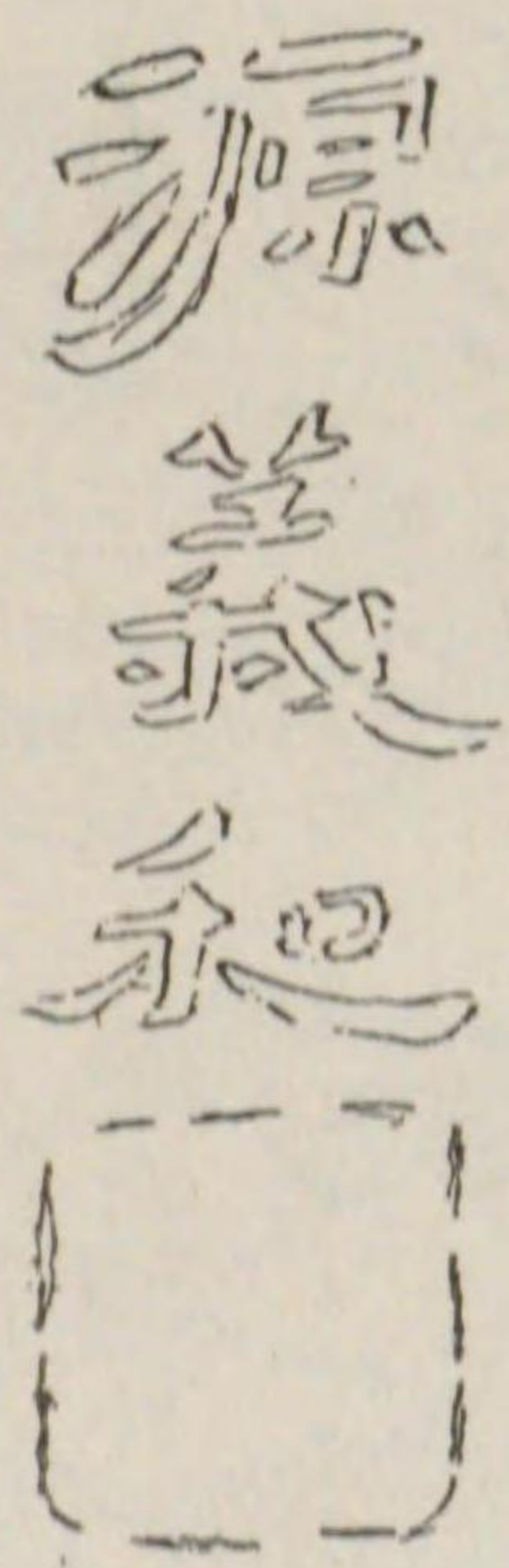
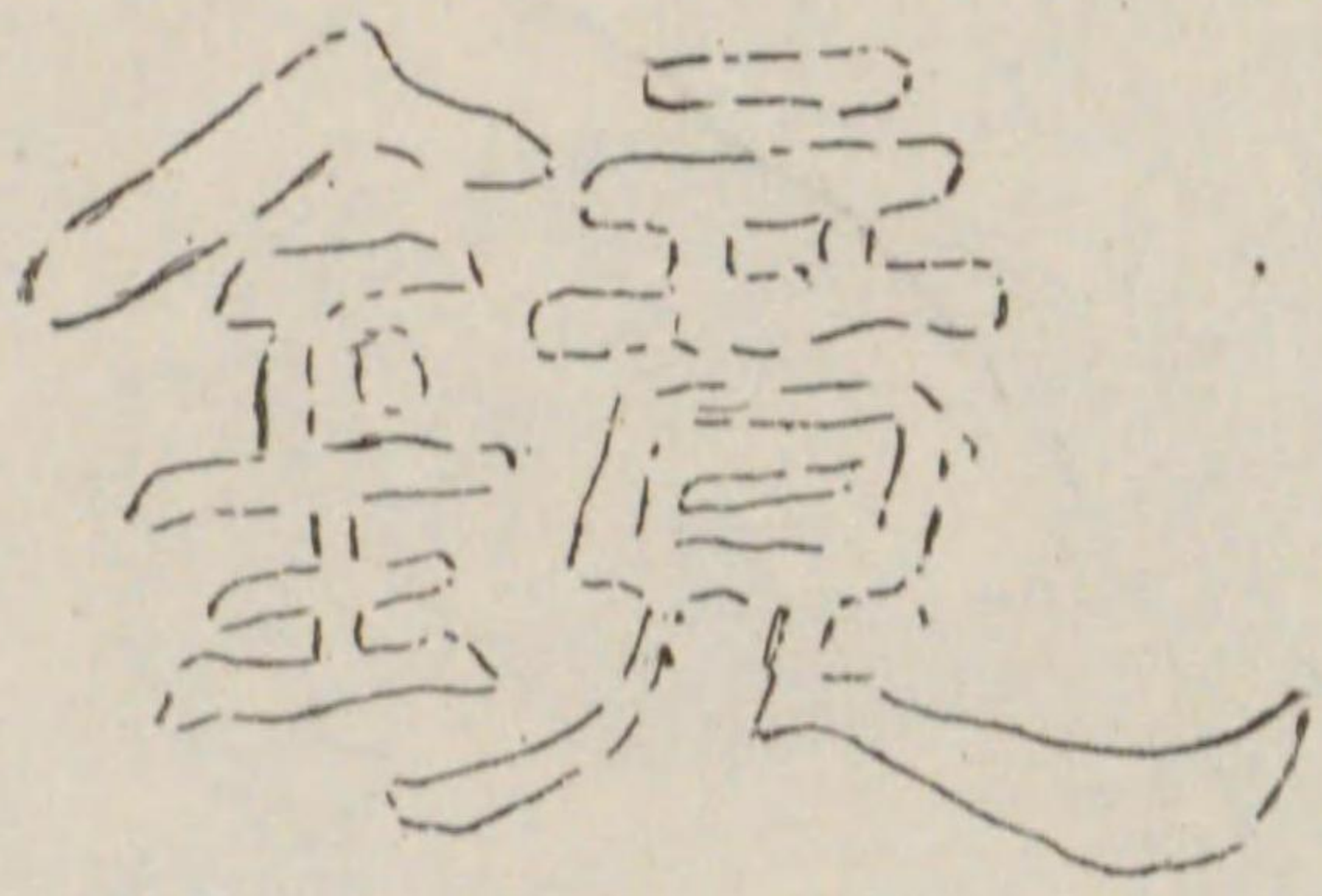
- 八幡大神宮 祭日八月十五日 一戸鎮守 齋主七重郎傳農氏
- 白山比咩社 祭日毎月十六日 一戸鎮守 齋主伊右衛門藤原氏
- 大日如來堂 祭日八月八日 一戸鎮守 齋主源四郎藤原氏
- 水垂り明神 祭日九月五日 同上 齋主重右衛門伊藤氏
- 雷光社 祭日四月八日 一戸鎮守 齋主重介傳農氏
- 稻荷大明神社 祭日十月十日 同上 齋主喜左衛門富岡氏
- 稻荷大明神社 祭日並同 同上 齋主喜右衛門同苗氏
- 稻荷大明神社 祭日並同 同上 齋主市右衛門同苗氏
- 稻荷大明神社 祭日並同 同上 齋主善右衛門傳農氏
- 稻荷大明神社 祭日並同 同上 齋主善之介同苗氏

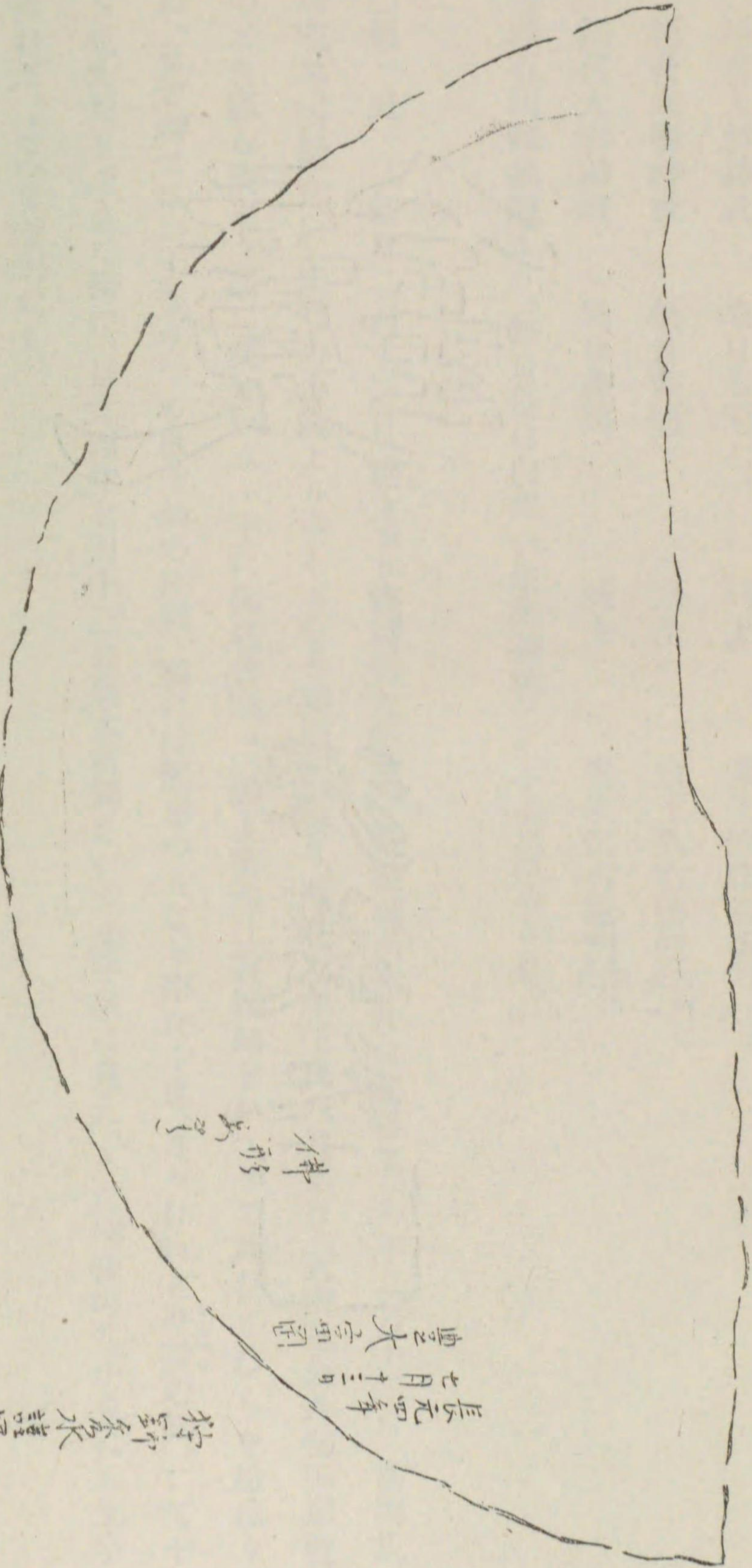
- 稻荷大明神社 祭日並同 同上 齋主牛之介同苗氏
 - 稻荷大明神社 祭日並同 同上 齋主佐藤右衛門小松氏
 - 稻荷大明神社 祭日並同 同上 齋主久右衛門古村氏
 - 稻荷大明神社 祭日並同 同上 齋主仁右衛門澤田氏
- 地頭石川鐵藏殿より、祭日毎に白銀一泉御初穂として寄附ある也。

○鏡 社 祭日二月十二日、齋主里正富岡喜左衛門。此破鏡の半片は元祿某の年二月十二日、富岡氏居宅地、古館といふ處の溝よりゆくりなう堀出たるを、享和二年壬戌八月某日、天樹院公此郷御順覽のとき獻る鏡也。後に鏡といふ一字に御名書添へ、画工秀水に其鏡圖をかゝせて此ひとひらを給はりぬ、そを神といひつきまつる也。かの片鏡の面には佛形つらなり彫たる也、さりけれど毫髪かみのひの細にてや見えたり。また傍に、長元四年七月十三日豊太富岡といふ文字仄に見え、また佛像のなからにも文字あれど、よみとぎがたし。

○種藏院 歴世

○黄鶯山種藏院は角館、縣天寧寺末山也。當寺開祖は天寧寺十四世天壽大禪師を勸請、元祿二年己巳十月十五日遷化○二世順貞和尚、元祿十三年庚辰九月十四日化○三世覺用和尚、延享四年丁卯十一月十



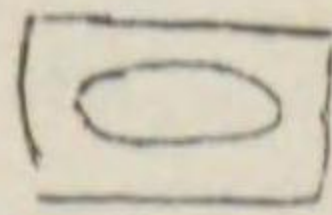


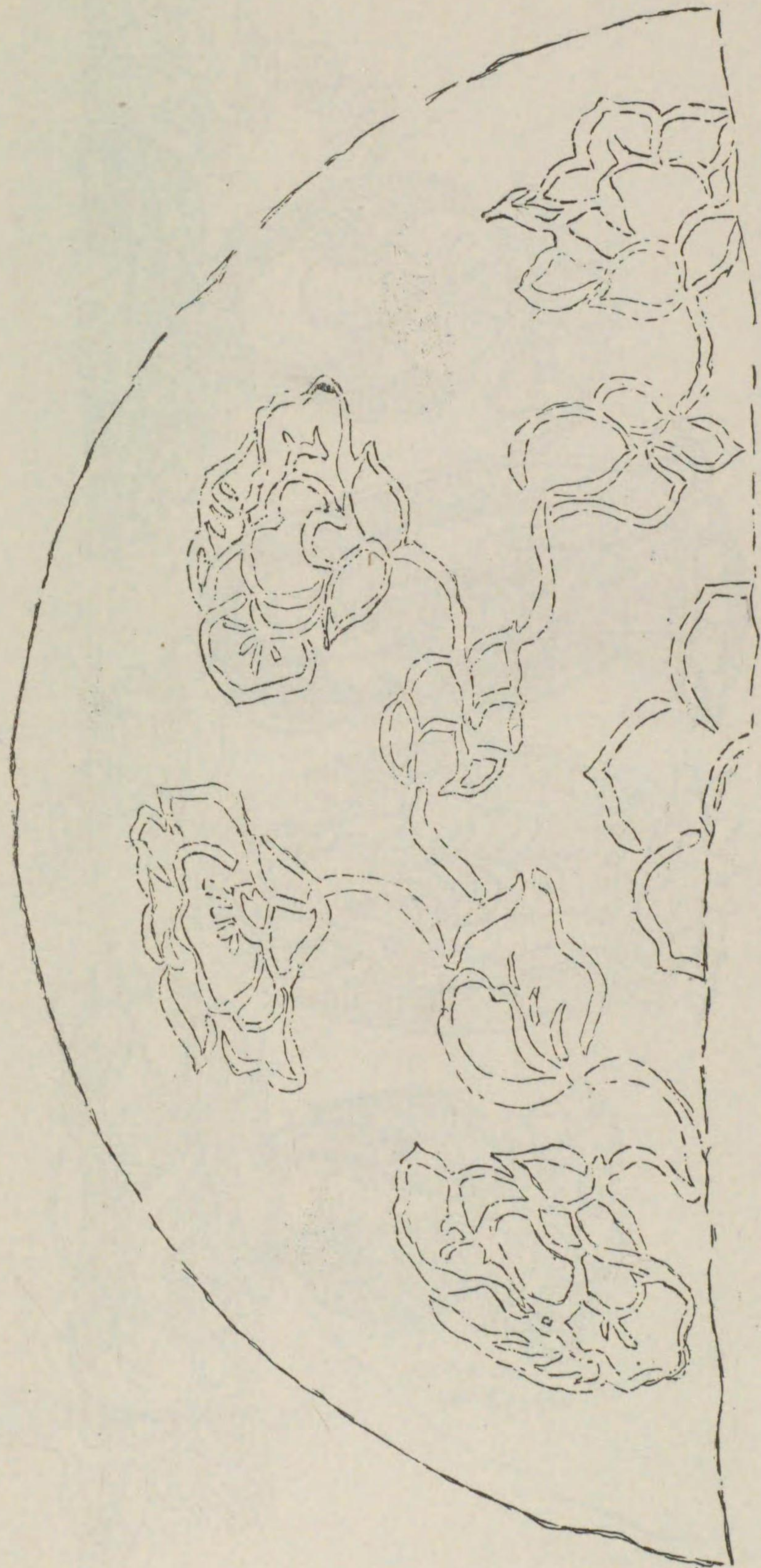
本形

豊之大三而團

長元四年
七月十三日

狩野春水謹寫





九日化○四世賢能和尙、寶曆九年己卯十一月七日化○五世流水和尙、明和元年甲申九月十日化○六世靈
 樹和尙<sup>遷化年
號不知</sup>○七世梅林和尙、寶曆十二年壬申四月廿二日化○八世祖潭和尙、寶曆三年癸酉十一月朔日
 化○九世秀禪和尙、寛政元年己酉六月五日化○十世忍宗和尙、安永四年乙未十一月六日化○十一世本海
 和尙、安永九年庚子十一月十七日化○十二世蓮州和尙、寛政四年壬子七月廿一日化○十三世禪志和尙、
 文化五年戊戌六月十九日化○十四世東國和尙、馬場、目村廣德寺<sup>年月
不知</sup>移轉○十五世瑞芳和尙、文化元年
 甲子八月二十日化○十六世玄堂和尙、大戸村安樂寺<sup>年月
不知</sup>移轉、文政五年壬午冬也○十七世月峯和尙、豊卷
 村、養澤寺<sup>年月
不知</sup>移轉、文政七年甲申冬十月也○十八世現住碩宗和尙、文化七年甲申冬十二月晋山也。
 ○黄鶯山鎮守稻生大明神 祭日十月十日。
 ○總家員五十八戸 ○同人員三百卅五人 ○同馬員七十三匹。

霞む初音野 下卷

○遠藤野村 (九)

屬郷十箇村之内

里正 喜左衛門

上鶯野
村兼帯

○此村は東は下鶯野田畠入會、南は上鶯野田畠入り交り、西北の方は雲然邑より玉川の流際也。枝郷
 ○田中、家七戸○風無、人家なし。此村小郷ゆゑ、上鶯野村の加郷として里正もおなじかりき。

○享保郡邑記に遠藤野新田、加_レ、田地荒跡四十年前進藤作左衛門忠進開發、寶永元申年御竿入_リ云々。
 ○家員七軒○野在家谷地、一軒○田中、七軒_々と見ゆ。○新選枝郷寄_セ日記に、本郷鶯野村之内○上遠藤野村_々と見ゆ。此村、書_キ上_ニ云、草創は黒土村兵右衛門也、其後荒川村進藤作左衛門忠進今以て地頭也。上鶯野字地、遠藤野より此貢米を産すといへり。○また外にも加郷の村あり、小種村に福部羅村入_リ郷がごとし。

○一郷鎮守稻生大明神 祭日十月十日、齋主_{（やま）}。

○總家員七戸 ○同人員三拾五人 ○柵養牛馬なし。

初音の野良

○下鶯野村

(十尾) 屬村拾箇村之内

里正 重 五郎 右衛門 助 藤川氏 熊谷氏

○此村東は上鶯野、上下花園、上櫻田、野中、鶴田、西は玉川の流_レ也。南も上鶯野、袴田、館郷、長野、北また玉川に際也。むかしは並て鶯野と云ひしを後に村を上下とは分てり。下鶯野はいとく古き村にして、里正の家に山本、郡と彫たる印あり、今にもてり。享保郡邑記に、○下鶯野村、總名唱_ラ也。○長瀬村、家四軒○下川原、同九軒○羽場、同七軒○大新田、同二軒○荒屋鋪、同四軒○中道、同一軒○鍛冶屋鋪

同二軒○中村、同二軒○上村、同八軒○下村、同一軒○田中、同五軒○大_ホ谷_ニ、同七軒○安樂寺村、同一軒_{（云々）}いにしへ、其寺此地に在りし處にや。

○此邑水源は玉河かゝり、此水をもて、いな田作るといへり。

○神社部

○鷲埜兩村、鎮守三嶋大明神

祭日 正月十三日、祠官鈴木靱負。此社地はいにしへより此村の羽場といふ地_{（云々）}に座り、本地は虚空藏菩薩なる事、またなにくれと、「霞む初音野」の上、卷、上鶯野のくだりに委曲記したり。

○大足稻荷大明神 祭日十月十日、齋主傳右衛門熊谷氏。狐名寄稻荷冊子に、大田里の文吉ぎつねとあり、としふりたる狐にや。古は大谷なるをおほたりと訛り、大田里をまた大足_{（云々）}に作れり。

○田中、地守稻荷大明神

一戸鎮守也、齋主和右衛門熊谷氏

○羽々稻荷大明神

一戸鎮守也、齋主重介藤川氏

○祠官鈴木靱負家歴代

○上祖は天正年中鈴木内藏之進藤原重常○二代鈴木宮五郎重住○三代鈴木土佐守重光○四代鈴木筑後守重堅○五代鈴木若狹守重長○六代鈴木肥後頭重安○七代鈴木駿河頭重則○八代鈴木筑後正重孝○九代當祠官鈴木靱負重喜也。

鈴木屋鋪十二間、十四間、二畝廿四步御免地也。

○修驗如意山明泉院歷代

○鼻祖明泉院源良、遷化年月不知○三覺院宥定、寛保二年十二月八日化○三覺院快賢、天明四年五月十七日化○明泉院祐徳、文政五年十月十七日化○現住明泉院白應代。累世さだかならず。

○新選枝郷記に、下鶯村之内○押切^{マシ}村々^タと見ゆ。

○總家員五十一戸 ○同人員二百五十一人 ○同馬員卅五匹。



秋田仙乏山本郡鶯野村の古印を傳ふ。

里正 五郎右衛門所藏



○八乙女、莊○前北浦、郷^{四十七箇}村之内也

霞む彌丁女 ○本郷長野 邑 屬郷十二箇村

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 矢田野のわかな | ○鑑見内本郷村一 | おめの川波 | ○大藏村二 |
| 雪の中河 | ○沖郷村三 | 霞む門川 | ○鑑見内沖村四 |
| 笹清水 | ○野口村五 | ひら寒泉 | ○築場村六 |
| 澤田のゑぐな | ○上沖郷村七 | あら田の好井 | ○村杉村八 |
| つゞき橋 | ○黒土村九 | こがねのみいけ | ○金鑑村十 |
| をだのしろかね | ○館郷村十一 | 雪の白田 | ○袴田村十二尾 |

○長野 邑

里正 太郎 八 秋山氏
喜 介 鈴木氏

○此邑東は黒土^ト村堰埭^埭、西は松倉村、小杉山村山^山、南は長戸呂村河原^{河原}、鑑見内村、田畠^{田畠}、北は館郷村、下延^{下延}村^村也。○長野、長山、長澤、長濱、長岡^{長岡}など姓にも地名もいと多し。いにしへは磐楯^{磐楯}長野ともいひし地ともいへり。○享保郡邑記に長野村家員二百三軒、慶長七年御遷封の後、長野の紫嶋^{紫嶋}、城に北又七郎義廉を居しむ、其後收發せらる。^{云々}と見ゆ。^{今久保田に長野あり、そは此ノ地に角館の居館有ルをもていへり。}○長野の往昔の町の名残りぬ、○九日町○本町○六日町○二日町○新町○横町○風呂屋小路^{今是人家なし。}○正月十二日、初市神祭^リはいつも二日町に在り、同月廿六日、次市神祭は六日町也。○四月六日は市日のしるしばかりに、此町にてなにくれのものぞうるめる。○七月十二日は盆市とて、二日町にて野菜ひさぐといへり。○往昔の市、日は○二日、六日、十二日、十六日、廿二日、廿六日^{云々}。○道法、角館町、一里半○大曲村、二里半○六郷村、四里半○刈和野村、四里半^{云々}。○享和三年新選枝郷^郷記に、立石村、開村、高瀬村、下河原村、神林村、狐塚村、しかく^くと見ゆ。立石といふは、むかしは一村にしていと廣かりし地^地なりしよしをいへり。立石の考はところく^く書^書ごとに書のせられた、玉くしげふた、び三たび、及びなき筆のまにく、此くだりにも、所せけれどまたかきのせたるなり。○續紀^{三十卷}光仁天皇のみまき、征東使奏る事によて二千ノ兵を遣し給ふくだりに、鶯座、楯座、楯石、澤^{また立石に、}大菅屋、澤、柳澤等の五道を経略して、險

を作て以て逆賊首領の要害を断しむ。しかく^くと見えたり。また立石といふ地^地も雄勝、郡、平鹿、郡、仙北、郡、今、山本、郡などにもところく^くに在りける名也。倭漢三才圖會に、寶珠山立石寺在^二最上中野、寺領千四百二十石、開基慈覺大師、本堂薬師、寺舎十二坊、堂塔多寶物數多、堂後有^二清泉^一即大師所^二修出^一、八町有^二奥院^一。云々。また由理郡本莊の平澤と琴浦との間に立石あり、雄勝郡上院内に立石、仙北郡今宿の内に立石、同郡金澤の立石、また同郡此長野の立石村など、あけてかぞふるにいとまあらじかし。

○八乙女山、古城跡あり、雄勝郡高松村に八乙女あり、また姓にもあり。また安部戰記草分本^{實錄に、}また所々に城廓を構へ^{云々}、一番に山北金洗ひが城、二番に長野の八乙女が城、三番に神宮寺揚の森。^{云々}と見えたり。これいにしへの阿部統の城なるよしを、今も云ひ傳ふ也。八乙女は八少女也、幼女、處女、媼、未通女、丁女の類ひ也、乙女は誤也といへり。此古城の迹より焼米、焼小豆の出るといへり。

- 長野村今存在枝郷 ○神林、家三戸○九日町、同四戸。享保の頃までは家員多かりし處といへり。
- 狐塚、同二戸○開村、同七戸○高瀬、同七戸○下河原、同廿戸○立石、同二戸^{云々}。
- 乘田の水元^トといふは○金池○小瀧川○大宮田○耳取^{耳取}堰^堰云々。
- 田畠、字處 ○紫嶋 ○七曲^リ ○八百刈 ○杉、窪 ○神、林 ○横枕 ○漆、原 ○小合田
- 狐塚 ○太田袋 ○柳田 ○拜殿 ○栗田 ○小豆瀨 ○鶯、巢 ○八幡野 ○梶、木野 ○新山

- 合野 ○一坪 ○橋本 ○高畑 ○宿合 ○小豆田 ○儘野下 ○西開 ○續橋 ○下窪
- 戸呂端 ○庚塚 ○八乙女河原 ○竹原 ○瀬島 ○極樂野 ○風井 ○越前川原 ○竹市
- 川上河原、しかくど見ゆ。そが中に神林、拜田、竹市などはゆるよしもあらむか。

○神 社 部

○藏王大権現 一郷鎮守。靈神にして、玉川の向岸乾方なる横嶽無人今云に鎮座。神地四面、宮殿三間あり。祭日正月八日、四月八日、八月八日、一箇年に三度の神祭也、そが中に八月八日を大祀とせり。此御神いにしへは横嶽の半峯、丹嶂に齋鎮るを、今は嵩いただきに遷しまつれるよし。再三破壊もて其草創をしらず、明暦の年號ある棟札のみ残り。むかしの神跡を本宮と稱奉りて大山祇社あり。祠官横山伊豫正。○藏王宮の前宮、中山大明神、宮殿八尺四面、社地四間四面、本社共に卯辰の方に向。中山祭は四月中、申日也。祠官並横山氏也。此神の祭日四月中申日を祭るといはゞ、大山昨神などを認れる事にや。また、中山といふ地に神鎮座るがごとく多し、諸國一宮記に、中山、神社美作、國苦東郡に座り、式の御神也。また神社考詳節に、中山冷泉院の石神也、永承五年立此社、六年冬授從三位、天喜元年有奉幣云々と見ゆ。不破の中山あり、同書に南宮、延喜式に美濃國仲山金山彦神社、日本紀、伊弉册生、火神、時悶熱懊惱、因爲吐化爲神、名曰金彦山云々。また倭訓栞に中山、愛宕郡也、夫木集に「君も來ず我も往かすの中山はなげきのみこそ繁るべうなり。」歌の中山は清水寺の南に在り、天武紀に見えたる伊賀の中

山は伊賀郡にあり。しかくど見えたり。また此横嶽を金峯山に擬ふは、金峯山、古今皇代圖説云々、宣化天皇三年和州金峯山明神出現、世稱安閑天皇之靈也、延喜年中沙門日藏入此峯、見藏王菩薩。云々ぞ見えたる。

○末社の舊社大山祇神 社地五間八間、祭日九月十三日、祠官並同。

○末社松尾大明神 御社三尺四面、中山の北に座り。祠官並同。祭日四月、十一月、郷中の酒肆より

日選で祭り來れり。松尾もも松生也、梅尾も、梅生也、類いと多し、酒戸に祭る由意なし。神社考に、松尾、賀茂玉依姫所取之

丹塗矢化爲神、松尾大明神是也、大寶元年、秦都里始立松尾神殿、號曰大山昨神、是比叡山日吉之同體也。云々ぞ見ゆ。○酒造祖神○酒解神大山、酒解子吾田鹿葦津姫、開那比咩。神代卷に云、吾田鹿葦津姫卜定田

を以て號て狹名田さなだといふ、其田の稻を以て、天甜酒を醸てこれを嘗したまふ。しかくど。また豊宇賀能

賣神、太田命、傳記云、伊弉諾、伊弉册尊所生和久産巢日神の兒豊宇賀賣神、月天より降り座して善酒を醸云。又曰、丹波、國與謝、郡比沼山の頂に井あり、其名を麻那井と號く。此處にまします神は則

竹野郡奈具、社是也、故豊宇賀能賣神の靈石にて座す也。亦酒造天之懸一口大神の靈器なり、以て敬拜祭なり。古語曰、吉祥、甕の腹に甘露の酒を満て神酒と號く、三節祭にたてまつる。按るに、酒店の輩

の松尾神社を以て酒の守護とす、いまだ其由をしらず。酒解神、酒解子神は梅宮の神也、蓋酒家輩、梅宮と松尾を思過るか云。此事書ごとに見えたらば、おのれもところく記しもて、酒肆のある

じたちには是をしらしむる也。

○末社辨財天女 祭日六月十七日、横山ヨコヤマ内に鎮座、祠官並同。

○末社太平山屬社美譽斯明神社 八尺四面、祠官並同。藏王宮、社内に鎮座、吉日を選んで祭スといへり。

○金生明神社 祭日あり、祠官横山伊豫頭。横山神官の畛内に齋鎮奉る小祠也。芳野山に金精、神座り、是は山に黄金あれば、黄金の精靈を齋まつれる金峯山の靈神なるよしをいへり。また陸奥、國糠部、郡牧堀、狹布、郡松木村、また出羽、國にもところ／＼に祭りて、幸、神と稱へ道祖神といふ。こはそもそも笠嶋の道祖神の社に、報祭に陽元を造りて手祭しが元めにこそあらめ。また、田守神のみいかりをなごしめむの祭りにや。金生また根勢、また金勢、金精などに作れり。倭訓栞に「をばせがた」、古語拾遺に男莖形オヒセガタを訓せり、倭名鈔には玉莖、をばせとよめり、陽元形の義也。陽元は神代紀に見えたり。大年、神男莖形に和きたまふは、笠嶋の道祖神の陰相を好、たまふに同じ、十訓抄に見えたり。云々とぞ有ける。○此長野に水虎あれどゆめく、人をえとらざるは、峯に藏王の神座カミマタなりといへり。其外、ここの村にては水虎のをかしありとぞ。

○神明宮八幡大神 春日明神御會殿也 祭日七月廿一日、祠官高野美作頭也。中河原と字處に鎮座。八幡宮は古八幡野といふ地におましまししが、明和八年七月廿一日遷宮せり。そは玉川の洪水のために破れて、有りし宮地の迹は淵となれり、さりければ、其あたりをさして八幡野といふといへり。

○末社船魂、神 祭日正月十一日。猿田彦大神、此神船鎮護の時は船魂の神と稱。此處には猿田彦大神宮、また住吉、御社を副、奉りて、此二柱の御神を舟玉、神とは申奉る也。祠官並同。

○高畑三寶荒神社 一戸鎮守也、齋主安達總兵衛。祭日五月八日。神官家には素戔嗚尊を齋鎮也、其由は諸社根元記ニ云く、神、素戔嗚尊、速素戔嗚尊、素戔嗚尊、此御一神三名を以て三寶荒神といふといへり。倭訓栞に「くわうじむ」、本は毗那夜伽の譯稱障碍神にて、如來荒神、鹿亂荒神、忿怒荒神の三身を三寶荒神とよべり、其説は無障礙經に見えたり。俗に竈、神を荒神と稱し祭る、されど佛説になき事なり。又興津彦、興津姫の二神に大土祖神を配し、これを三寶荒神などいふ事古書に見えず。たゞ荒ぶる神を古事記に荒神と書り。又石磯姥、天、目一ツ、神、金山彦命を、一體三面の神魂と現したまふなどいふも附會の甚き也。攝州勝尾寺の荒神、和州笠の荒神などは、我國にて釋氏の感得の神也といへり。中世以來盲人琵琶を鼓て、地神經を誦して祭る説あり、佛説地神經一卷あり、卑俗の文字にして藏書の目になき所なりといへり。源平盛衰記に、荒神鎮て財寶を得といひ又陀天の法ともいへり、即陀吉尼天の邪法の神、或貴狐天王とも稱せり。又知足院陀祇尼の法を行はれ狐の尾を得て祭れり、福天神とて其祠ありしよし著聞集に見えたり。堀川の西一條、大路の南に在る是也云々。此くわうじむ、なにのこゝろもなういつぐ社ともいへり。

○楯石、明神 立石山に鎮座。齋主立石、長五郎、一戸の鎮守。此、石舞獅子、形に似たりといへり、よ

しある名也。

○開^キ邑、觀世音 一村、鎮守也、別當^齊内村亮閣寺修驗。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主六日町、嘉兵衛。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主六日町、與惣右衛門。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主六日町、市左衛門。

○八幡野、稻荷社、跡 一戸、鎮守、先年は多郎左衛門が齋主也齋主九日町、九助。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主本^ト町、與八郎。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主六日町、長四郎。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主六日町、傳四郎。

○霹靂、社 一戸、鎮守也、齋主六日町、八郎兵衛。

○同雷天社 一戸、鎮守、祭日六月十七日也、齋主二日町、松右衛門。

○某、明神社 一戸、鎮守也、齋主並同。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主並同。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主二日町、傳兵衛。

○八百刈田、稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主二日町、莊八。

○堰根畠地、稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主六日町、七右衛門。

○蛇王權現 大蛇靈を祭る、一家の鎮守。齋主二日町、多右衛門。

○稻荷明神 一戸、鎮守、二日町後^ニ地に座り。齋主忠右衛門。

○稻荷明神 一戸、鎮守、六日町後^ニに座り。齋主並同。

○狐塚田、稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主多郎八。

○某明神 川原畑に座り、一戸、鎮守也。齋主二日町、喜右衛門。

○稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主並同。

○高瀬田、稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主開^キ村、作兵衛。

○開^キ田地、稻荷明神 一戸、鎮守也、齋主同村、長右衛門。

○六日町東裡、稻荷社 一家、鎮守也、齋主篠崎長右衛門。此御社は、角館内街篠崎長右衛門境内より遷し給ふ稻荷明神也。さりけれど今は慈恩寺の修驗宗別當たり、社はかの寺の庭の内に祭る。

○神明宮祠官高野美作頭歷代

○上祖高埜勘太夫盛連、元祿十年丁丑十一月十九日受領せり。○二代同薩摩守盛重、正徳六年受領○三代同飛騨守盛滿○四代三河守盛良○五代大隅守盛行、寛政十二年受領○六代美作頭盛富、文政三年受領○七代當時祠官但馬頭盛武。

○本社神殿神明宮八幡春日三柱御會殿、向巳萱葺二間、平地南北拾間東西十二間也。○神前道長八十間、廣三尺、神木松二本。○社地界東は堰際リ、西は川原際、南は畠際、北は川原際々といへり。

○末社船魂社 廣七尺四面、河舟人中寄附建立の社也。祭日正月十一日也。神官高野氏よしありける家ながら、中頃絶て家系傳らざるよし。

○總鎮守藏王宮祠宮横山家歴代

○上祖横山權之介重恒先祖とは申來れど、此間連綿せざる也。重恒神去し年號月日、廻祿に及びてさだかならざれど上祖とはせし也。○二代重政靈神、宮三郎といふ、横山日向守、實父也。貞享三年丙寅七月十三日神去。○三代清津幸雄靈神、俗名不知、寶永七年庚寅三月十七日神去。○四代重季靈神、親父宮三郎に五歳のときおくれ角館鈴木伊豆守弟子となり、寶永四年丁亥五月十八日上京受領して日向守重季といふ。於吉田殿神道傳來飯國し、鈴木家、組頭役の後見をつとむ。○五代幸豊靈社、享保十四年己酉二月十日神去。○六代重孝靈神、明和二年乙酉七月十五日神去。享保十六年辛亥五月十八日於吉田御本所受領し、伊豫守重孝といふ。○七代重治靈神、寶曆十年庚辰五月十四日上京受領し、播磨守重治といふ。寛政六年甲寅六月八日神去、行年六十一歳。○八代重記靈神、無官左仲といふ。寛政十一年己未七月六日早世す。○九代重春靈神、文化九年壬申二月八日神去。無官、行年四十歳也。○十代當時祠官職、文政四年辛巳四月十八日於吉田御本所受領、横山伊預正藤原重彦也。

○横嶽の藏王宮再興の年は享保七年壬寅、六月建立たり。ことし文政十二年己丑の歳までは凡百八年に及ぶといへり。

○一年に三度の神祭あり、また春秋の社日の神事あり。神前夜籠、また、きねがまるねも一とせに七夜ありといへり。

○久米山長徳寺修驗宗由緒記録

○久米山長徳寺開基は大聖院宥尊。此寺の古記録一卷に、拙寺、開基之義は、於常州御北家、御鎮守久米の愛岩山の別當にて、大聖院と申候。尤御北家、御祈願所相勤め寺領七拾石頂戴仕リ、十七世相續し罷在候。其頃は今宮殿御先祖、於常州、關八州之修驗宗の惣祿所御つとめなされ候。大聖院事は今宮殿依下知、常州一國の兜襟頭役を蒙り相勤め罷在り候。○天文十五年丙午年、御北家左衛門尉義廉殿御大病之節御鎮守久米愛岩山に御立願遊れ候て、御病氣於御全快御鎮守社堂再建可被遊旨祈誓仕候處、たちどころ御平愈被遊、御報祭として、天文十八丙酉年社堂あらたに御造營さふらふよし也。○慶長七年當國御遷封之砌、當寺開基大聖院宥尊關東の開基より第十七世にあたる御北家に供奉仕リ、久米愛岩、御尊體、棟札と共に守護奉りて御當國へ罷下り候。此國に下り候ては七八ヶ年の内は宥尊居住の地もいまだ定り申さざるの間、かの御鎮守愛岩本尊は大檀那於御北家、久保田檜山、金照寺に棟札とも御預け被遊候。かの棟札摹し左の如くに御座候。

天文十八歲己酉九月上旬

關東久米愛岩勸請

本願 大聖院

宥尊儀は御北家御知行所仙北郡長野村に住居相定り候否、御北家より寺領七石附置れ候處宥尊申上候は、今宮殿の下知に於て御當國にても兜襟頭の役相つとめ、其上在々に檀家場數十ヶ村所持仕候得は寺務相續には不足も無之候。依て寺領之義は頂戴いたし間敷の旨申上候得ば、關東より遙々供奉し來るしるし斗とて、祈願料とて玄米一石づゝ永々御寄附遊され候也。○其以後御鎮守社堂造立之義御北家に願ひ相立候處、御物入續きの御時にて御建立之義は御延引被遊候段被仰渡候。依之宥尊、御鎮守愛岩堂へ毎年六月廿四日御代參被仰付候。○御北家、申若様彦治郎義繼より宥尊度々御目見被仰付、御由緒を以御本家様へ被爲入候後も、後住一明院後號大聖院御目見被仰付御盃頂戴仕候。

○二世大聖院宥講。御鎮守愛岩へ御代參數度に及ぶ。

○三世大聖院養宥。愛岩御代參數度に及ぶといへり。

○四世大聖院快宥、御代參の事前におなじ。右兜襟頭役代々引續き相つとめ罷在候得共、快宥義は病身に付、元祿年中兜襟頭役御訴申上候。○正徳元辛卯年主計義命殿御子又四郎義富殿、同御息女御大病

に付御病氣御本復爲御祈禱御代參被仰付候に付、同年五月中御鎮守愛岩大權現の御神前に於て、御病人御平愈の御祈念抽丹誠相つとめ候處みな御本復被遊候。依之快宥生涯之内二人御扶持被下置候。○寶永四年御北家御知行所仙北郡長野村に於て、畠高三斗九升九合之處御除地になし被下居住仕候。

○五世大聖院宥端。此代御鎮守御代參等、御驗約に付御止被置候。

○六世長徳寺快典、號大聖院といふ。○明和三丙年、御北家御助成を以寺號御許容相濟候。

○七世長徳寺快侃。○八世長徳寺淳如。○寛政九丁巳年兜襟頭役被仰付候。

○九世長徳寺淳阿、當時現住。○文化九壬申年より兜襟頭役引繼被仰付候得共、病身に付文政五年御訴申上候。また拙寺山號之義は常州引越シ已來久米山と唱へ來候。然は於御北家金照寺に御預ケさし置れ候御鎮守久米愛岩山之儀は、往古拙寺別當職之義、由緒と共に前々申上候通に御座候。依之文化九壬申年御北家へ願上候は、古來之通御鎮守社務仕度段申上候處、至極尤なる願にて御座候間追付御沙汰之上御取扱可被遊趣被仰出に御座候得共、今に何之仰付も無之候。

○上掠所檀家村々は ○長野村 ○黒土村 ○金鏡村 ○館鄉村 東長野村之内 ○坂上村 ○同瀬川村。

○別當職社は ○館鄉村鎮守藥師堂 ○黒土村鎮守八幡宮 ○同村藥師堂 ○同村あみだ堂 ○同

村稻荷社 ○金鏡村鎮守八幡宮 ○同村諏訪明神社。

右 長埜邑久米山長徳寺修驗現住淳阿代也。

○紫嶋山慈恩寺修驗宗歷世由來

○當寺往古ノ開祖は覺勝道空法印にて、現住了海代までは凡四十一世に及ぶといへり。秋田城介殿代々
皈依にて、中興六世ノ滿香法印ノ代に、秋田家より慈恩寺と寺號は號のらせ給ひしよしをいへり。

○祇園牛頭天王 祭日六月十五日。

○紫嶋山三尊ノ觀音 中尊は正觀音、圓仁大師ノ御作也。左は勢至、右は千手觀音、みな新造の脇士也。

祭日七月十八日、神佛（ごま）に同殿の内にいつぐ也。また一山の靈符あり、ともに圓仁の御筆跡をゑりたる
いへり。六月十五日獅子頭をかゝふり惡魔障礙をはらひて、村畛まで笛、太鼓にはやしもて至る。

○末社虚空藏ぼさち 祭日九月十三日。

○末社愛岩山次郎坊 祭日六月廿四日。

○末社天滿天神宮 祭日三月廿五日。

○篠崎稻生明神社 此神の由意前（キ）に委曲に擧たり。

○掠所 ○袴田 ○谷乙森 ○長樂寺 ○齋内 ○大神成 ○遠藤野。

○慈恩寺中興開祖は明王院源知、○二世明王院源明○三世三明院宥香○四世壽明院圓長、元文中兜襟
頭役被仰付候。○五世三明院宥教○六世慈恩寺滿香、號壽命院。寶曆十一（辛巳）年寺號御許容相濟、安永年
中兜襟頭役相つごめ。○七世慈恩寺盛順○八世可了坊覺尊。文化元年遷化、後住僧無之拙寺看住被仰

付候。○慈恩寺看司花園村文殊院。○九世現住慈恩寺了海代。

修驗紫嶋山慈恩寺は往古開山（ヨ）四十一世、中興（ヨ）九世に至る也。

○善法寺 一向宗派

○一笠山善法寺、東本願寺末、中山は久保田、彌高山淨願寺。（倭漢三才圖會云、淨願寺在久保田、東本願寺派院家云云。） ○開基正慶也。此
寺回祿に及び記録焼失して、草創の時代遷化年代不知と見ゆ。

○開基正慶○二世玄海、天正九年巳正月十六日遷化○三世正珍、寛文四年辰三月廿四日化○四世正哲、
正保四年亥十一月廿八日化○五世正圓、延寶元年三月廿八日化○六世的山、元祿五年申二月七日化○七
世淨惠、享保十年巳三月十二日化○八世淨林、寛保三年亥八月五日化○九世淨空、寶曆五年亥十一月廿
四日化○十世淨圓、寶曆七年丑十二月十六日化○十一世淨音、安永七年戌七月十二日化○十二世現隆、
天明三年卯十一月四日化○十三世善隆、文政六年閑居○十四世現住惠隆、文政六年未三月十四日住職た
り。

○彌陀如來木佛一軀、御長々二尺五寸、惠信僧都作也。外に寶物等無之由也。

○曹溪寺 曹洞宗

○萬休山曹溪寺は角館久米山常光院の末山也。○本尊藥師如來、脇士は地藏、觀音、並木像なり。

○開山は覺山道天和尙、明和元年申七月十四日遷化○二世通關覺周和尙、寛政七年卯四月四日化○三世

大圓保忍和尚、寛政九年巳五月六日化○四世大透覺本和尚、享保三年亥四月朔日化○五世豊民善國和尚
檜木内村東林寺移轉○六世玉單大榮和尚、雲然村龍岩寺移轉○七世大光祖仙和尚、川連村龍泉寺移轉
文政三年辰三月五日化○八世寛惠智山和尚、田子内村來傳寺移轉○九世當時現住隨法大圓也。

○什物器

○涅槃像一幅 ○金佛誕生釋迦如來 ○達磨大師一體 ○大權修理菩薩一體 ○出山釋迦尊一幅。

○當山鎮守白山妙理大權現社、祭日あり。

○山下屋大野忠右衛門といふ家也由來話

○夜万斯多屋もと大野氏にして、上祖は大野丹波某とて、いにしへは白岩城主左近將監藤原有信朝臣の家臣たりしが、白岩の城主有信、卿滅亡の後、野中村の三棟といふ處に身を潜みて有つるが、そのころ長野ノ大に洪水ありて田畠うぼれ流て、村々の人ごらも住みわぶる折から、長野邑の傳右衛門先祖に名を與總といふ老あり。此與總いごゝ懇意ねもこうに、なにくれと、たのもしう、むつびあひて、與總の進めによて、長野の里に移りて九日町といふ處に家居しをれど、身のいと乏しう田畠とてもあらざれば、字地は極樂野また八乙女といふ廣野に折掛小屋を作りて、そこに身ひとつを内て、田畠を新墾してむと明くれ耕の道に心をゆだね、たゞひたふる鋤すきを捕りて塘を築き堰埭を作り械いばを立て、やをら其功成りて二

千刈斗リの水田を佃りえて、やがて名を長七と改ていよ、土民におちぬ。さりけれごそのとき開きたる水坡つみは丹波堤とて、今し世かけて、しか名を呼てなほ有なり。世の浮沉うきありて子孫に至りては、かの上祖の粉骨碎身かろうじてひらきたる田地も他家の人にわたりて功勳こうこんむなかりしを、曾祖父の代となりて、かの上祖の力を盡してひらきたりし田地を千刈斗取もどして、今なほ家に作り傳ふといへり。いにしへは武器、家系譜等も持つたへたりしふる家ながら、回祿ひのたかに傳らざるはをしむべき事也。その世にかしき物語あり。かの與總と丹波家は軒を並べて、朝夕にこととひかはしていと厚きまじはりたるに、あるとき鴉の頻に鳴わたるを、丹波心にやかゝりけむ異所よそ鳴々と申す。そは、禍もあらば他所の空に鳴といふ事を、なにのこゝろもなうあまたゝびいふを、與總是を聞て大にいきごほり、はらぐろにのゝしり、丹波鳴なと大音に叫び云ひあらかひて、それより中へだゝれば九日町を立しぞきて、六日町といふ處にうつり住すて、數代連綿に及ぶといへり。云々曾祖父早世して、兄弟三人たつきなう、いまだいとけなく世の業もいかゞと、二男傳八といふを、角館御地頭小野崎數馬殿の御やしきへ、やゝとし十二歳にて奉公に出せり。傳八すでに廿一歳に及ぶとし、御足輕より聳に乞はれしが此事いなみて、小野崎家より長のいとまを貰ひ家に飯り、兄に進めていへらく、かゝる處に居住すさふらふては、行末、先祖の舊功田取り戻す働きもおぼつかなし。よて、風井かぜいと申處に田地少はあるなり、此山下に引籠りて、是をたよりとて農業をもはら勵みさふらはゞ、いかでか及ばぬ事やはさふらふべきと進めても、それとおもむくべ

うけしきもあらねば、さもさふらはど、われにいとまを給るべし。われ一人かの風穴の山下に至りうち耕して試てむといへば、そのとき人々も、さるこゝろざしあらばとて、同意に母もろともにかの山下に至りぬ。かくて垣生の小屋をいとなみ住ぬ。前は大河後^ハは山にて、誠に世の外の一ツ家也。田畠足らざれば散田をとりて野菜作り、角館の肆^ちに出て是をひさぎ、髪はあぶらをぬらす、いなくきをもて髻をしめ、晝はいふもさらなり、また月の夜にも出て耕し此五とせ山下^ニに住て、其勳功成就^{なり}て長野に宅地を求め、かくて家造りて六とせといふを歴て、山下よりもこの郷に立飯り來ぬ。此五とせ山下の住居せしとき、下^ニ延、邑の與總兵衛といふ人なにくれとしたしまれければ、風穴の山下の田地はかの人^ニに呉れ置て飯りぬ。これを曾祖父の遺言には、世間にて先祖の譽れを苗字とし、あるは屋號に付て長く残しけるが多けれども、極難難せし事を云ひ残す事は少也。我^レは子孫の奢^リ慎^ミのため、已來、山下^ニ屋と屋號は付べし、ゆめくこいへり。その遺命を守りて、今もなほ山下屋と家の名ある事しかくこいへり。其節、家の再興を思ひ立し叔父傳八四十餘歳まで奉公し、やをら分家成りて、行年八十五歳に及びて死ぬ。其終焉の旦、庵室の僧をよびていへるは、我はけふをかぎりの命也、恥かしながら山賤の斧作りの辭世一首申たり。もとより無筆の身にてさふらへば、これをしかるべう御染筆給れかしと、ねもごろにいへれば、庵主、そはいとくやすき事とて筆を執りぬ。其歌に「我死なば葬禮略^クせ義理欠くなおなしけふりとたつは鳥邊野。」此ごとく二枚御した、め給るべし、一枚は吾が籠に張、一枚は持佛堂に残した

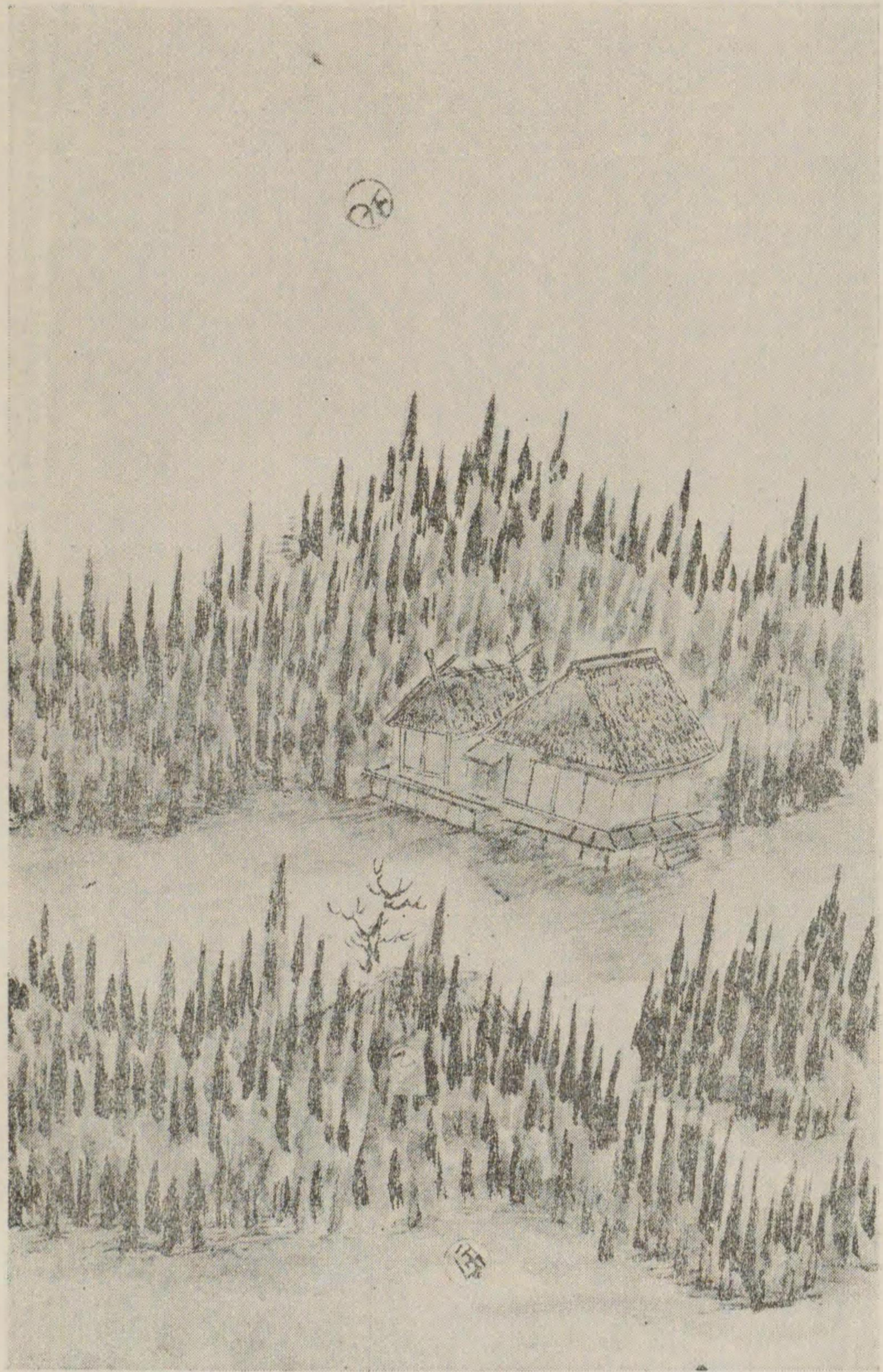


○長野御
其一
甲地無嶋の古城此井澤守
とて長野村を築き置て
乙長野村を築き置て
丙の宮舎あり降屋の
如く縣令の宮舎なり
丁川邊の長野寺あり
辛本御の観音あり
壬地無嶋の寺あり
癸地無嶋の寺あり
本寺の修驗あり
御作の寺あり
己長野の寺あり
壬の寺あり

長野郷 其二

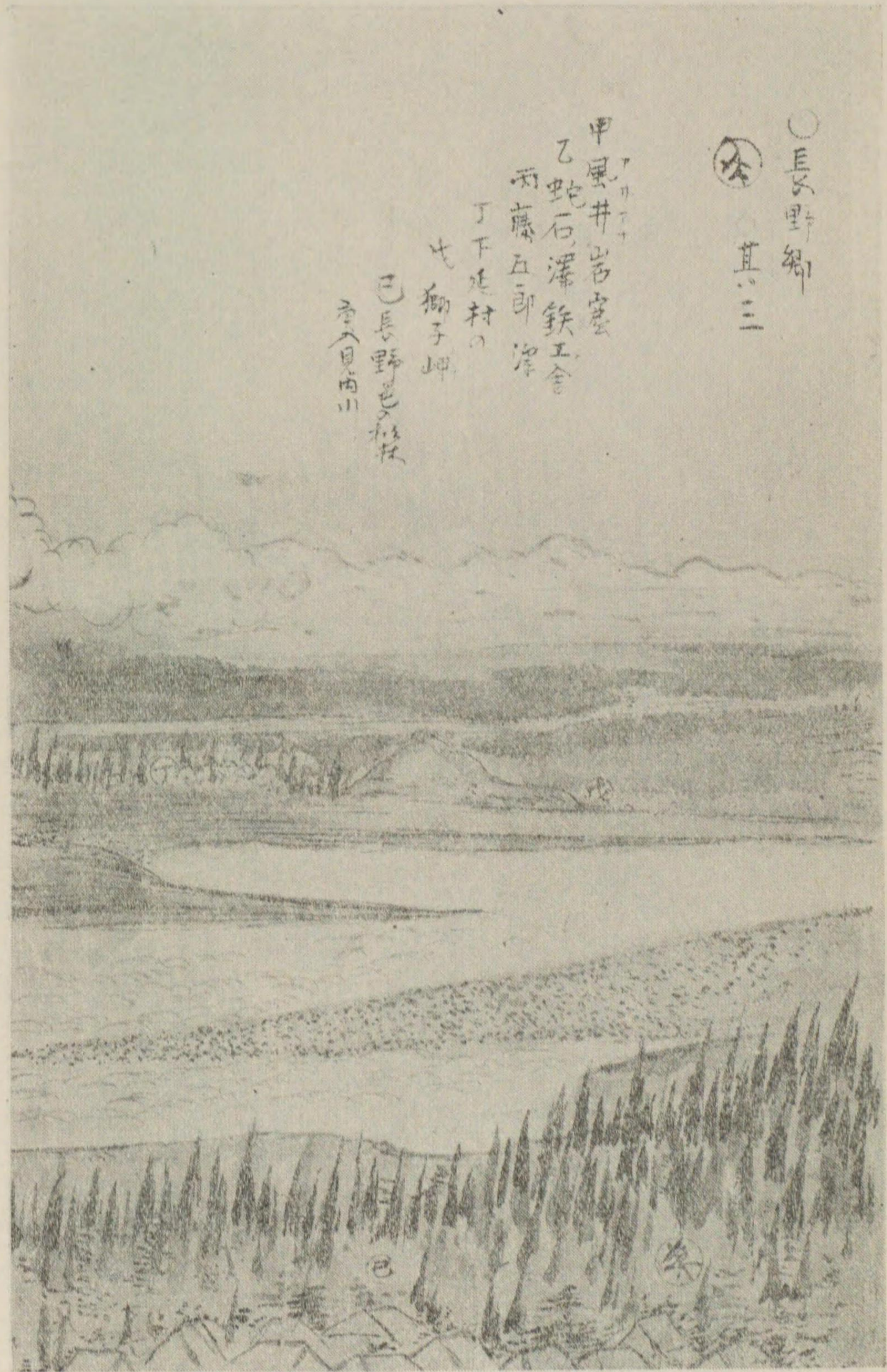


神明宮 祠官高野美佐頭
 地鎮座
 八幡宮春日明神
 御會殿
 本社船神
 田本社並小
 乙直會殿
 杉山之内



○長野郷
其二三

甲 風井山岩窟
乙 蛇石澤鉄工舎
丙 藤五郎澤
丁 下延村
戊 獅子岬
己 長野色林
庚 入見内川

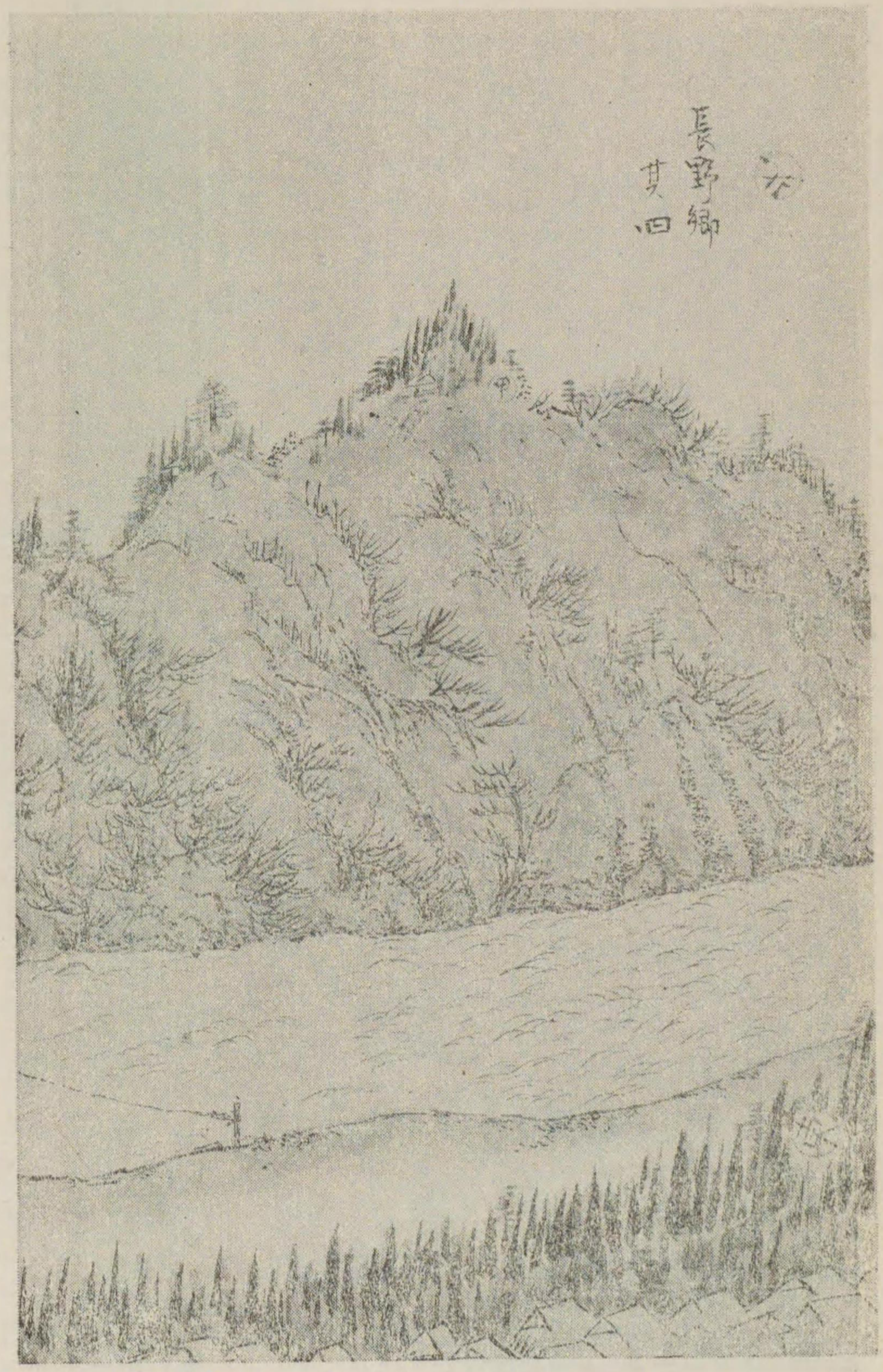


庚 入見内川
和利美那音
那音 河分
甲 阿八山山印
乙 凡井
丙 五郎澤
丁 王川
戊 甲屋井指石高
己 世木三ノ石



月出羽道(仙北郡廿四)

長野郷
其四



甲山嶽の蔵王社群
乙中山湖神社
辨財天の山嶽あり
丁の神嶽あり
玉川の岸邊あり
舟泊あり

此路橋名明神の
村あり和加の
已傳の村あり
進き世人の
多しあり
庚州の村あり
杉林あり

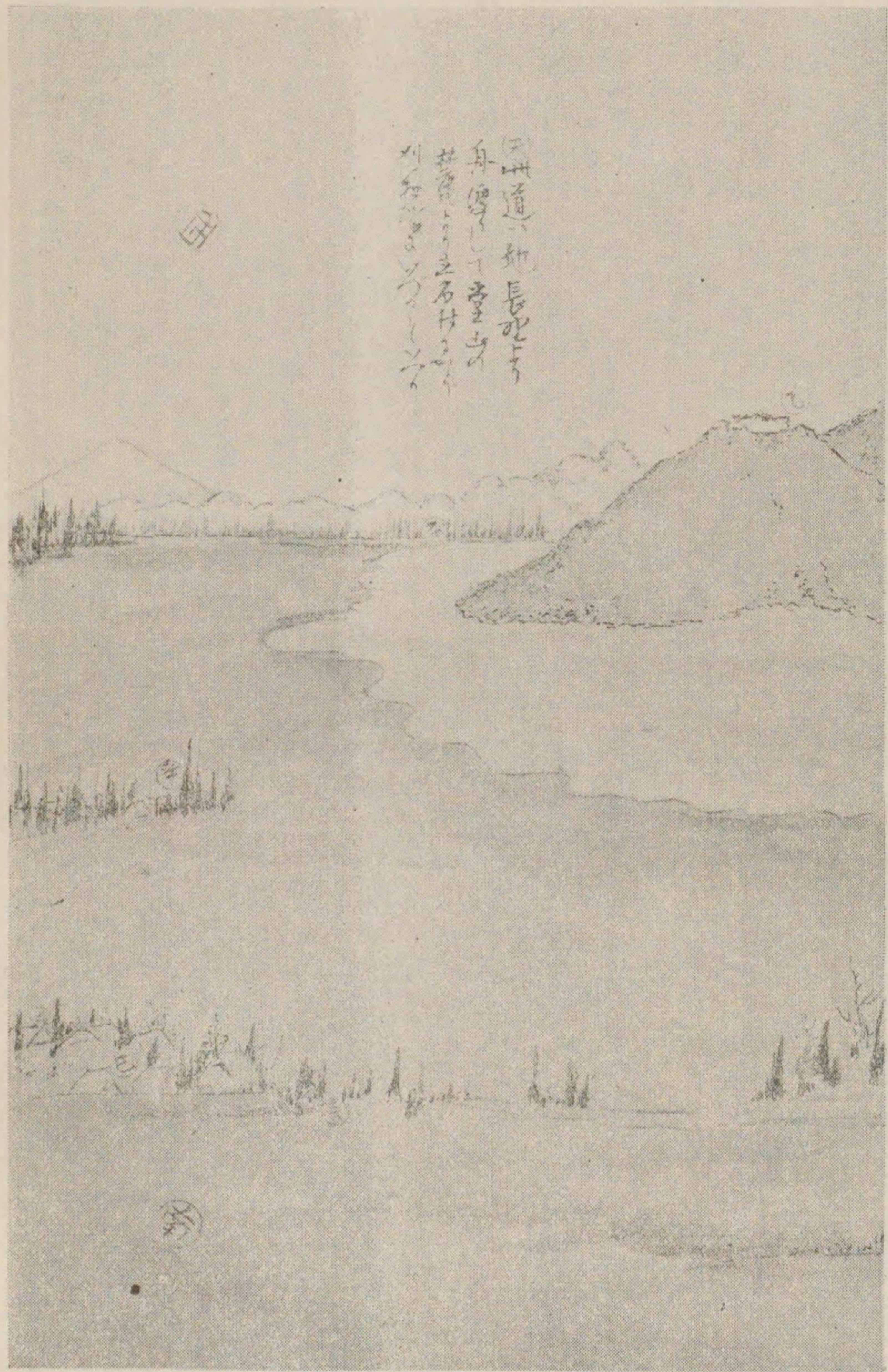
長野郷

其五

甲三石野種 長野郷
乙八石山 山嶺古城跡 茶屋
丙夜道 木立 一本 木立
丁石王川 成新 王川
巳野村 庄 野村
辛草部 林 庄 草部
癸茨城 分 庄
注 茨城の 野 庄



三州道 地長野
舟便 一 寺 山
井 庄 庄 庄
川 庄 庄 庄





きよし也。其辭世、歌、永く持佛堂に残りて今もあり、其勳功をおもふべし。こは山下屋のゆゑよし也。

○風竅あなさて岩楯の窟あり、蜀に風井ありて、冬は風入り夏は風出るといへり。此風井の下にて鐵を敲たたぬ。もと玉川村にてふきたりしが鐵砂のよからじとて、受う久くてふ塊鐵をこ國より求めて、みちのく人野田の玉川、邊に来て、永八といふ鐵工、四口の鞆たづしてふきぬといへり。

○田螺は産 「景政が片目を拾ふたにしかな。」とは、其角秀句あるその金澤の産にいやまさりて、淡海の片田はしらず、名産也。此あたりにて田螺たつほといふ、倭名鈔にたつびと見ゆ。同書に田中螺たつび、拾遺本草云く、田中螺其有稜者謂之螭螺和名太都比、螭音知見、龍魚類と見えたり。沼螺は左巻にして殼薄く、大なるものあり、さりけれど田中螺には味劣れり。

○總家員百廿八戸 ○同人員七百九十二人 ○同馬員九十七匹。

○八乙女再考

○八乙女は姓にも見え、また八乙女の浦あり。「雪の出羽路」雄勝郡高松日記に、八乙女村、古言梯云、をとめ、少女也云々。乙女と書は誤也、乙、假字は於登也といへり。また新撰六帖に「八少女の振てふ鈴のころく」と七、社は宮居せりけり。」また飽海、郡に八乙女の浦といふあり、海中に鳥居立りと三山雅集

に見えたり。また吳竹集に、神樂の舞姫なり、また、かぐらをどめともいへる也云々、と見えたり。また拾芥抄ニ云々、風俗部卅三在雜藝震筆如此乃字無之云々、此條に荒田、大乙、八鳥女と云へり、此村にては夜宇登米と云り。八乙女相模守、城趾は、金助といふが家の前畠なるよし、其處に、いようどめといふ字ぞありける也。云々と見えたり。

矢野のわかきさ

○鍵見内本郷村

(一) 屬郷十二箇村之内

里正 市右衛門 郎高橋氏 小松氏

○此村東は大藏村の七曲リといふ堰埭を田盼とし、西北は長野邑との境、また下川原、大道、齋内河落合まで盼也。南は四ツ屋村盼、野中河の端より會野、竹の花まで入會の地也。また東、方黒土村との堺は三尺村下堰、頭ヲ無シ、蛭川落合まで、また南は沖郷村、此邑堰を以て田境とすといへり。

○水元は黒土村、金鏡村の盼なる○一步清水。沖郷村の内○小清水。黒土村、邑杉村盼○川内池清水。野口村の内なる○平清水、○笹清水。此五泉を以て一郷の稻田を佃るといへり。

○鍵見内、同名秋田、郡久保田にもあり、元トは蝦夷語ヲうつりたる也、さりければところ々におなじ名ある也。此邑には由意有る事ともいへる也。

○享保郡邑記に鍵見内枝郷は、○前田○逢野○境田○石持○野中○豊口○幕林○嶋村○小島田○水上

○下大倉○板屋○鍛冶屋鋪○佐野○川戸嘉○星野宮。云々と見ゆ。今は此一、村より鍵見内沖村分て、村は兩村となれ、ば、支郷の名むかしとはことなれる也。今存在枝郷は、○野中村、家十二戸○小嶋村、家五戸○水上村、家二戸○寺村、家十二戸○石持村、家十一戸○前田村、家十一戸○境田村、家二戸○八丁田村、家一戸○谷地村、家三戸○矢野今は家なし○鍛冶屋鋪今は家なし○板屋村、家七戸○万願寺村、家三戸○七曲村、家四戸。ししかく、と見えたり。

○神社部

○一郷ノ總鎮守八幡宮 祭日八月十五日、別當修驗宗幕林山正光院。そもく此神社は、八幡太郎源義家朝臣の御草創也。そのよしは、いにしへ阿部統征伐のとき此地を陣場となして、木々の梢を幕串として陣幕を張わたし、あるは幄屋を作れり。そは、長野の原八乙女の城に、安倍の一族楯籠たりし世の事にてやありけむ。しかして後、その戦ひに、しかまのちかちをえて御誓報祭の爲、山城國嶋峯より八幡宮を遷し鎮齋給ひし舊地也と云ひ傳ふ。さるよしを以て今し世の人とらも、幕林の八幡宮とは、まをしならはしけるになもありける。其とき、疾鋒はこに八幡の二字ををりたるを神室に納め給ひて、それに舞獅子の得意とて、長野の郷の内五百刈といふ田地を御寄附給ひて、神獅子七村をくりぬ。社僧は眞言宗派にて上洛山源勝寺といふを建て、永く八幡宮を守護させ給ふほどに末世となりて、源勝寺の住僧いづちにか逐電、その寺は無住ければ、寺の近隣なる土民半内といふに八幡宮を守護させ、また、かの寺をも守ら

せけるほどに、神慮いかゞありけむ、半内、重き病して死亡ぬ。後なければ、神宮もとしくぐに零落もて行を人々恐み、半内が族なる杵右衛門といふがもとに再び是を守らせて後、八幡宮の古記、神録書ふみごもゝみなちり失て、今は社領等もあらざなる也。神社等もみなこぼれはてぬ。かくて後杵右衛門に娘あり、大姉を廣久内邑の久兵衛がもとへ婚姻たり、しかして男子ひとところ生れぬ。此男子を女のいざなひ來ければ、初孫に男こそ能くは産つれとて、人みなよろこぶ事かぎりなし。杵右衛門歡びのあまり、かの御神寶の、御銚に八幡とるたるをどうでて、是行末長く身の守りともなる銚也、かまへてく尊持べしとて孫に呉れたり。銚を、今し世の人からは銚とのみぞ云ひける、さるよしを以て、銚は近き世の制といへり。それは、いさゝか制作の異のみにて銚の形にことならず、刀は片薙の劔なり、それに横刀、うちがたななご品くの名多かるが如し。此銚は今廣久内村、久兵衛が家に在りて、瘡する人あれば此銚影を水にうつして飲しむれば、ふくひのかげもなうおつといへり。此あたりにては、瘡の事をふくひといふは、震ひを詛りて方言にや。此御神寶を神前に備奉りたく、此邑より廣久内村なる久兵衛がもとへ再三も申つかはせど、いくばくのとしを経て今はわが家の重寶となれば、なかく返しがたきよしをいへり。寛政二戌年、八幡宮の拜殿や、再建せしときもしかく申つかはしたりけれど、いなみ聞えて返す事ゆめくと申せば、ふたゝび縣令の力を添へ給へども、神銚御神寶と相成るべうも見えず、神慮のまにゝさちもあらば、玉くしげふたゝび、八幡宮の御神寶とも成し奉らむ事をこひねく。

そは、むかし恐れもなうもてわたりしを、神のみいかりなどにて、さる、まがくしきわざもありけむものか。なほかしこみ恐るべし。

- 嶋、諏訪大明神 一戸鎮守、祭日七月廿七日、齋主小松市右衛門。
- 大根田、諏訪大明神 一戸鎮守、祭日七月廿七日、齋主高橋佐介。
- 小鳥田、千手觀音社 一戸鎮守、祭日正月十七日、齋主兵右衛門。

○寺院部 ○聖光院修驗宗累世由來

○幕林山聖光院は鎮守八幡宮、別當職にて、いにしへの源勝寺の社僧の如し。さりけれど古記録さらに傳らず。○中興開祖は聖光院宥光法印、享保十九年甲寅十一月廿一日遷化○二世聖光院宥圓、元文三年戊午五月十四日化○三世聖光院快林、天明五年乙巳十二月六日化○四世聖光院快愍、享和三年癸亥四月廿日化○五世聖光院快度存○六世現住聖光院快峯也。

○當院に記録一卷あり。其記に、○當社八幡宮草創の由來は、寛治五辛未年鎮守府將軍源義家公羽州仙北郡山本ノ郡なるべし、慶安の頃まで山本ノ郡たり、委曲羽陰史略等に見ゆ。山北北郡もと郡の名にあらず、三代實錄等には山北ノ雄勝、平鹿、山本三郡と見えたり。金澤柵を御征罰のとき、武衡、家衡、寄木館の惡徒等同郡茶臼森八乙女なるべし。近世に茶臼館、茶白山、茶白嶽などいへれど、茶磨の制作は近世なるべし。茶磨は茶録に茶碾と見ゆ、宇治の朝日山より石を産といへり。に楯籠り居て、民家を愕然し強盜する事、日々にいやまされり。これにて將軍、士卒をめし出して是を責め破らしめ、將軍此地に陣を張り、金澤没落の後將軍ふたゝび此處に御馬をとめて、御上洛のとき、桑門をめて身

の穢不淨をはらはせて、後一字の神殿を御建立ありて田畠を寄附給ひ、一刃の御鎧を御正體として是を納め給ふ。そのよしをもて、鑑見内とは今地^二の名におへる也。御幕張^リ給し地^二は、木々ども繁りて一林をなせり、さるよしをもて今幕林とはいへる也。その幕串は、いくばくのごしを経て今は大杉と成れり。また近き世の事から、角館、城主戸澤、九郎平盛安、檜岡が進めに依て大築地織部を攻むと欲しごき、こは、かの居城沼館は、そのむかし清原家衡が根城ゆゑ、幕林の宮の先例よしとて盛安自筆願書を認め、戸澤を始め小笠原等も矢を納めて後、長野村の田地五百刈を寄附ありといふ。今なほ五百茹田とてその田地あり。また文祿の年智肝和尚、禪法を弘めむがためとて此所に居住すといへども、住所もそれご定らず、さるゆゑ御正體をはじめ、戸澤盛安の願文等もみな紛失たり。その禪寺は今に残れり。また稀に小田を開きて神供料をもごむといへども、それごさせる證文もあらねば、慶安年中御竿にて没地となりぬ。寛文年中本社造營の時、大願主久保田關七右衛門直堅厚き由緒ありて、神供料として三斛の米永く寄附ありて、今に所務の所也。もとも御造營の時も浅からぬ御助力ありて、一戸の鎮守の如く崇敬ありける事也。さるよしをもて、ごしご武運長久の御守札等もさし上^レ來れる也。○いにしへは眞言、中古は禪林と成りし源勝寺、後もしばしは別當職をつごめたれども、其世の棟札一枚も見えざる也。○寛文十三丑年八月十五日、棟札、施主久保田住關七右衛門直堅、同彌兵衛直昌と記したるが一枚あり。それよりこなたも遷宮のをりご、關氏より格別の助力を得て再建いたし來る也。^二云々ご見えたり。ま

たある家に残る記録一枚あり。そのひとひらの記に、

○仙北郡鑑見内村幕林八幡宮、記文 康平四年七月下旬源義家公、阿部貞任、宗任御追討、貞任は秋田郡男鹿ノ嶋に逃籠る、則四天王を以て是を搦め捕る。宗任は仙北ノ陽ノ森^{柳の森、亦楊のもり、また、た、りうの森とも見ゆ}の水上、茶磨ヶ嶽に楯籠る。かくて義家公、鑑見内村にして御陣幕張めぐらし權^リの御陣營をなし、此軍に勝利をえて御上洛の刻に草庵あり、庵主をめし出て、御祝言として青銅百匹たまはりまた御鎧一筋を給はる。此因縁を以て、草庵を五洛山^{上洛山をしかあやまれるか}源勝寺といふ寺となし、また陣所の迹に八幡宮を草創あり、幕林の八幡宮是也。鑑奉納ありけるをもて、村を今鑑見内といふといへり。また天文二十年正月五日、戸澤左近入道成道公長野ノ郷に於て五百刈の神田を御寄附ありしが、其證文愚僧が師の代に焼失せり。また天正九年に智肝和尚といふ禪僧うつり住て、源勝寺禪宗となりぬ、むかしは眞言、寺たり。○祭禮四月五日、八月十五日^{今は八月斗也}、一年に兩度也。神獅子舞あり、首途は七月廿八日、長野村、館野郷村、黒土村、大倉村、高關村、四ツ屋村、鑑見内村、此七ヶ村幕林掠也。また、慶安年中御神供料とて少田これありしが、その證據とてあらねば御役高と成りさふらひし也。是は愚僧末世の爲中絶の覺書也。慶安四年卯八月十五日 住僧是眞花押^{云々}と見えたり。またある記に、○源勝寺は文政九年多寶院の加院と成りて、兩寺今は一寺の内に屬^まり。中頃までは兩寺共に平僧のみ住みたりしが、一ヶ寺となり久保田ノ檜山^{マ、}

○自覺院 修驗宗

○東光山自覺院、開山○大法師相覺、寶永六年己丑十一月廿五日遷化○二世權大僧都宥堅法印、享保十年乙巳五月十一日化○三世權大僧都宥覺法印、延享二年乙丑五月三十日化○四世權大僧都宥元法印、寬政八年丙辰八月二十日化○五世大法師宥慶、文化元年甲子五月廿五日化○六世現住權大僧都淳英法印也。

○當山鎮守毘沙門天 別當山主也。

○多寶院 曹洞派 歷代

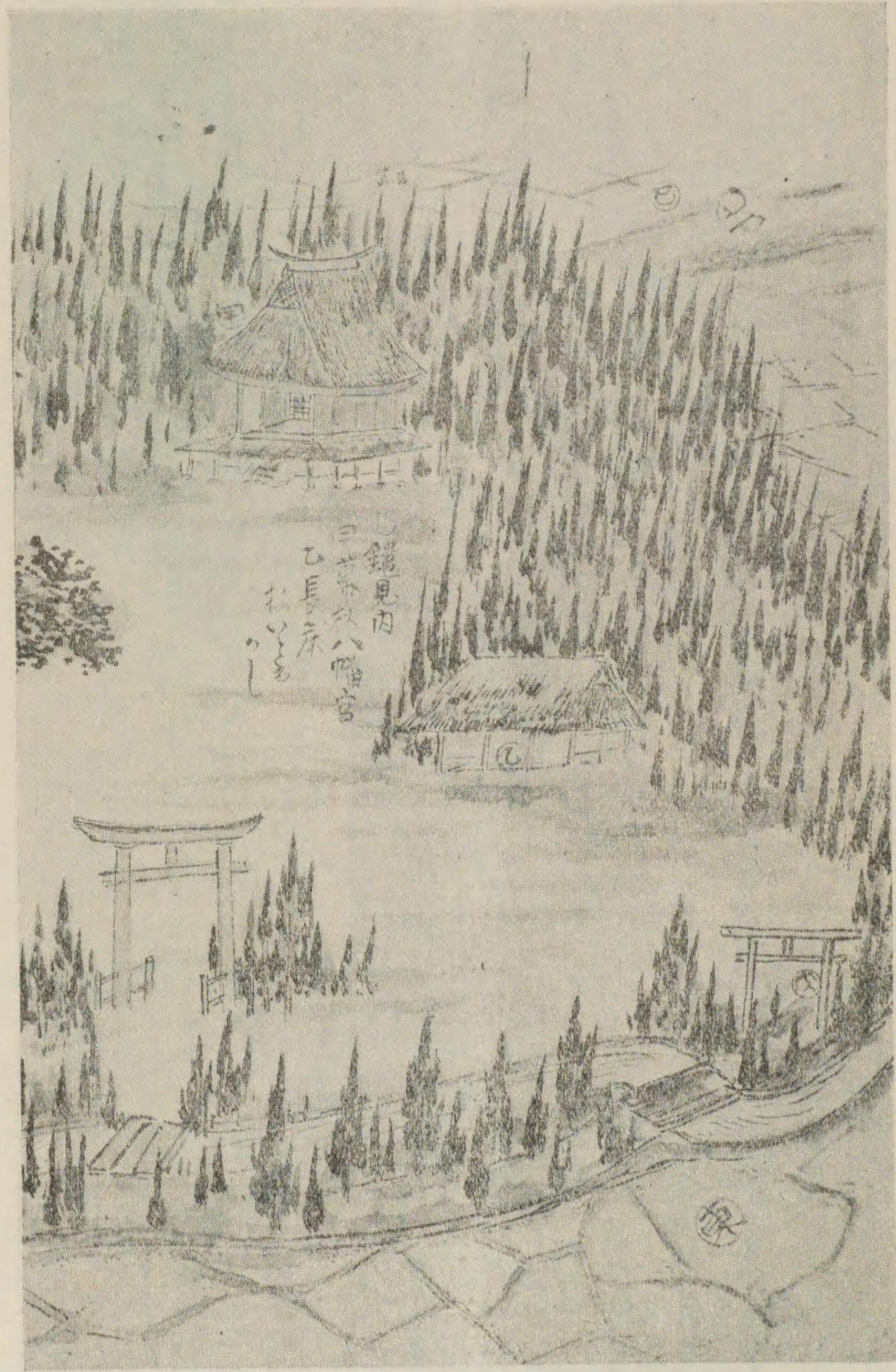
○毘沙門山多寶院、當寺○開山は長泉寺、二世廓山通門和尚、寛保三年癸亥八月八日遷化○前任見光昌全首座、享保廿一年丙辰正月六日化○前任泰岩實全首座、延享四年丁卯四月廿四日化○看住大空禪海首座、文化三年丙寅四月廿四日化○法地開祖獨圓覺明和尚、此師長泉寺、六世也、天明二年壬寅七月廿六日化○二世、長泉寺八世獨龍巨海和尚、存命○三世、長泉寺九世實參賢明和尚、存生○四世現住探能良源和尚、文政十年丁亥七月七日天德寺會下_リ當寺に晉山_{云々}と見えたり。

○當山鎮守毘沙門天 別當山主也。

○總家員七拾三戸 ○同人員三百七拾一人 外百廿九人 鍵沖村分 ○同馬員六十二匹。



月出羽道(仙北郡 廿四)



淤米の河波

○大藏村 (二) 屬郷十二村之内

里正 五郎左衛門 伊藤氏
藤右衛門 伊藤氏

○此邑東は沖郷村田畛、西は鑑見内村、田畛、南亦沖郷村、田畛也。北は黒土村境、おめ川といふ堰あり、是を貯とすといへり。○水源といふは國見村より○磨清水○小清水、此二寒泉をまかせて佃るといへり。○大藏、大倉いと多かる名也。○享保郡邑記に○大藏村家員十二軒、○枝郷○鶴田、六軒○七曲、一軒○幸野神、六軒と見ゆ。○今在字地、○上大倉○下川端○沼田○鶴田○幸神○田中○中村○後谷地○南田云々。此字地はむかしは家ありし迹多し。

○神社部

- 毘沙門天社 一郷、鎮守、祭日六月三日、別當修驗滿德院。
- 上大倉、天神宮 祭日三月廿五日、別當並同。
- 下大倉稻荷明神 祭日十月十日、一戸鎮守、別當滿德院。
- 上大倉稻荷明神 祭日十月十日、一戸鎮守、齋主彦右衛門。
- 下大倉稻荷明神 祭日十月十日、一戸鎮守、齋主伊勢松。
- 阿彌陀社幸神といふ所に座り 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主市左衛門。

○寺院部 ○滿德院 修驗宗也

- 願應山滿德院、由意さだかならず。○開基法積院雅瑜法印、慶長二年丁酉八月廿五日遷化。
- 二世滿德院宥海、慶安二年丑二月八日化 ○三世法積院宥哲、万治二年亥十二月二十日化
- 四世滿德院覺宥、貞享二年丑六月十四日化 ○五世法積院光宥、寶永四年亥二月十七日化
- 六世滿德院宥本、享保十六年亥九月六日化 ○七世滿德院宥耀、寶曆十一年巳八月廿九日化
- 八世法積院宥譽、天明六年午十月七日化 ○九世滿德院快賢、寛政八年辰二月九日化
- 十世滿德院節應、當時現住、僧也。

○大藏院 曹洞宗

- 松尾山大藏院は同郡駒場村、雲昌山龍像院、末山也○開山、斧岩嶺銚和尚、遷化年月不知、忌日十九日。
- 二世喜外察了和尚、慶安五年辰正月十三日化 ○三世歲室參堯和尚、寛文二年二月朔日化
- 四世檢岩順禮和尚、天和三年亥四月十日化 ○五世大安玄海和尚、正徳六年申正月廿日化
- 六世尊雲參洞和尚、寛保四年亥正月七日化 ○七世見牛活用和尚、天明六年午九月晦日化
- 八世普觀了智和尚、天明八年申五月十九日遷化 ○九世智圓大鏡和尚、當時現住、僧也。

○總家員三拾七戸 ○同人員百七十五人 ○同馬員三十八匹。

雪の中河

○下沖、郷村

(三) 屬郷十二村之内

里正 三郎 右衛門 小松氏
左衛門 佐々木氏

○此村東は上沖、郷、西は四ツ屋、南は鑑見内、沖村、北は鑑見内本郷村也。享保郡邑記に沖野郷と見ゆ、中頃野の字省て沖、郷とし、また上下二村に分れてり。○枝郷○萬願寺村、家六戸○仲川村、家四戸○中嶋村、家一戸○沖田村、同四戸○田中村、同三戸○大ふけ村、同七戸○南谷地村、同二戸○北谷地村、同一戸。

○神社、部

○一郷、總鎮守八幡宮 祭日八月十五日、齋主勘九郎。

○神明宮 祭日七月廿一日、齋主三郎右衛門、左左衛門。

○薬師如來、社 祭日八月八日、齋主藤重郎。

○稻荷大明神 祭日十月十日、齋主喜左衛門。
此社に久保田御地頭江尻龜吉殿より、祭禮の日御齋花として米一斗五升永く御寄附ありといへり。

○水元は上沖、郷邑の天王清水、また駒場村の三泉をひきて此一村の千町を佃るといへり。

○總家員廿八戸 ○同人員百五十三人 ○同馬員五十七匹。

霞む嘉戸川

○鑑見内沖村

(四) 屬郷十二箇村之内

里正 權 之 丞 柳田氏

○此村、東南、方は横堀村に中り、西北、方は下沖、郷村にあたり。享保郡邑記には鑑見内とて一村見えたり、近年に鑑見内本郷とし鑑見内沖村として二村に分れてり。さりければ字處、一戸の齋神もまた、ことなれるやうなれども凡おなじかりき。

○枝郷 ○万願寺村家居なし○石神村、家七戸○沖田村、家五戸○嘉戸川、家七戸○星、宮村、家七戸云々。

○水源は ○野口村の笹清水○駒場村の窪堰川○横堀村大野川清水○板見内村の河掛り也。

○神社、部

○暮林、八幡宮 一郷、鎮守、祭日八月十五日。別當鑑見内本郷村正光院。此鎮守は本郷の宮地ながら、いにしへぎまに兩村の鎮守といた、きまつれり。

○石神、八幡宮 一戸鎮守也、齋主里正權之丞。

○万願寺村、大日如來 一戸鎮守也、齋主利右衛門。

○嘉戸川水神 一戸鎮守也、齋主喜右衛門。

○星宮大明神 一戸鎮守也、齋主市郎左衛門。

廿一卷横澤村「しらはた清水」のまき、横堀村「星のみやしる」のくだりに星野宮村十八戸々々に見ゆ。此星宮といふ地は元龜、天正の頃までもいづく廣きあら野にして、その野中に星のおちたる地あり、そこに社を造て、星の宮とて是を祭りし處といへり。星祭は、月々の廿八日を以てもはらとせり。月に三日の禮式も、朔日は日の盛り、十五日は月の盛り、廿八日は星の盛りを祭りて祝ひぬるは、ときはかきはに、君を八千代といはふころ也。いにしへありつる星のみやごころは田に佃られて、其跡さへさだかならざるよしを語る。此村の地畛は鑑見内本郷にもわたりて、そなたの村にも星宮といへる、小村にてあり。また其村なる市郎左衛門といふ家の、一家の鎮守といひて星宮を鎮齋といへり、なほその處にもいふべし。いづこにてまれ星といふ名に負る地は、星の降りしといふ地をいへるなるべし。式に星川神社見ゆ、光俊卿の歌に「明ぬとて空さかり行星川に我さへかけや見えざるらむ。」星崎の浦、星の社は尾張國に在り、むかし星の落_レ地といふ。墮星化石といふ事、からふみに見ゆ。また伯耆國會見郡に星川あり、三河國加茂郡に星野あり、また星野の池あり、伊勢國朝明ヶ里に星川あり、また星川の明神座り。また日光名跡誌に星宮見ゆ、本尊天童子形虚空藏菩薩也。おなじ宮つゞきに、此山の出家入峯のとき勤行の堂あり、星の宿といふ。云々と見えたり。長物語ながら、いまだそれとも、えしらぬ人とのためにしるしぬ。こは、おゆのぼけくしき事と、な笑ひたまひそゆめく。

○總家員廿六戸 ○同人員百三十人 ○同馬員十七匹。

さ、清水

○野口村

(五) 屬郷十二箇村之内

里正利

助細高氏

○此村東は國見村田畠混雜、西は築場新田村田地混雜、南は駒場村田地入交り冷上川畛、北は沖、郷村此村の間に清水河あり、是を畛とせり。○享保郡邑記に、○野口村六軒○四ツ屋村四軒○石田村四軒○江鳥村二軒○二ツ屋村二軒○龜谷澤村三軒○大形村四軒○七ツ鎌村四軒○相野村一軒○田中村一軒○天王村一軒○谷地村一軒云々。○今在枝郷○赤坂、一戸○石田、四戸○飯嶋、三戸○二ツ屋、一戸○龜ヶ澤、七戸○七ツ釜、七戸○大形、五戸云々。むかしとは文字の書さまはじめ、いとくことなる也。
○水元清水五泉あり、○麻呂清水○里清水○笹清水○平清水○窪堰云々といへり。
此丸清水、里清水、平清水、さ、清水、窪堰餘水落會ひて、そをなべて窪堰と名て、高關村、花立村までの稻田にかゝる水上といへり。

○神社部

○熊野大權現 一郷總鎮守、祭日九月九日、別當大藏村修驗滿徳院也。

- 内城神明宮 祭日六月十六日、一戸鎮守、齋主万右衛門。
- 内城薬師如来 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主多左衛門。
- 摩利支天 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主市太郎。
- 稻生大明神社 祭日二月初五日、十月十日也、一戸鎮守、齋主久三郎。
- 出雲明神 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主並同。此社は素戔嗚尊を鎮齋奉るにや、丹波、國桑田、郡の一宮にも出雲神社あり、由意ありて此御社などを遷し奉りし事か。

平、好井

○築場新田村 (六)

屬郷十二村之内。小郷故野口村に加郷たり

里正 野口理

介 細高氏

○此村東は野口村田畠混雜、西は下沖、郷村田地入會、南は横堀村、鑑見内、沖村畷、北は下沖、郷村、田地入交りたり。少村なるをもて野口村に加はる一郷ゆゑ、里正も野口村よりつとむといへり。

○源はひら清水一泉にかきれり。

○神社部

- 郷中鎮守稻生大明神 祭日十月十日、祠官高野美作正分家高野伊賀正。
- 彌都波能賣社 内城に鎮座、祭日四月八日、齋主總太郎。

○總家員七戸 ○同人員卅一人 ○牛馬養柵なし。

澤田のゑぐな

○上沖、郷村 (七)

屬郷十二箇村之内

里正 喜

助 佐藤氏

○此村東は國見、西は下沖、郷、南は野口、また國見村、北は邑杉村などにあたれり。○枝郷○切上、家八戸○後村、家二戸○天王寺村、家二戸○細田村、家五戸○寺村、家二戸○大清水村、家三戸○堰合村、家二戸○館越村、家四戸○澤田村、家一戸○水畑屋村、家六戸○禰宜田村、家二戸○新所村、家二戸○桑田村、家一戸云々と見ゆ。

○田畠字地 ○春日○南田○館越○桑田○水畑屋○堰合○切りあげ○あらご云々と見えたり。

○六泉を水元といふ ○天王清水○春日清水○磨清水○小清水○中、清水○雷清水、是をもて千町を作るといへり。

○神社部

- 郷中總鎮守祇園牛頭天王宮又名武塔天神 祭日六月十五日也、齋主九兵衛。
- 切上、稻生大明神 祭日十月十日、齋主喜介。 ○白山明神社七尺四面 祭日九月七日、齋主並同。

○從三位勳五等大物忌神を遷し齋る鳥海山也齋主並同。○寺村、春日明神社 齋主長左衛門。

○霹靂社 齋主並同。○稻荷大明神社 齋主佐左衛門。

○雷公社 齋主並同。○古ノ毘沙門天 齋主又右衛門。

○細田水神 齋主兵右衛門。○澤田、稻生明神 齋主作右衛門。

○澤田、雷光社 齋主作右衛門。○堰合、罔象水神也社 齋主儀兵衛。

○同地春日明神 齋主並同。○水畑屋、若宮八幡宮 齋主吉兵衛。

○同地荒神社 齋主五郎作。○水畑屋、雷光社 齋主藤三郎。

○阿彌陀如來堂 齋主佐平。○道祖神社 齋主市五郎。

○桑田豐隆權現雷公也齋主吉兵衛。○禰宜田、觀音堂 齋主並同。

○大清水、大日如來堂一間四面齋主三左衛門。○阿良登許、大石明神 齋主佐左衛門。

○嚴祇社 齋主七郎兵衛。

古事海府に雄雷、雌雷を分てり。此あたりに雷公社多かるは霹靂祭リせし地也コといへり。並て廿四社の神鎮座り。

○東 光 院 曹洞派

○柳重山東光院は禪林也、本山は梅澤邑、天正禪寺也。

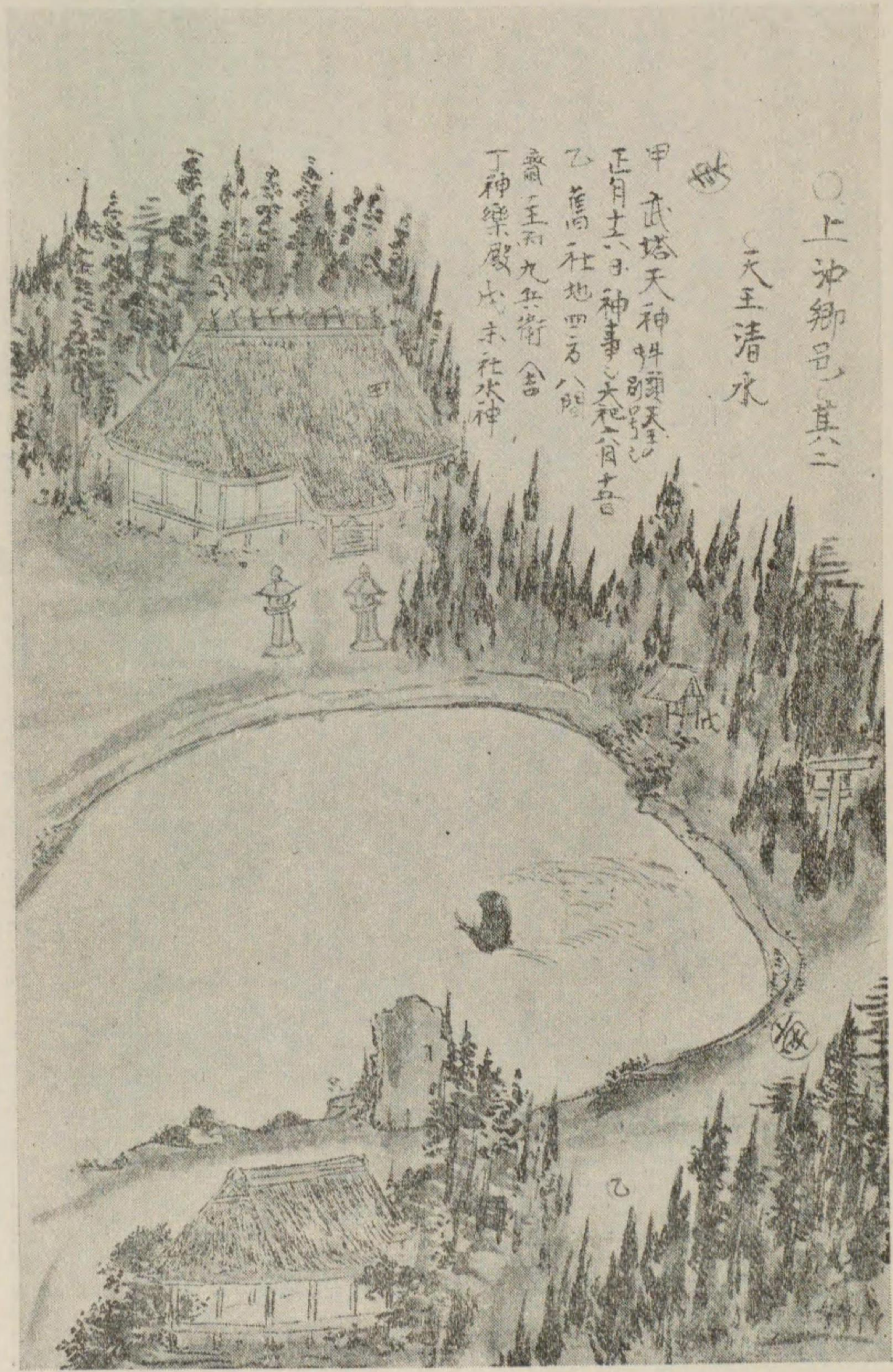


月田羽道(仙北郡 廿四)

○上池郷邑其二

天王清水

甲 武塔天神神蹟
正月上子神事
乙 舊社地四方
齋王和九兵衛舎
丁 神樂殿 未社水神



○開祖は○直心祥達和尚、元和九年癸亥十月十五日遷化○二世太岩和尚、寶永二年乙酉二月二日化
 ○三世哲相和尚、正徳元年辛卯七月廿五日化 ○四世活玄和尚、正徳五年乙未三月十五日化
 ○五世海田和尚、享保十八年癸丑五月廿五日化 ○六世白心和尙、寶曆十一年辛巳三月廿八日化
 ○七世鐘庵和尚、明和二年乙酉正月廿一日化 ○八世來觀和尚、明和八年辛卯六月十二日化
 ○九世良心和尚、文化元年甲子八月七日化 ○十世鐵心和尙、文化九年壬申七月十日化
 ○十一世泉山和尚、文政三年庚辰九月廿三日化 ○十二世、當時現住、僧選領也。

○總家員三十八戸 ○同人員百九十六人 ○同馬員卅二匹。

あら田の清水

○村 杉 邑

(八) 屬郷十二村之内

里正 佐 兵 衛 氏安部

○此村東は國見、南は沖郷、西北は黒土村に中レり。○水元、國見村盼あら田の清水、また村の内なる磨清水、此、二泉の水もて數千町の稻田を作るといへり。○村杉、元むらさき群楡也、同名秋田郡杜良山の麓にも、むかし遠東にも作れり藤邑、群杉邑とて二村並てありつるよし。

○枝郷 ○上村○中村○駒坂村○下村○中屋鋪村○横枕村。云々と見ゆ。

○享保郡邑記、○村杉村家四軒○下村、家三軒○野脇、家四軒○駒坂、家二軒○田中、家二軒○横枕、家三軒。云々と見えたり。

○田島字所 ○山路の北○あら田の清水○杉の下ダ○駒坂○向ヒ田○水後リ○山路の角○田中窪○山路の南○中屋鋪○横枕○大向ヒ○根堀谷地云々。

○寒泉 ○新田あたの清水○販り柳の清水○麻呂清水○金池清水○彌藏清水。此五泉也。

○神 社 部

○白山宮 あら田清水内ニ鎮座、一郷の總鎮守、神也。別當板見内村修驗觀正院也、神祭八月八日。由意ある神社のよしをいへり。

○安良田、好井おがみ靈神社、社龍神也 一戸鎮守、齋主上村、甚重郎。

○同地稻生明神 一戸鎮守也、齋主駒坂、長之介。○下村稻荷明神 一戸鎮守也、齋主佐兵衛。

○中村八幡大神宮 一戸鎮守也、齋主彦三郎。 ○杉下、白籬宮 一戸鎮守也、齋主上村、伊兵衛。

○駒坂、觀音 一戸鎮守也、齋主中村、彦八。 ○中屋鋪、山王宮 一戸鎮守也、齋主田中、丈介。

○多那迦、稻生明神 一戸鎮守也、齋主田中、丈介。

○總家員十七戸 ○同人員七十五人 ○同馬員拾七匹。

つゞきはし

○黒土村

(九) 屬郷十二箇村之内

里正 兵右衛門 伊藤氏

○此村、東は國見、西は長野、南は村杉、大藏、鑑見内畛、北も長野、東長野、金鑑村畛也。くろつちも多き村號也。○享保郡邑記に、黒土村家員廿一軒、枝郷○野口村、二軒○高谷村、三軒○道万村、一軒○坂合今は板屋とあり村、三軒○二部村、家三軒○前村、四軒○三尺村、四軒。云々見ゆ。今存在枝郷いさゝか異れり、○本郷黒土邑、十五戸○野口、一戸○板屋、二戸○中谷地、一戸○高野、四戸○三尺、九戸○中村、三戸○谷地、六戸○道萬、二戸○金池、二戸云々。

○田島字地 ○大沼、清水あり ○塚下 ○野口、國見下關に菖蒲清水あり ○飯柳、清水あり、兩村の水元也 ○野ふた添ヒ ○新山 ○つゞき橋 ○竹ヶ鼻 ○狐森 ○殿村 ○清水屋鋪、小沼清水あり、鑑見内村、水元也 ○一部、大清水あり、鑑見内、四ツ屋兩村、水元也 ○尻長 ○板屋 ○橋本 ○上谷地 ○橋本中谷地 ○上野、村杉に水元、清水あり ○はしもと ○下谷地 ○下野の野 ○三尺杉下 ○三尺中谷地 ○道万中谷地 ○寺屋鋪 ○道万上谷地云々見えたり。

○一郷鎮守八幡大神宮 諏訪大明神 御會殿 祭日八月十五日、別當長野村修驗長徳寺。

○狐森稻生明神 別當並同。 ○寺屋鋪、富士權現 齋主多三郎。

○一部、薬師如来 別當長徳寺。 ○館屋鋪、薬師如来 齋主助重郎。

○三尺、阿彌陀如来 別當長徳寺。

○總家員四十五戸 ○同人員二百四拾二人 ○同馬員五十二匹。

こかねのみいけ

○金 鑑 村

(十) 屬郷十二箇村之内

里正 喜市郎 高橋氏

○此邑東は國見下、關村畛、西は東長野村畛、南また國見下關、黒土村畛、北もまた東長野邑畛にわたれり。そのいにしへ源義家朝臣、障泥あぶりしきて、舌長あぶみを柳の枝に掛て息らひ給ひし地なりといへり。むかしは武藏鐙をはじめ木鐙がいと多ければ、金鐙とわきては云ひて、今は村名とよぶに、あは省て、かなぶみとはいへる也。

○枝郷 ○内野村、家一戸○野蓋村、家八戸○下村、家二戸○上村、家五戸。四ヶ村也。郡邑記に在る後、村は、今は川原となれり。

○田島字地 ○内野○野ふた○南田○金池○谷地○下村○上村○小袋○大清水○大柳あぶみかけ柳 ありし迹にや○

十六清水云々

○水元三箇泉 ○大清水、國見下關村より涌出る泉なり。○喜右衛門清水、ゆるよし上におなじ。
○八幡清水、鎮守の社地に湧きづる清水也。

○神社部

○八幡宮 一郷、總鎮守、祭日八月十五日、別當長野村長徳寺。

○諏訪大明神 祭日七月廿七日、別當並同。

○埜蓋、霹靂社 かみとけまつり也、一戸鎮守、齋主彌左衛門。

○内野、雷光社 上におなじ、一家、鎮守也。齋主五郎八。

○總家員十六戸 ○同人員六十二人 ○同馬員十五匹。

をだのしろかね

○館、郷村 (十一) 屬郷十二箇村之内

里正 權重 郎 熊谷氏
長 之 介 同苗也

○此村東は谷地乙森村、東長野村、西南に亘りては金鏡村、長野村、遠藤野新田村、下延村、北は鶯野村、また袴田なる田畠河野川原、村畛入會混雜せり。○枝郷、郡邑記に云々、むかしは館野郷たりしが、今は野、

字省もて館、郷に作る。○館郷村七軒○蓬田二軒○茶畑七軒○板屋一軒○浮嶋二軒○谷地中四軒○野口一軒云々
々ど見ゆ。○今在る枝村は○寺村、四戸○板屋、三戸○漆原、一戸○道下、一戸○野口、二戸○谷地中、五戸○白金田、二戸○蓬田、三戸○田、尻、一戸○中嶋、四戸○茶畑、四戸。云々と見えたり。

○神社部

○一郷、總鎮守藥師如來社 祭日八月八日、別當長野村修驗宗長徳寺。

○末社若木山權現もがきの神也 別當並同。

○浮嶋大明神 祭日九月廿八日、一戸、鎮守、齋主伊之助。「みをつくし」の卷刈和野のくだりにも記して、宇貴嶋大明神鎮座、また平鹿、郡角間川、郷にもうき島の社あり。また浮島が原は駿河國に在り、また常陸國にあり、出羽、國大沼、並てうき嶋也。また、うき島とて小嶋うきありく沼は、出羽陸奥にはいと多し。

○浮嶋、稻荷大明神 祭日十月十日、齋主喜左衛門。

○寺村、神明宮 祭日 齋主理助。

○稻生大明神 祭日 齋主太治兵衛。

○野口、稻荷大明神 祭日 齋主權重郎。

○明神、社 齋主並同。此明神と鎮齋まつろは凡大蛇也、また蛇王權現なごもいつぐ地ちありき。恐おそき事か

ら、今は龍神とし水神と祭、高靈神とし貴布禰明神とまをし奉るを以て、たゞ明神とのみは稱奉れり。

○埜口、稻荷大明神 一戸鎮守也、齋主忠右衛門。

○板屋、稻荷大明神 一戸鎮守也、齋主五右衛門。

○茶畑、正一位稻荷大明神 一戸鎮守也、齋主並同。

○霹靂、社 一戸鎮守也、齋主並同。

○稻生大明神 一戸鎮守也、齋主八右衛門。

○嚴祇、社 一戸鎮守也、齋主長左衛門。

○蓬田稻荷大明神 一戸鎮守也、齋主治右衛門。

○貴布禰明神社 一戸鎮守也、齋主並同。

○古門前、稻荷大明神 齋主久兵衛。

○水元は、○小瀧川○手、越川○淀堰○海老沼堰○道目木○蓬田堰のたぐひ也。

○寺院部 ○法 幢 寺 淨土宗。松前ニ同號ノ寺禪宗あり

○池中山法幢寺清光院は淨土宗門にして鎮西白旗の一派、本寺は皇都東山智恩教院。○開基艦筋は委曲ならず。傳ニ云、祖師源空上人の御弟子石垣の金光上人奥羽二州に念佛弘通のとき、天福元年山本郡

黒土村といふ處に佛刹一字建立し示寂す。云といへり。其佛閣の古跡は田畠と化て、字を玄地寺屋鋪といふ是也。しかして後文永年中に至り愉譽上人住職し、其寺をまた上鶯野村に引遷しぬ。歴代曰愉譽上人は是也、位牌の面に當寺中興とあり、裡に文永十一年と彫たり。考に、愉譽上人建立寺院なりしが、ふたゝび回祿に及びたり、是によて什物、寺寶、古記録等に至るまで名残なく焼亡したり。やゝ残りて立像の阿彌陀如來、脇土觀音、勢至の二ぼさち、また中興上人の神主のみ存り云。御遷封の後また道場の地を引上、改めて建立あり、愉譽上人建立の舊跡は田畠と成りて、字地を古門前といふ也。今在ル寺やしきは、むかし戸澤殿角館居城のときの隱居館の迹也。同村野口村といふは、隱居面シの田屋の在りし地也といへり。世代、文永十一年已前は某なにの年といふ事をしらす。○阿彌陀如來一軀、御長一尺三寸、觀世音勢至二體、此三柱聖德太子の御作也。近來文化十三丙年皇都智恩院華頂御殿に於て、親王、宮の御眞筆、絹地に六字名號御染筆ありてこれを給りぬ、しかくぐといへり。

○開祖金光上人、天福元年遷化。○中興開山愉譽上人、文永十一年七月七日化。此間百五十九年歴代知れがたし。○二世尊譽上人、應永廿九年壬寅五月五日化。百万遍に九年住職のよしをいへり。○三世然譽上人、嘉吉元年辛酉九月九日化○四世觀譽上人、寛正三年壬午四月八日化○五世空譽上人、文明十四年壬寅二月二日化○六世心譽上人、永正五年戊亥四月廿五日化○七世單譽上人、天文八年己亥七月十二日化○八世玄譽上人、永祿拾年丁卯八月廿五日化○九世性譽上人、文祿二年癸巳正月廿日化○十世

顯譽上人、元和四年戊午三月十五日化○十一世樂譽上人、寛永十一年甲戌五月廿五日化○十二世本譽上人、正保五年庚子正月七日化○十三世良三上人、寛文五年乙巳八月八日化○十四世良感上人、寛文九年己酉五月十九日化。此間二代省世。○十五世岌山上人、元祿二年角館報身寺に移住。此間二代省世。○十六世良遣上人、寶永二年乙酉七月廿日化○十七世選譽上人、寶永三年丙戌四月廿五日松前光善寺に移轉○十八世仰譽上人、正徳元年辛卯十月九日化○十九世尊譽上人、正徳二年壬辰當山入院也○二十世昇譽上人、享保十八年二月廿七日入院○廿一世誓譽上人、享保十八年五月廿八日入院○廿二世將譽上人、寶曆六年八月十七日六郷臺蓮寺移轉○廿三世來譽上人、寶曆十二年十一月二十五日化○廿四世勇譽上人、安永八年五月下野國高巖寺移轉○廿五世衆譽上人、六郷臺蓮寺移轉○廿六世現住相譽、文政五年六月當山入院也。

○當寺開山示寂天福元年より文政十二年迄、凡五百九拾餘年に及ぶ。當寺中興開山遷化文永十一年より、凡五百五十五年に及ぶといへり。

○八幡宮 池中山法幢寺鎮守、神祭あり。

○總家員廿九戸 ○同人員百六十六人 ○同馬員卅九匹。

ゆきのしら田

○袴田村

(十二止)

屬郷十二箇村之内大尾

里正長

藏熊谷氏

○此村東は長樂寺村手呂腰川境、西は沖郷、上鶯野村田畠混雜畔繩手畠、南は谷乙森、館郷小堰畷堤界、北は上鶯野、八幡林畠に亘レりといへり。○享保郡邑記云ク、○袴田村、家六軒○田頭、家二軒○大宮田、家二軒○鍛冶屋鋪、家三軒○熊野堂、家一軒○荒田、家一軒。云々見え、○今在ル枝郷○熊野堂村、家二戸○中村、家六戸○鍛冶屋鋪村、家四戸○下村、家五戸。云々見えたり。○田畠字地、○手呂腰觀音堂前○内村○中田清水川○前田○永喰川添○堅田○熊野堂○しら田○大宮田○會野○はし本○田かしら○荒田○深ざむ○だむの腰○かぢやしき○大熊野堂○腰廻り。○水元は○上櫻田清水落後り○永喰川、○野田村清水後り○てろこし川、○小瀧川、此三泉の流をもて千町のいな田を作るといへり。

○神社部

○熊野社 一郷鎮守、祭日九月十五日、齋主八郎右衛門。

○深山山藥師如來 祭日九月九日、一戸鎮守也、齋主万吉。

○觀世音 祭日九月二十九日、一戸鎮守也、齋主作兵衛。

○稻荷大明神 祭日九月九日、一戸鎮守也、齋主万吉。

○霹靂社 一戸鎮守也、齋主並同。

○庚申社 一戸鎮守也、齋主助左衛門。

○稻荷大明神 一戸鎮守、祭日九月九日、齋主五兵衛。

○霹靂社 一戸鎮守也、齋主彦三郎。

○白專女社いなり明神 一戸鎮守也、齋主長助。いつのころならむか、としふる白狐此處に死たり、その靈

魂を祭るといふ。

○稻荷大明神 一戸鎮守也、齋主久兵衛。

○稻荷大明神 一戸鎮守也、齋主小兵衛。

○稻荷大明神 一戸鎮守也、齋主某、里正やしきに座り。

○雷光社 一戸鎮守、祭日九月十九日、齋主金右衛門。

○稻生大明神 一戸鎮守也、齋主吉右衛門。

○總家員二十戸 ○同人員百八人 ○同馬員拾八匹。

月出羽道仙北郡 奥北浦莊 二十五卷

やさかのこやた 雲 然 邑 本郷 屬郷十一箇村

御代川	下延村一	しほて山	八割村二
ふちの桂木	西長野村三	いく田の早苗	勝樂村四
橋の青柳	櫻田村五	坂井のみくさ	下花園村六
いかめしの里	上花園村七	銚注連	釣田新田村八
月の入澄	白岩前郷村九	したき松	白岩廣久内村十
前田のほなみ	白岩堂、口村十一		

二十五卷の挿畫について 發見せられた傳寫本には挿畫を缺くが、近氏所藏自筆草稿本には挿畫がある。但し門外不出本にして寫眞撮影の便宜を得ず、止むなく此の卷のみは校訂者の模寫を用ひるしか無かつた事を遺憾とする。 校訂者

雲然邑

里正久

吉後藤氏

奥北浦、莊雲然、郷荒屋鋪村に保長後藤氏の栖家あり。此雲然邑、東は小館村、西は西長野村及八割村、南は下延村、北は小勝田村を隣村とせり。享保郡邑記に、雲然村總名に唱也、山口一軒、山崎三軒、寺信田一軒、上町屋六軒、下町屋七軒、荒屋鋪十三軒、谷地田三軒、田頭三軒、中嶋八軒、中野一軒、田野尻一軒、八雪車野二軒、田中三軒、碓元祿十一年起返十軒利兵衛忠進開云々と見ゆ。今存在枝郷、荒屋鋪家十八戸、八地田三戸、上町屋同六戸、寺信田同一戸、下町屋同八戸、八艘野同三戸、田中同十二戸、田野尻同二戸、中野同一戸、田頭同三戸、中島同十一戸、碓同二十九戸云々と見えたり。雲然はいかなるよしの名にや、津輕ノ山郷に大然村あり、又雲と云ふ字をかゝふりし地信濃に雲端、伊勢に雲津あり。倭訓栞に、雲は隱カの義也、雲は石より生ず、よて雲根の名あり。神代紀に雲氣もよめり。くもおりかくるは雲下掛の義也、雲のまかき、雲のござし、雲のしからみ、雲のつゝみ、雲のみを、雲のうき波、雲の眞袖、雲のあし、みな見たる詞也云々。雲にはあらぬものなれど、伊勢物語に見ゆ。莊子には、はゞやの山に神人あり、乘雲氣、御飛龍と見ゆ。おもふ人を高山の雲になぞらへよめるは、萬葉集に其例多し云々といへり。同書に、しかり、然をよみ、神代紀に唯然もよめり。しかは、如をしくとよむの義、りは有の義也、しくありのくあを反せば、か也、萬葉集に、かく

然あらんといふを一に、如是カもあらんなど見えたり。字書に然は如是也と見ゆ、然をしかくとよむも是なり、しかもは、しか反、さもといふに同じ。萬葉集、古今葉にも、三輪山をしかをかかすとよめり、あなちの意なり、今の口語にも此の語意あり云々といへり。考に、久母斯迦利は元蝦夷辭にやあらんかし。久母は保牟ホムの轉語にて、保牟は小也、少也、小事も少事をもいへる也。斯迦利は斯都加里の轉語ならむ、南部にしつかり、松前に伊加利、津輕に大しかりあり、大は倭語、しつかりは夷言なり。又、村々に錠イといふ地かいと多し。錠は借字にて、またく鐵錨、木錨によりたる名にあらず、そは、なにてまれ埋ることを埋る、埋しいないといふ也。其地くは洩なるゆゑ、雨零れば、水を湛いへてありけるより方言事也。いかりはいかる、埋る、おなし。また伊勢年中行壹に鍛山伊賀利の神事あり、神風抄に荒祭宮鍛山伊賀利と見ゆ。儀式帳に伊加利比女、命といふも見えたれども、そは語意大にことなるへきものか。雲然は本郷にして屬郷十一箇村あり、そは下延村、八割村、西長野村、勝樂村、櫻田村、下花園村、上花園村、釣田新田村、白岩前郷村、白岩廣久内、白岩堂野口、白岩廣久内ニ加て二村一郷の里正たり。字地は凡枝郷の名なり、上山口、山口、房澤口、寺信太、山崎、上町屋、谷地田、荒屋鋪、下町屋、八艘野、田中、千刈田、五反田、田尻、中野、田頭、中嶋、橋本、碓、前田中、谷地、向河原云々と見えたり。狐の名寄稻生冊子に、雲然村の谷地の小白、錠の吉兵衛あり。そはなほ、その處につはらかに記すべし。

神社部

一郷鎮守正八幡宮 祭日八月十五日、齋主理介。上町屋といふ地に鎮坐。いにしへは、此あたりいご
廣き萱野たりしかば、その高萱の中に義家將軍しばらく身を潜て、敵の心をあなく見給ひし地といへ
り。そこに古木の、紅に咲大櫻ありしか、もと木は朽て、ひこばえ、若木ながら大櫻なり。

杉木山八幡宮 祭日八月十五日、齋主久吉。みやどころは中島といふ處に座り。

神明宮 祭日六月十五日、齋主與助。荒屋敷といふ地にませり。

池の辨財天女 祭日正月初巳日、齋主總四郎。

岐神 谷地田山にあり。

小白稻生大明神 祭日二月初午日、齋主與右衛門。八千田山に座り、としふる白専女なるよし、見し
人の語れり。

若宮八幡宮 祭日四月八日、齋主善左衛門。山崎といふ地に鎮齋奉る御神なり。

稻生大明神 祭日四月八日、齋主並同。みやどころ山崎にあり。

金山彦社 祭日五月十二日、齋主長吉。坊澤といふ處に、いにしへ黄金山ありし時いつきまつりし御
神なりといへり。

千手觀音菩薩 祭日正月十七日、齋主清左衛門。山口といふ地に座り、よしある菩薩なるよし。

白山比咩神社 祭日四月八日、齋主與惣兵衛。山口といふ地に座り。此あたりはいにしへ天正の頃、

戸澤家の岩やうのものありし處といへり。

八幡宮 祭日四月八日、齋主善左衛門。下町屋といふ地にみやどころあり。

六孫王八幡宮 祭日四月八日、齋主三四郎。同下町屋といふ處に座せり。六孫王は、五十六代の帝清
和天皇の御孫にて源經基朝臣也、其神靈を八幡宮と齋鎮り奉れるにや。またいにしへよしありて、經基
卿の齋鎮たまひしみやしろにや。なほ考知るべき事なり。

白藤大明神 祭日四月八日、齋主金五郎。同下町屋に座し、むかしかみとき祭りしびやくらくの社な
がら、いとく大なる白藤あればしかたへ奉る也。白藤社、雄勝郡岩崎、亦津輕にもありき。

千手觀世音 祭日正月十七日、齋主藤重郎。八雪車野といふ地に座り。

稻生大明神 祭日四月八日、齋主孫右衛門。田中といふ處にませり。

岐神 祭日四月八日、齋主 同田中に座り。大なる檜榎あり、そを岐神とも道祖神とも
齋也。

八幡宮 祭日四月八日、齋主權右衛門。みやどころ同し。

稻荷大明神 祭日四月八日、齋主幸右衛門。みやどころ、ともにおなし。

大山祇神社 祭日 齋主治介。橋本といふ地に座せり。

吉兵衛稻荷大明神 祭日十月十日、齋主藤重郎。みやどころ錠と云ふ地に在り、とし高き狐すめりと

いふ。天明、寛政のころにあらむ、此雲然村の人とら伊勢まわり大和めぐりしけるに、山達に會ひて、あらぬ道に引入れ行くに老翁一人出て、それは道をふみたがへたるぞ旅人ども、こなたへ來られよ。我は道をしへ申べしといへば、攫徒すりどもは逃げちりぬ。いづこより來れる旅人なるか。いらへて、出羽の國仙北郡雲然村にてさふらふ也。老人はいつこ、御年はいかにと問へば、吾は七百餘歳也、國は、おなじ雲然の錠にすむ吉兵衛といふは我也とて、かいけちてうせぬ。旅人はすりもはたこも空しきをはやくいましね山のとねたちと、兼盛卿の歌のころにも似たり。

池、辨財天 祭日正月初巳、日、齋主利兵衛。並ニ碓といふ處に座り。

千手觀音 祭日七月十七日、齋主清兵衛。田頭といふ所に座り。

雷公社 祭日四月八日、齋主並同。中島といふ處にあり。

大杉明神 祭日八月朔日、齋主里正久吉。八千田山に座り、御手洗の寒泉あり。此大杉にむかしは天

狗の栖て、もとも恠異あり。今は三輪大明神の神靈を齋鎮るといへり。

大日如來 祭日八月八日、一戸鎮守、齋主並同。あらやしきといふ地に座り。

稻生大明神 祭日十月十日、齋主市太郎。同あらやしきに座り、一戸鎮守なり。

稻生大神神 祭日十月十日、齋主長五郎。上町屋といふ處に座り、一戸鎮守なり。

袁呂智社明神と稱たり 祭日四月八日、齋主甚太郎。田中と云ふ地に座り、一戸鎮守なり。

美都波能賣社 祭日四月八日、齋主藤兵衛。伊加利といふ地に座り、一戸鎮守なり。

稻生大明神 祭日十月十日、齋主總右衛門。中島といふ處に座り、一戸鎮守なり。

稻生大明神 祭日十月十日、齋主清兵衛。おなし中島に座り、一戸鎮守也。

大櫻社五社靈神 こは龍岩寺の鎮守にして、なほその寺のくだりにつばらにしるすべし。

八尺堂やさか 雲然荒屋鋪の南の方に、此八尺堂ありし礎の趾あり。いかなる神か佛か、そのゆゑよし傳ら

されど、人ことに八尺堂とのみいへり。いとくふりたる地とおもはれたり。

ものがたり

山伏塚 荒屋鋪の西の方に在り、入定塚也といふ。某といふ山伏にや其名傳らず、いとくはやしき事になん。

祖父か沼 むかし此沼水いと深くて妹瀨川此處を流れて、その古川の沼とは成りたる也。此沼に大蛇すみて、美男と化て、山伏の妻のもとに夜なく通ふ。姑女あやしみて、身はたゝならず、妊娠にやといふ。いなみけれども、やかて蛇の七八寸はかりなるを、十尾まりも産しといへり。此物語に相似たる事は徳政夜話といふものに見えたれど、大同小異はありけるなり。

小倉山といふは此邑の西北に中りてあり、中古高倉大納言永慶朝臣の次郎君此北家に入らせ給ひて、佐竹左衛門義隣卿と聞えさせ給けり。一とせおほむ鷹狩の飯さ、此山を、めしばらくもすてすうち見やり

イ、給ひて、こは、山城の國なる小倉山にことならず。時雨の亭もありつべきころして、皇都しきりにしのはれ給ひしよし、のたまひしもの語りありけれど、俚人みな、小倉山をさびごとくに云ひあへり。秋田ノ郡淺見内の温泉に近き所にも小倉山あり、郷を小倉村といふ也。同名もありけるものなり。

雲然を雲光りと云ひ、津輕の大然をも大光りといひし説はあれど、そは山北を字音によみしより仙乏、千福などに作り、今は仙北の郡と成るがごとし。雲然、借字にしてまたく夷語也、なほまた考べし。御

封の頃は此のあやしきに足輕廿八人、家士八人、御北家より備へ置れし處といへり。その人との末なほ角館にあり。

田中山に田中の館といふあり、そは、戸澤家類族戸澤政重の舊跡也けるよしをいへり。戸澤家の古記録に、出羽ノ國仙北郡角館雲然莊田中山の館者、戸澤彌三郎政重、古館なり。政重先祖は相馬家の末流飛驒守平ノ朝臣兼盛也、初陸奥の國岩手郡瀧石ノ莊戸澤郷に逃下りて住ぬ、のち出羽ノ國山本郡間屋郷に移り住ぬ。兼盛十二代能登守家盛、桂ノ里に始て一城を築て名を角館といふ。家門いよく繁榮衆人万歳を唱へて、むろおぎの宴にうちあけて、メおめでたいてばくこつくとくとおめでたい、ひんかしの窓のきり窓から、をかの神か舞こんた、黄金の升をさうげた、それから長者とよんばれたと、返しく、ひねもす手を拍てうたふたりといへり。さりけるよしにや、此あたりにて今もの祝ひあれば、此の唄うたふ事になん。以來治部太輔盛安に至るまで七代の間、政事いよく威光四方に耀き、ところく、に砦を築れ吾か一族を分てこれに居らしむ。元祖彌三郎政重其族なり。故に永正年中祖君平九郎某の命に依

て、仙北ノ郡雲然の莊田中の館に移住す。其子彌四郎盛重、實は小館城主上總介忠直の嫡男にして、九郎盛安の舎兄たりしか、脚病あるを以て出家して、六郷照樂寺同姓なれば此寺に入つて住侶となり、後飯俗して政重の猶子となれり。其子彌四郎盛常か代に當て、祖君治部太輔盛安、慶長五年九月關ヶ原に於てしたかわす雲然村に蟄居し、年を経て其子彌市郎に至て、戸澤を變姓して大澤と改て蘆名主計頭義勝公に仕へ、寛永の始め角館に移住し、大澤四郎右衛門定久是也。其子九郎右衛門定次、代、承應年中輩名家斷絶せり。しかして後佐竹君の家臣となる、後末流今に至て連綿たり。文政年中、佐竹公の命に依て本姓戸澤に復したり。元祖彌三郎政重より盛常に至るまで三代の間、元服の祝言、書給しが今なほ存、佐竹公御覽に奉りしとき、其證として御青印を添へ給ふ、あなかしこ。その彌三郎政重より十代の孫戸澤三彌盛淳、當時角館家士。此戸澤家の家系は正しきものから、永慶軍記、その外、くさく、のいくさ物語、家々の古記録とは大同小異なる所あるべし、見る人ころすべし。

ある物語りに、彌四郎盛常は主君政盛の命にも隨はず、雲然村にありて、ある福者の家の女を妾として住ぬ。此妾貞操正しき女なり、家乏しければ自炊きて夫に仕ふ。終に孕て彌市郎定久を産り。かくて年經て定久十五歳に及ぬ。妾か云ふ、かゝる田野の中に在りて土民と供にくちはて給はむよりは、主君もごめて家苗を揚々たまへやといさめぬ。女の身として健氣にも云ひしごとて、輩名家に近きぬれめし給へど、官賤く祿微しければ、父祖の姓を稱する事を耻て苗字を改むと云ふ。妾の言、此名を定久といふ

も末久しからん事をこそ思ひ、一字は省きさふらふとも、みなまては、いかてか、さることやしたまはむといへれば、さらばとて戸澤を大澤とし、彌四郎を四郎右衛門と改めてけり。此妾一生貞操節儉、なほ未繁榮したり。此妾は志シふかきにて、此家を再興たてりといへり。

平姓戸澤家系圖

相馬枝流尾輪親王子兼盛號飛彈守、初奥州岩手、郡瀧石、莊戸澤住、後出羽國山本郡間屋郷移居、親盛、飛彈守—克盛、號平五郎—勝盛—玄盛、號治部太輔—英盛、號飛彈守—氏盛、號治部太輔—伊盛、號飛彈守—行盛、號平九郎—豐盛、號治部太輔—泰盛、號飛彈守—家盛、號能登守、仙北郡角館移住云々—久盛、號平九郎—壽盛—征盛、號平九郎—秀盛—通盛—盛安、號治部太輔—光盛、號平九郎—政盛、號平九郎右京亮、初常州後羽州新城に移住云々と見へたり。飛彈守兼盛始て山本郡間屋郷に移るゝある、其地は今、仙北、郡上檜木内の内に戸澤と云ふ處あり、此地古館の迹にして間屋と云ひし處にや。

右京亮政盛繼母晴女といへり記行

角館の城主は抑々、上祖は陸奥、國釋貫、郡より來たるよしなん語り傳ふ。戸澤治部少輔盛安、六郷兵庫頭政乗は世に聞へて其の勳功少ならず、此度關ヶ原におゐて大に戦ひ莫大の勳功たり。さるに依て飯陣の後は、小野寺遠江守義道の知行處のこりなく盛安に宛行はるべきよしを感狀を給はりて、其みきやうをもて日あらず飯國すると、あらぬ空言を人ことに、もはらいひわたれり。小野寺義道此事を聞きて

安からず、腹くろに罵り、戸澤盛安國に入らば、境目にて討とらん、まづ盛安が妻子をうち捨て角館の城を焼き拂はんと、おのれにしたかふ人々のもとゑ書きめくらしたるよしを、角館の留守居せし戸澤長兵衛此の事を聞き傳へ、盛安の妻に語りければ大におどろき、さらば身の大事なり、わが身はとまれかくまれ、右京亮政盛との、身を全ふして後世の榮えを見なん事をこそ思へとて、此政盛をいざなひて角館を立ちしりぞかんと進むれば、太郎政盛は此年十五歳になりけるが此事を聞いて、いかに長兵衛、われ、をさなしとて弓捕の家に生れながら、敵に一太刀も向はて、おめく、と小野寺に城を取られん事のあな口おしとて、小鐔を打叩いてなきいざち、更に落行かんけしきも見へねは、長兵衛を始め戸澤家の老臣鈴木加賀守、茂木因幡守、鶯野左衛門等かさねて申やう、君今此處にて討死したまはゞ父君の武功も水の泡と消へらせ、たちまち戸澤の家も絶へ果てなん。此事思し知りたまへやと忠臣にいさめられて、心ならずも垢つける衣の上にかたびらを重ね着て、母と共市女笠をかぶり羽黒山參りのまねをして、人々と別れてなくく、角館を出て、行先も敵の中なれば、檜岡、大曲を経て河隈川今作角間川を渡り、夜叉鬼の神をよそに拜みて平鹿、沼館もや、近く、かくて杉の宮の邊なる經塚につきて一夜を宿り、つとめて山田、深堀、關口、合川、御返事の里など敵の領内をや、忍びかくれて、小野の小町の古塚を弓手になして横堀の橋を渡り、八具内に日もくれたり。明れば有屋、金山を踰えて新庄を経て大石田、清水に趣き、羽黒山の神を遙にふし拜奉りて飯田、楯岡を過る。道の傍らに稚木森をさなきとて群り立てる處あり、太郎政盛の母。

名にしおは、こと問ひもせようき旅を我もいさのみ若木の杜。

かくて天童、山形にかゝり、急ぐ程に千歳山につきぬ。こゝは、いてはの國と陸奥の國といまたひとつなる時、みちのくの阿古屋の松と詠れたる古き名所の麓なる。恥かし川を渡るとて、

水鏡見るにやつれて面影のはづかし河を渡りこそすれ。

笹谷峠をからふじて打越、川崎、猿花、勝田の宮など云ふ驛をも過ぎて、伊達の大城戸の迹藤田の宿も過れば、阿武隈川の向に信夫山見えたりしに、佐藤庄司のむかしをおもひ出て、

世の中に榮る人も一たひはおそろへにける身を忍ふやわ。

やをら伊達の郡も經て日數つもりて、陸奥、下野の國堺なる、白川二所の關大明神を拜みて、武運の程を太郎君政盛と共に詣て奉りてしばらく休ふ程に、關ヶ原の軍に供せし武士とも兩々入りたり行會たるか、見つゝあきれたるにしかく、のよしと語れば、武士ども泪をおしぬくひて、主君盛安討死のあらましをかたるを聞もあえず、母も太郎君も泪にむせび草原にたふれふし、ともに關が原の露とも消よかしと親子泪に泣き沈けるをいさめて、先ツ聞給へよ御兩方、主君盛安此度忠死に依て、本領つゝかなくたまはらんよしの仰なりと聞て嘆の中に安堵して、人々うち連て江戸につきしかは、しかく、とけいし奉れば右京介を召し出されて、常陸、國松岡にて六萬八千斛を賜りぬ。六郷兵庫頭には同國にて二萬斛を賜り、津輕は本領安堵し、かくて角館城へは輩名主計頭義勝、北亦七郎、此兩人を置かれたり。戸澤盛安が妻は、由理の郡なる根、井縫殿介膽吹が女にて、右京介政盛には母ならぬ母なれど貞女たゞしく、政盛をはうめる子よりも憐みて、政盛も又けふをつくして母にしたしみふかく、世に出て家門悉く榮えけるべし。

慶長日記に云く、慶長七年、仙北、郡戸澤能登守盛安に六萬八千斛の地を賜りて、出羽國置玉郡新庄に居城せり云々と見へたり。

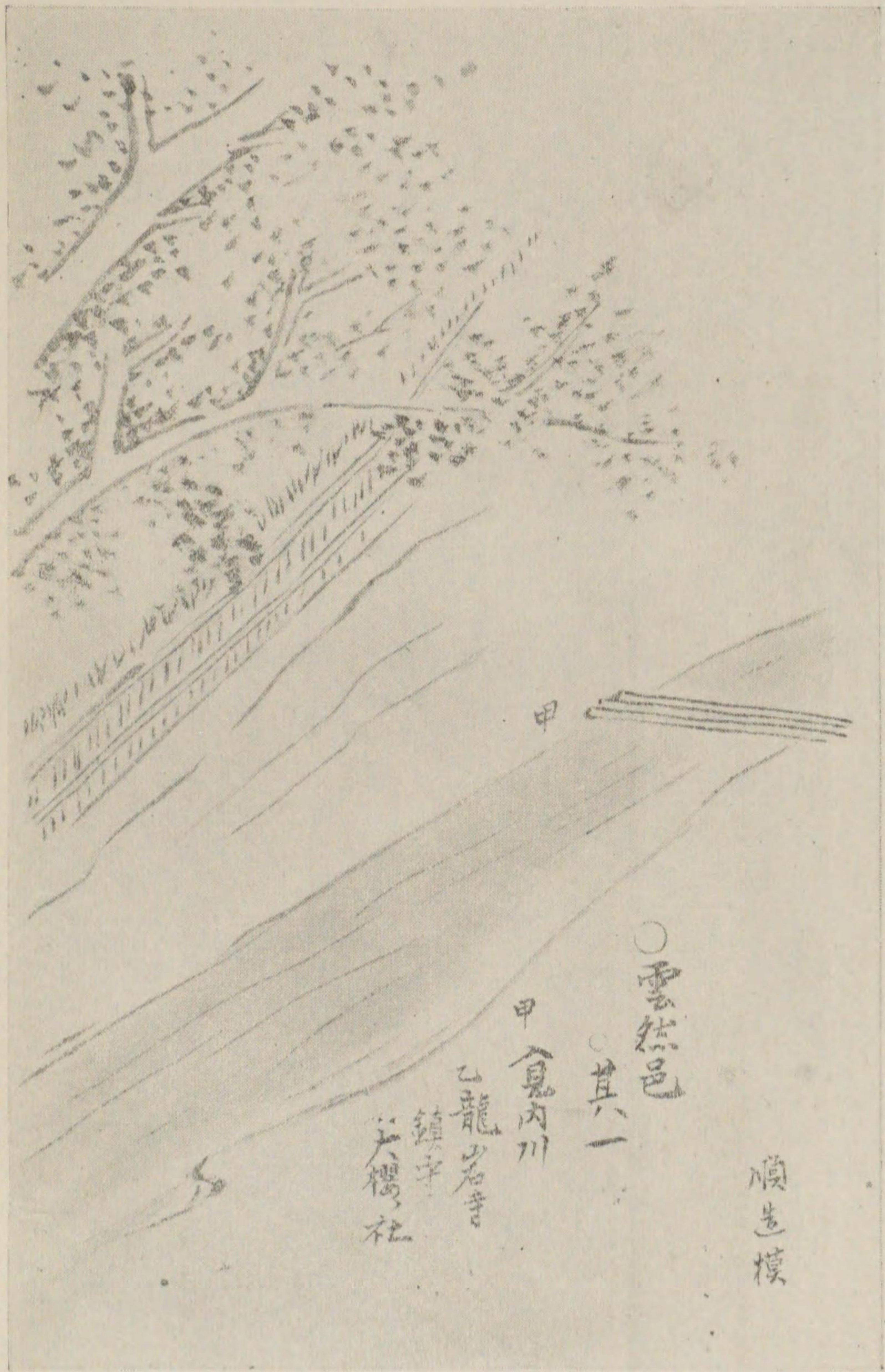
田植謠に、横間館中の長峯また戀し、あたりつくしの夫戀しと唄ひし頃は、享祿、天文の世ならんか。戸澤能登守家盛か妻は、誰か女といふ事さだかならねど、山本郡山谷川崎の邊りの人なるべし。家盛其地に栖り、亂世の習なれば一夜だに宿にふす事もあらてさまよひありき、ことに桂の里に新城を築く折からなれば、四方をかけめぐるを、はしたなき下女、下部などは、殿はいまは何と申御方に通ひて、かく此館をば打捨てさせ給ふかなと語りく話れど、妻は嫉心露斗りも見えすいとく操正しく、夫を敬ふ事なすことく、奴僕に恵み厚く、かくて身もやゝ老たり。夫の云へるは、いつもく、ひとり館にのみありて家を治めたりし此の深き志は、某を以て耐む。妻、此年に成りさふらひて今何の望みかさふらはん、死に身を隠すべき佛刹を一字建給へといへれば、さらばとて菩提寺を建立ある。今勝樂町に在る報身寺と云ふ淨土宗是也。もど此寺本町に在りしも、今は勝樂町に遷したるといへり。

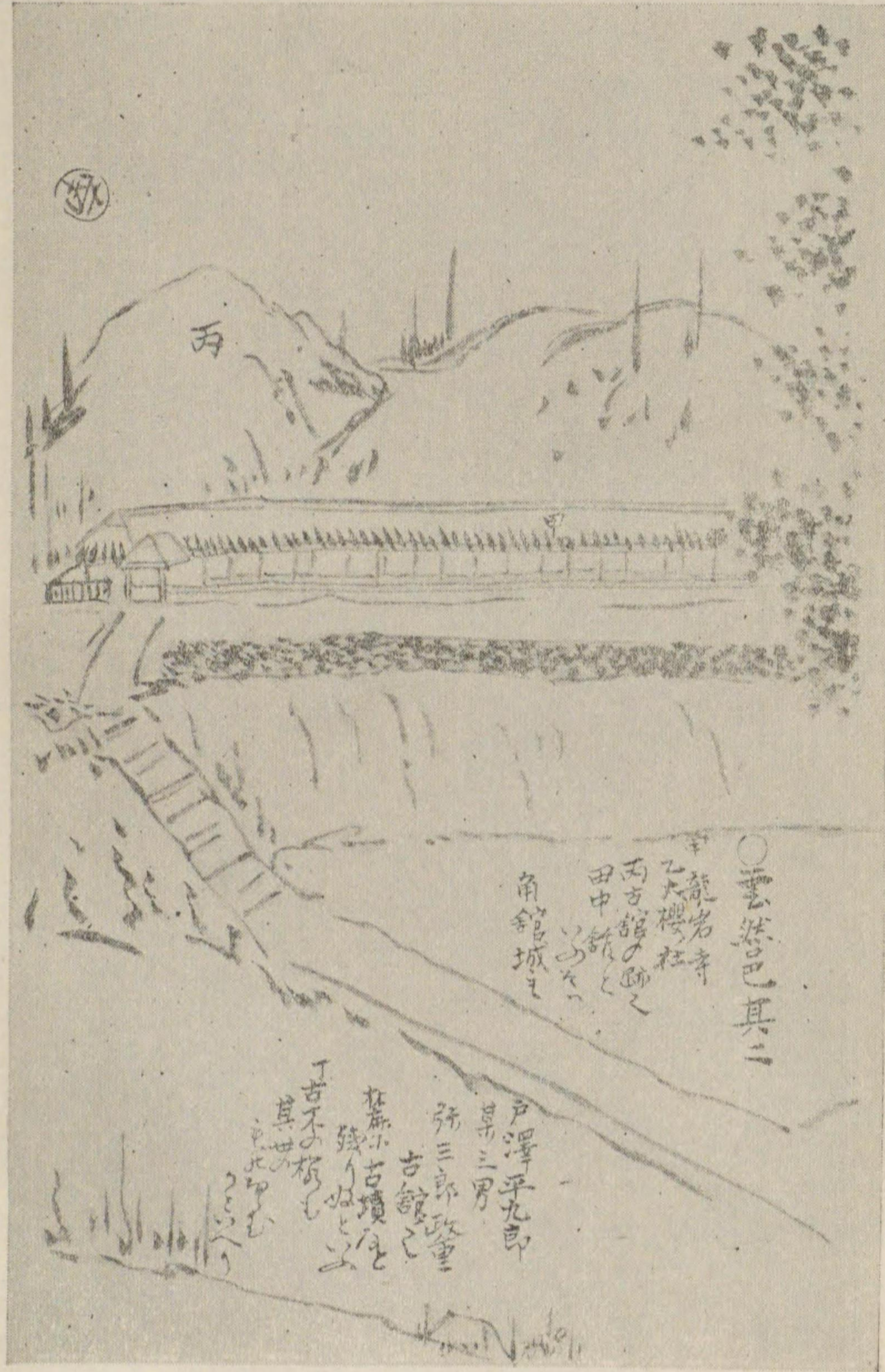
晴女は、仙北郡六郷照樂寺須覺房祐頼の女なり。はじめは、同國小館の城主上總介忠直の嫡男元麿を養て聳とし、名を常珍房孝照と改め、後飯俗して彌三郎政重の猶子となる。彌四郎盛重死後に至り、九郎盛安の妾となりぬといへり。

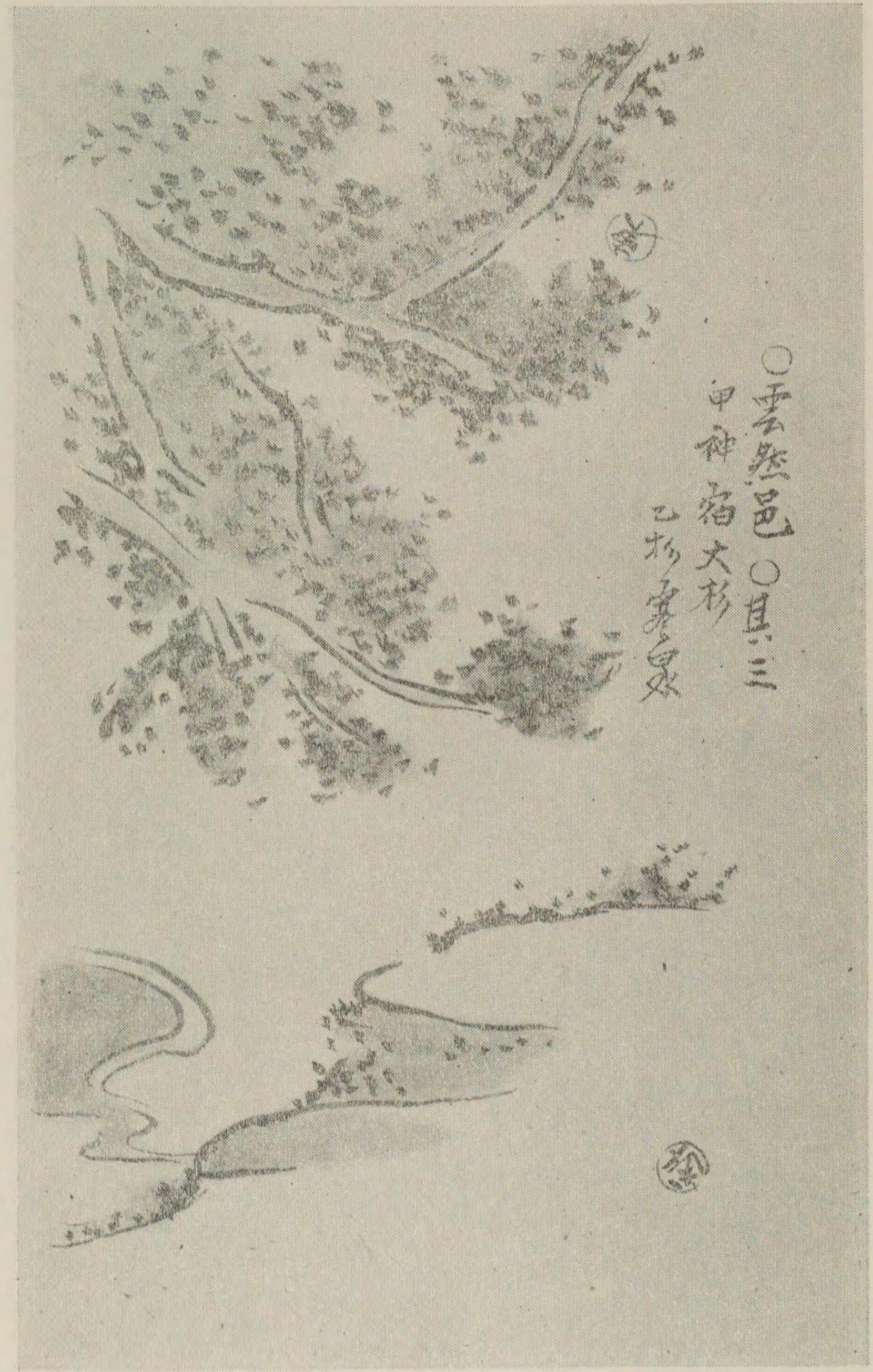
龍岩寺 曹洞派 歴代

雲澤山龍岩寺、本山、同國庄内善法寺也。開山、善法寺某世超巖黨越大和尚、寛永七年庚午三月十五日遷化也。二世本智祝和尚、正保二年二月六日化。三世月巖良和尚、寛文十一年五月八日化。四世一鑑海言和尚、元祿十二年正月十九日化。五世自豊春智和尚、寶永七年九月廿二日化。六世鐵叟牛渴和尚、享保七年三月廿一日化。七世鐵巖明玄和尚、延享三年正月三日化。八世達山寶宗和尚、寶曆六年十一月十五日化。九世大通泊源和尚、明和五年九月二十九日化。十世悟山玄道和尚、文化九年十月廿二日化。十一世放草眞牛和尚、文政十四年十一月十四日化。十二世泰忍別天和和尚、寛政三年九月十四日化。十三世鐵山關牛和尚、寛政十一年十二月十九日化。十四世達山寶禪和尚、存生。十五世一山泰禪和尚、文化元年四月五日化。十六世昌禪光樹和尚、文化十三年四月二十三日化。十七世玉澤見苗、存生。十八世寛翁、當時存生。十九世當時現住寶隆和尚。

雲澤山鎮守、御神、大櫻、社 神明宮 熊野神社 八幡宮 春日大明神 白山姫 稻荷大明神
此六柱の御神雜座、是を大櫻の宮とも社ともまをし奉る也。なほ神事祭禮ありといへり。







○云然邑○其三
甲神宿大杉
乙杉家泉



順造様

雲谷村 其四 一石神宿の杉
神杉末方之本周囲三丈餘尺
此杉之樹皮収まるとは毒物なり
雄略郡杉の宮の真実著杉より
此神杉は天狗光を秘して居り
しりし神といふなり



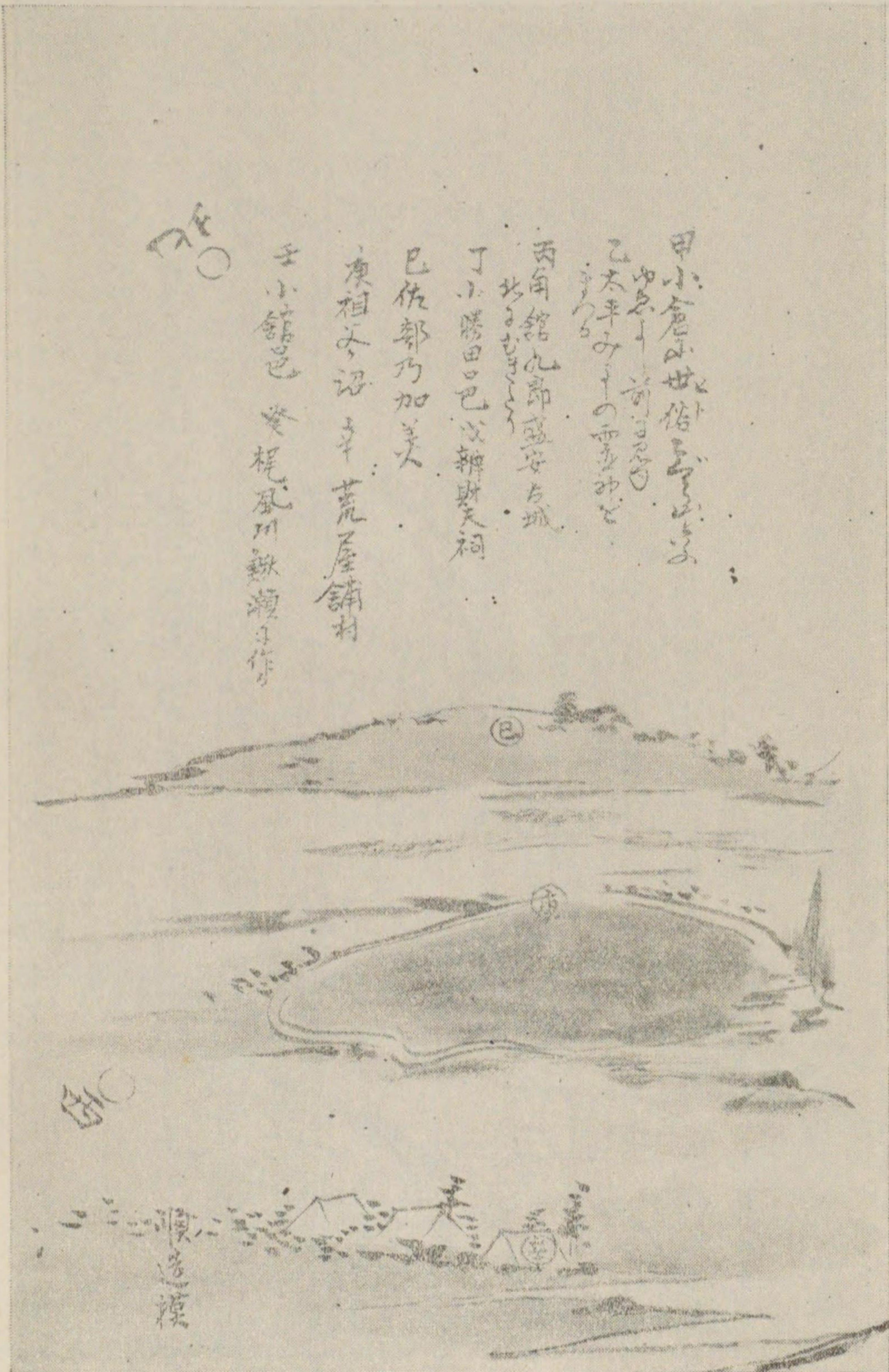
順造模

〇 野原村 頁五

野原村の風物
今も相傳はる
舟の跡も
も残る
松籠り
物訪
つらつら
明神と
卯



甲 小倉山 世傳
乙 太平山
丙 角館 丸山
丁 小幡田 巴
巳 佐部 乃加美
庚 相模 乃加美
壬 小幡田 乃加美
癸 梶風川 秋瀬



野村同六戸、魚屋場村同二戸、切掛村同六戸、大瀬藏野村同二戸、大畑村同二戸、一枚下り村同一戸、堂前村同一戸、云々。

水田陸田字地　みよか　上川原　大瀬藏野　なや場　切掛田　明通り　西川原　大面　一枚下り　野中　田中　下川原　荒所　竹市　竹市野　茶畑　大畑　上野坊、云々。

水田源は玉川掛り、雲然村、大清水かゝり、外に堤かゝりあり。また切掛田、下タに大清水あり。檜館山、古城跡也。獅子ヶ鼻といふ山あり、山上に明神とて小祠あり、大蛇を祭ルといへり。此山脚ふもとに見内川流れたり、水上は外比三市川といふ、此河雲然村、あらしきの西をめぐりて、南に落て玉川に入るといへり。外にゆるよしあり。

神　社　部

觀世音堂　一郷、總鎮守也。祭日八月十八日是レハ七月ナラン、齋主孫太郎。檜館山の麓に座り。

同山の麓に稻荷大明神座り　齋主並同。　田ノ神ノ社同山ニ在リ　齋主忠吉。

同山、下居不動堂あり　齋主並同。　八幡宮田中にあり　齋主三郎左衛門。

大蛇ノ社同地に座り　齋主忠吉。　切掛ノ山神　齋主辰五郎。

水平山不動明王祭日八月廿七日　齋主甚吉。　荒所雷光社　齋主兵左衛門。

稻荷明神社一戸鎮守なり　齋主三郎左衛門。　稻荷明神社一戸鎮守なり　齋主辰五郎。

雷公社一戸鎮守なり　齋主六郎兵衛。　同霹靂ノ社一戸鎮守なり　齋主總五郎。

古老の説曰く、檜館山の柵にはむかし鈴木備中某栖り、戸澤家の家士たり。今其末新庄、家中にて、鈴木源七郎某といふといへり。水平山ニハ、水平重郎某、おなし戸澤家の屬にて住たりしむかしをかたれり。

總家員六十戸　同人員三百十九人　馬員五十九匹。

しほて山

八　割　村　波智和利　(二)　屬郷十一ヶ村ノ内　里正　三　重　郎　菅原氏

此邑東は雲然村、赤坂中峯岩坂より山神社官田、上河原入會地、西は心像村、丸森、せさいこかし、鬼弟、早坂長根際り、南は下延村、橋本より獅子か岬山、鷹森より一通、古坂水落次第、湯澤南小森峯切、北は西長野、猿田中峯より沼、臺島澤入會、二ツ石より大森まで西長野村、猿田混雜の地なりといへり。

此八割といふ村號は初割よりいひしにや、山本郡に荷八田村といふあり、そはもと新治田ならんぞ考り。始て開く田圃を伊婆留といふ處あり、また和留といふ處あり、新地にあらずも、恒に耕作圃をもし

かいへる處あり。いはるも、わるにおなし。倭訓栞に、にひばり、新治と云へり、治は墾也と見ゆ。新治つくはと屬くるは、ともに常陸の郡名なり。もと日本紀に出たるは、地名に寄て新墾作ることにや、又、にひまくとも見ゆ。新墾をつくともいひかけたまへる成へし、よて數の語をもて答へ奉りし、今も手まりつくには數をよめる也といへり。村里の名に新開と呼も同義也、新開、田北山抄に見ゆ云々といへり。八割は初墾にして、新治の地名ならむかし。枝郷六箇村、東村家九戸、下村同七戸、せその村同七戸、西野村同十戸、大澤村同九戸、牛尾しほて榮澤村同十二戸、云々。

麿清水六泉 赤坂、丸清水、西野、丸清水、清水カ澤、丸清水、脇の澤の丸清水、しほて澤の丸清水、一本杉の丸清水なり。

神 社 部

新山大權現 一郷鎮守、祭日四月八日、齋主勘兵衛。
 藥師如來 祭日四月八日、一戸鎮守也、齋主萬右衛門。
 稻荷大明神 祭日十月十日、一戸鎮守、齋主久助。
 神明宮 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主作十郎。
 雷公社 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主並同。
 水神社 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主並同。

稻荷大明神 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主長七。
 山神社 祭日十一月十二日、一戸鎮守、齋主與惣右衛門。
 稻荷大明神 祭日十月十日、一戸鎮守、齋主三十郎。
 總家員五十四戸 同人員二百八十八人 同馬員五十三匹。

淵の桂木

西長野村

(三) 屬郷十一ヶ村ノ内

里正 小 兵 右 衛 門 吉佐藤氏 長山氏

此邑東北は小勝田村、川原村、山谷川崎村、西南稻澤村、心像村、八割村、雲然村にあたりといへり。川筋は小川通りは小米澤村より下り月見堂村、また東北の方は山下々通りなり。水源は権板澤、日三市川、罕田川、北澤川、鬼壁澤々云々。

枝郷 小米澤家九戸、川下田同九戸、上野同三戸、野田同十六戸、こ、山同二戸、熊野堂同十戸、中泊同六戸、古寺同六戸、鬼壁同十三戸、桂淵同八戸、八百刈同三戸、堂前同三戸、高森同九戸、月見堂同五戸、館平同一戸々と見ゆ。

神 社 部

熊野神社 一郷鎮守、祭禮七月十五日、祠官鈴木上總頭。末社大日社 祠官並同。

小米澤山立石明神 一戸鎮守、齋主藤左衛門。阿彌陀佛堂 同村、一戸鎮守、齋主並同。

同所藥師堂 同村、一戸鎮守、齋主門重郎。下小森大山祇社 一戸鎮守、齋主藤左衛門。

河下田臺、林稻荷社 同、齋主六兵衛。立石澤、峯、女神立石明神 同、齋主市郎右衛門。

野田丸山長根太平山神 同、齋主彦左衛門。宿臺山稻生明神社 同、齋主多兵衛。

平地石神 同、齋主並同。中泊雷光社 同、齋主長重郎。

田中臺林熊野宮 同、齋主三太郎。岩淵館山神明宮 同、齋主七左衛門。

古寺山白山宮 一戸鎮守、齋主善五郎。十二松、山神 同、齋主長左衛門。

鬼壁屋鋪雷公社 同、齋主源助。桂淵、愛宕社 同、齋主彌惣兵衛。

北窪稻生明神 同、齋主治兵衛。高森田、阿彌陀堂 同、齋主武右衛門。

堂、前臺、觀世音 同、齋主茂右衛門。高森、稻生明神社 同、齋主九左衛門。

祠官鈴木上總頭家、社記

鎮守熊野宮、向南三間四間萱葺、社地東西三十二間南北二拾三間、東、堰埭際、西、道路際、南田道際、北、田地際なり。

大日、社、西、方道路躰堂森に鎮座、社地に群杉あり。

元祖鈴木伊勢太夫重若は、角館、神明宮、天満宮兩社の神主鈴木淡路守、上祖鈴木彌太夫重幸、舍弟、重康西長野村祠官職をかゝふりそれよりしばらく神職中絶に及び、二代伊勢太夫、男伊勢太夫某、三代彦重郎、男某、四代助左衛門某、此助左衛門享保八年上鶯野村鈴木六太夫の門人となり、熊野の社の祠官をかゝふり御調の合判給り、それより社人の名目たり。五代鈴木六太夫重政、六代同長門守能久、寶曆九年己卯四月廿一日受領。七代但馬正能近、安永六年丁酉五月廿日受領。八代同上總頭重高、寛政十二年庚申四月廿二日受領。九代當時祠官鈴木肥後正重安、文政四年辛巳三月廿六日受領云々見ゆ。

修驗宗常福寺歴代

金峯山常福寺累代、開山は宥圓法師、延寶七年未十二月廿四日遷化。二祖榮尊、元祿十年丁十月七日化。三世榮將、寶曆三年酉正月廿六日化。四世榮全、寶曆九年卯七月廿二日化。五世榮光、寶曆三年酉九月廿一日化。六世榮宗、文政六年未十月廿八日化。七世榮貞、存生也。八世當時住職榮隆代也。總鎮守藏王大權現 祭日八月十五日、別當常福寺。大同二年丁二月廿五日、阪上大宿禰田村將軍草創の靈地なりといへり。金剛藏王堂、金峯山、絶頂に鎮座。本社向東にて二間四面萱葺なり、社地峠下廣五間九間也。

末社藥師如來、禁不動明王堂 向乾萱葺にて三間四面、社也。地平坦廣八間、十二間、三方、畛は堰也、西は山根際にて雜木いと多し。祭日四月廿八日、別當同。

宮林山片平權現堂 見卸澤割北は御札山、東方は宮林也。また小澤、二ノ澤大蟹場あり、東は下り
峯切リ外ト大開、南は郷山境なり。南方は峙岩際リ、杉、雜木、松も少シ斗リ生ひ交りたり。此山の大蟹場と
いふ地に

金毗羅權現ノ祠あり、祭日三月十日、別當並同。

古城の跡あり、常福寺よりは入見内川の東にあたりて名を館平ツとて、此城に住たりけむ先祖は鈴木矢
之助盛家といひけるよし云傳けり。家系譜は失せて傳らねど、かねよき無銘の太刀、明珍ノ轡、また無銘
の片鎌鎗、和泉守兼定がうちたる小長刀、木鐙、馬驗しるの麻の小簾に、紋は丸の内に一文字を引たり。又
村ヲ重藤半弓あり、鞍具足などもうせたるよしを語れり。

常福寺檀越震所 當村西長野村、雲然村、八割村、下延村、小館村云々と見ゆ。

藏王堂の神階みはしの中に楓樹の連理の異木生ひたり、いとくあやしき木なり。此あたりはみな、月見堂の
内たりといへり。

古老の傳説に

月見堂、そのいにしへは木々いとふかく生ひ茂りて、空、星一ツ見ゆるなく、さらに月のもりこそははい
ぶせけれど、此堂によぢのぼれば、四方八方のなこりなう、入見内川の流ればるく、と影をひたして、露
のくまなく月の見やらるゝをもて、月見堂といへり。近江の國にも月見堂とて、琵琶の湖水になから





斗さし出たる堂あり、それを淨御堂とも云ひ、また満月堂などもいへり。此西長野の月見堂、今は家のみ立ならびて、郷の名のみには残りたり。

いにしへの月見し堂の跡までもすみこそわたれ御代の民草

眞 澄

日三市河入見内川の水上なりまた日佐市に作り。久都ひさいちは盲瞽めしびなどの名にて此川にゆゑよしもあらんか。貞享、元祿の世ならむ、此久市山の禁にて相州綱廣が末六兵衛盛重といふかぬち、刀を打出したるがところ、今猶あり。此鍛工角館に栖ままた秋田の郡に出て、享保の頃久保田の鐵砲町に住たりしが、そこにて其後終おへはてしにやいなやをしらず。

總家員百五戸 同人員五百卅七人 同馬員百六十三匹。

伊又田の早苗

勝 樂 村

加都 良久 (四) 屬郷十一ヶ村ノ内

里 正 宇 左 衛 門 門 高橋氏 同 苗

此邑東は下花園村、上鶯野村、南西は下鶯野村、小館村、小勝田村、北は角館城廻村、角館本町村、國館村、荒川尻村、此九ヶ村川野原入會混雜の盼也。勝樂は、極樂を加久良久とよめり、その轉語にや。また小沼山の觀音にありし寺、山號なり、其寺を此地に遷して、それを始めにして今は村の名におへり。また考

に、角館の古名を桂の里といひ桂木の里ともいふ。これを思ふに、櫻を作樂に作り、あるは相樂さがら、また寧樂ねがら、諾樂だつらの屬にて、こは勝樂の湯桶語にて桂といひしか、また、桂を字音に勝樂といへるか始か。ある俗説に、むかし桂姫とか桂木の前とかいふひと、こころ、此處にさすらひ來給しよしをもいへり。なほふたゝび考へ知るべし。

水田佃作る水源は玉川、生田堰、下川原、清水川、穴堰云々。

枝郷 前郷廿九戸、下川原同十七戸、山下タ一戸、御塚家三戸、下屋鋪同二戸、星場射塚をいふなり 同一戸、大風呂同一戸、御馬出云々同一戸云々と見ゆ。

大威徳山古名花園山といひしの禁に拾歩二といふ御薪役所あり、御塚の上野に養蠶やくち官舎一戸あり、同地に人參御薬園あり、また岩瀨村に、角館より移居田口吉右衛門といふ土官の屋戸あり。

神 社 部

鎮守稻荷大明神 祭日十月十日、別當角館竹原町修驗慈眼院。

正一位稻荷大明神 祭日四月八日、十月十日、齋主御薪役所主。

末社山神、水神 祭日並同。此社舍梨塔川原に座り。

七面社 祭日九月十九日、角館日蓮宗學法寺。

祖師日蓮堂 祭日なし、御塚に建り、別當並同。

大山祇神 祭日十二月十二日、齋主下川原村十七戸の家、年の廻り別當といへり。下川原名右衛門山に座り、ゆるよしある事にや。

前郷岩瀬正一位稻荷大明神 齋主佐治右衛門。

同岩瀬正一位稻生大明神 齋主五郎七。

下屋鋪正一位稻荷大明神 齋主治左衛門。

磐瀬川端五社大明神 齋主佐治兵衛。神明宮、不二權現、水神、稻荷明神、大蛇明神、此五柱を五社とは申奉るなり。

上埜屋鋪正一位稻荷大明神 祭日十月十日、齋主莊左衛門。

寺山下稻荷大明神 祭日十月十日、齋主儀兵衛。

下川原八幡宮 祭日八月十五日、齋主八右衛門。

霹靂社 祭日毎月十八日、齋主治兵衛。

下川原稻荷大明神 祭日十月十日、齋主多郎兵衛。

明神 大蛇を齋鎮、祭日九月廿九日、齋主清三郎。

總家員五十五戸 同人員二百八十八人 同馬員五十一匹。

橋の青柳

櫻田村

(五) 屬郷十一ヶ村ノ内

里正清

兵

衛田村

此邑東は野中村堰繩堤せきなはて、西は八幡林村、上鷺野村堰せき、南は葛川村田地、北は下花園村堰繩手界なりといへり。此村名はいづこにもく多かる名處也。新著聞集に云く、江戸櫻田は虎の門より愛宕の邊りまで田地にて、畔には櫻の木いく千萬本も植ありし。田の中の流を櫻川といひし、今は源助橋そのしるしとて残りたるとかや、と見ゆ。また尾張の國にも櫻田ありけるなり。萬葉集に、櫻田郡、鶴鳴渡たつなり、年貢方鹽干つかたしほし、二家良進鶴鳴渡たつなりと見へたり。高關上郷の支村にも櫻田あり。櫻田の枝郷三村あり、今月村家七戸、中村同六戸、下延同名アリ同四戸、云々。

水源は野中村より清水掛り、玉川横揚ヶ二ヶ處云々と見ゆ。

好井四泉 今月村清水、あら田大清水、鷹清水二泉。

水田陸田の字名所 三角田 大つら 今月 中村 下延 五百刈 柳橋 あら田 庚塚 菖蒲田。

神社部

鎮守稻荷大明神 祭日十月十日、齋主清兵衛。 末社稻生明神 祭日共三同、齋主並同。

總家員十七戸 同人員七十六人 同馬員十八匹。

伊多章能美久佐

下花園村

(六) 屬郷十一ヶ村ノ内

里正 忠左衛門加藤氏

此邑東は釣田新田界、西は勝樂界、南は八幡林界、北は上花園など、村々畛に亘れりといへり。此地に上花園あり、むかしは一村たり。花園は名處にもあり、志賀の花園淡路の國にあり、三河の國にも有、三河にては花苑山とも里とも、また花園村あり、また花染山ともいへり。古歌に、「細川の岩間のつらとけやらて花その山の峯そ霞める。」細川村並ひたり。片園は背野の義なるへし、後園などいふ意なりといへり。むかしは櫻など多かりし地にや、花園といふ姓も見えたり。枝郷六ヶ村あり、佐治村家三戸、別當村家八戸、いかめ石村同五戸、中村同十一戸、田向村同五戸、板井村同三戸、と云々。水源は廣久内村より上下花園、上下櫻田、四ヶ村要水堰やまづちなり。

神社の部

大威徳明王 鎮守神社、祭日四月七日、三間向、四間向、別當修験文珠院。此御神は五大尊、内にして、大威徳明王は西方守護の明王なり、ある峯に安置し奉れば云、こを大威徳山といふ。又此峯を舍梨塔山と云ふ。そは花津屋の主舍利塔を納めたるをもて、しかいへり。其由來多し、なほこと處に記すへし。

大日如來 大威徳山の奥、院鎮齋也、祭日並同別當文珠院。

佐治兵衛山、稻荷大明神 祭日十月十日、一戸鎮守、齋主重右衛門。

井甕石稻荷大明神 祭日十月十日、一戸鎮守也、齋主久藏。

板井、稻生明神 祭日十月十日、一戸鎮守、齋主吉右衛門。

大威徳明王山別當修験宗文珠院累世歴代

花園山 舍梨堂山ノ亦ノ名也。此山今ハ峯界南平を花園とし北方を勝樂と云ふ 増長寺、開祖を文珠院丹乘法印といふ。文治三年丁未七月六日遷化。二世文珠院能隆、寛元元年癸卯五月八日化。三世文珠院寛道、弘安五年壬午三月七日化。四世文珠院覺明、文保二年戊午七月十日化。五世文珠院忍海、延文二年丁酉正月廿日化。六世宮本坊慶忍、永和四年戊午六月六日化。七世文珠院憲海、正長元年戊申四月七日化。八世文珠院能濟、寶徳三年辛未二月十五日化。九世文珠院定譽、明應二年癸丑正月十六日化。十世文珠院丹覺、享祿元年戊子七月七日化。十一世大力坊禪海、寛永十二年癸酉十二月廿日化。十二世文珠院丹林、慶安三年癸寅十一月二日化。十三世宮本院丹山、寛文二年壬寅十二月廿日化。十四世文珠院宥東、享保三年戊戌七月十七日化。十五世文珠院快洞、寛延二年己巳二月二日化。十六世文珠院快園、天明元年辛丑十二月十一日化。十七世文珠院鸞應、天明二年住職、文政九年丙戌六月二日化。十八世文珠院覺牛、文政五年壬午九月七日鸞應、嫡子也。覺牛遷化、後ハ慈恩寺看坊セリ、其後ハ角館ノ角聖院亦看坊セリ。覺牛ニ二人男子アリ嫡男ヲ惠教ト云フ、次男ハ其年ノ冬十一月十六日病死、惠

教ハ同月廿五日死亡セリ。此寺斯ク無住タルニ因テ角聖院全海又看住ト頼ミス。開祖ヨリ由緒書キ一
 卷^キアリシカ皆回祿タリ。亂世ニテ吉野大峯修行ナリカタク、處々ニ金峯山トナゾラヘ此方ニハ入角山
 ノ入峯執行アリシ、其先達ノ寺ヲ溪雲寺ト云フ。溪雲寺住職ナクテ不動院、文珠院相互ニ月番セシ事ナ
 リ。此溪雲寺退轉シテ年久シケレハ、文珠院其ノ溪雲寺ノ跡ニ住ヌ。又不動院ハ今八幡ニ遷リテ、此邑
 ニ不動院ノ古跡ノミ殘レリ。

花園山大威德明王靈神殿七尺、境内三間四面、西北は山道際り、東南は平地奥院まで也。奥院大日如來
 堂一丈四面、拜殿、本社未^タ再興なし。前堂阿彌陀如來、村中に座り、古記録は、別當の舍^ヤ回祿にあひて燒
 亡せりと云ふ。大威德山と云ふはゆるよし多し、なほ奥に舉^ヘへし。前にもいひしこと、此山の東南の
 方花園村、西北の方は勝樂村なり、嶺を境とす。築地東北にあり、峯を柴森といふ。西南の峯に古城の
 跡あり、空堀、また井の跡あり。南西の山ノ端に舍梨塔といふ地あり。そもく此御舍梨は、九十四代の
 帝花園の院より、花の通谷^{ツツ}、陸奥左遷の時賜りし佛舍梨なりともいへり。月出羽路廿二卷米澤新田村の
 猫清水のくたり、修驗客林山常覺院古記に、藤原家厚原花、通谷家系譜、神武天皇四十五代聖武天皇、御
 宇大織冠、天津兒屋根、命卅六代三家、卿孫息男鎌足、始賜藤原姓、正一位内大臣任之。東奥左遷之時、鹿
 嶋、爲四郎禰宜鎌足橘家時ノ末^{ナリ}。淡海公正一位大政大臣、諱、不比等、房前大臣ト申也。
 眞楯、楓麿左京太夫、内麿從二位右大臣、冬嗣^{良房從一位、大政大臣}、長良五十四代仁明天皇、朝臣也、號陸奥守。基經

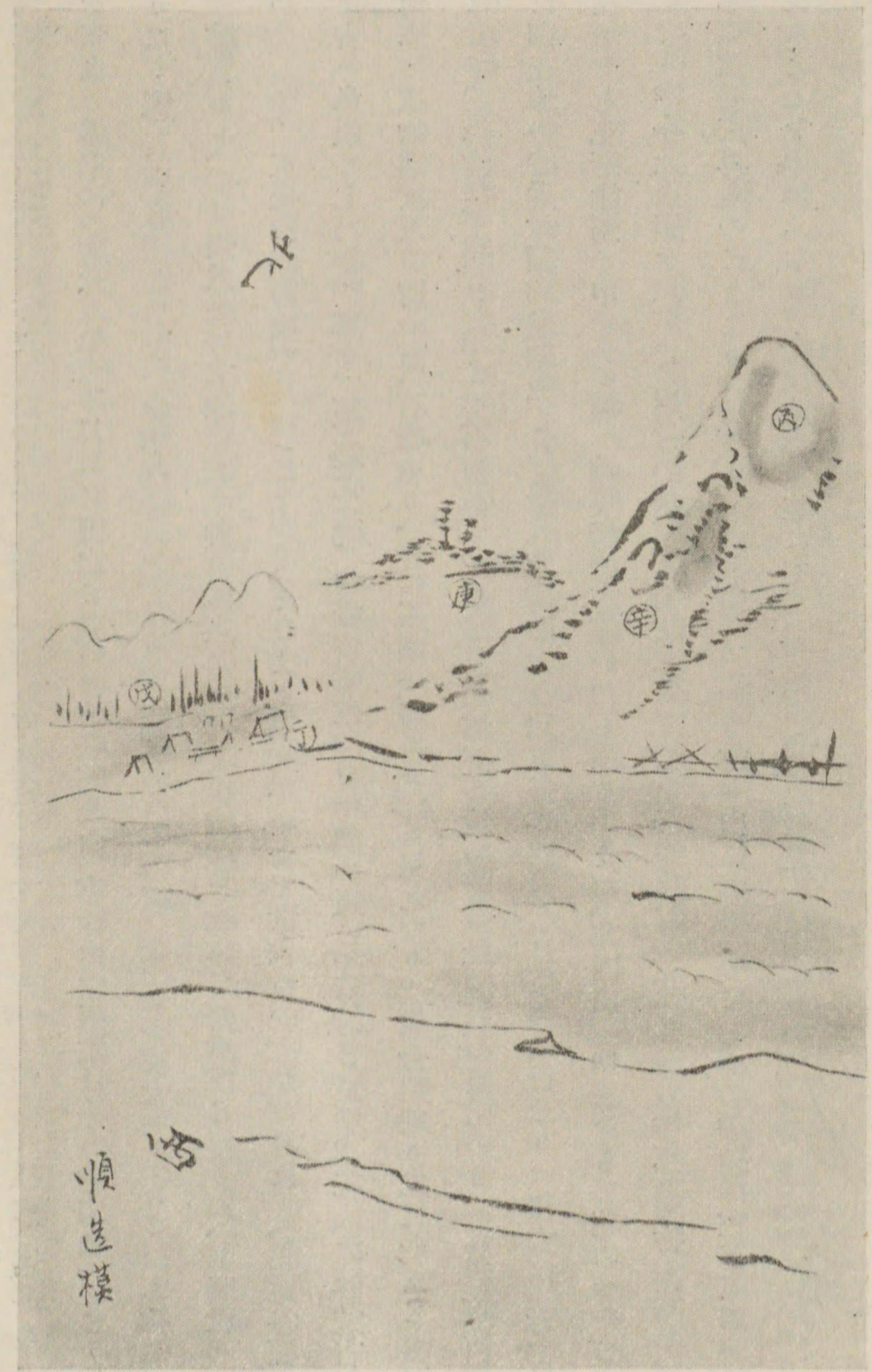
甲
下花園邑
玉川の岸に在り



假造模



甲 大威徳明王祠 主川の
 乙 丹澤の嶺
 花房備前守其の
 城趾あり時代不明
 西並て花園山といふ
 舎祭塔山といふ
 丁 藤子木舟々々十之の
 官舎あり戊 南館
 庚 大塚邑 寺石橋の場
 村 林と己 花園村の
 地藏の森あり己



西
 順造様

九條攝政殿、時平延喜御宇左大臣、頼忠中納言、元補厚原花通谷權太夫重吉云々。此末に幕形、串形あり、是を省也。卷末に、慶長八年卯卯月八日書之と見ゆ。常覺院來由、客林山常覺院は今修驗宗也、いとくふりにし家なから、いにしへの事はさたかならず。慶長八年の頃、花通谷權太夫重吉といふ神佛習合の神官あり、そは鎌足公の末流にして姓は藤原たり。其後神職を改めて修驗宗となりぬ、其時世つばらかならず。正保四年の頃玄良坊とてあり、それより寛文中まで世代わかりかたけれど、花通谷權太夫重吉を鼻祖としたり。寛文三年遷化也。常覺宥法法印を中興の祖と改む云々と見ゆ。花の通谷重吉より傳來の遺物錫杖及笑尉の面、石帶あり、外に系圖一卷あり云々と見えたり。佛舎梨納り處にやもとも靈場にして、奥院護摩執行の地とて石壇あり。戸澤公角館御在城の時は社領百石寄附あり、多賀屋公白岩村に御在城の時近村稻勸進御免これあり、此御助力を以て毎年四月七日祭禮執行せり。往古は、野中村に住居せし花野津彌と申人々々を頼み神事祭禮式等いたし來る。また、花園山のゆるをもて花のつやとは唱ふなり。今此由緒を以て、葛川村の法印常覺院來りて代々祭禮執行あり、其時の初穂、施物も無し、廿五年以前長床再建のときより初穂等少しさし出ス。いと古き山にして、いにしへの神殿は左甚五郎が造りたるよしを申傳ふなり。今は此寺無住にして、角館の角聖院看住の事なり。花野津彌、花野津屋などに作る、常覺院のみ花通谷に作れり。

總家員三十五戸 同人員二百一人 同馬員三十四匹。

不畏能佐登

上花園村

(七) 屬郷十一ヶ村ノ内

里正 伊之

助 草薙氏 佐藤氏

此邑東は堂野口村より田畠混り畦繩堤小徑畛、南は白岩街道、北は勝樂村、國館村、廣久内村三ヶ村の地畛也。西は下花園村入會也、そのいにしへは上下一村の地なり。枝郷五ヶ村あり、新田五戸、新田上三戸、下ダ村二戸、齋藤川村三戸、いかめし村四戸々々、云々。
 水源 白岩、廣久内、地より玉川の水堰せき二筋あり々々。云々。
 田畠、字地 新田 杉下ダ 下村 上堰 稻荷堂 いかめし 長まで 助之丈開 十助河原 久七河原 大藪々々。云々。

神社部

鎮守大日如來 祭日四月七日、別當下花園村文珠院。
 稻荷大明神 祭日十月十日、一戸鎮守、齋主甚吉。
 水神社 祭日九月十六日、同、齋主久右衛門。

總家員拾七戸 同人員九十人 同馬員十八匹。

戈七五三

釣田新田村

(八) 屬郷十一ヶ村ノ内

里正 善左衛門 菅原氏

此邑東は野中村界、西は下花園村田墾、南は櫻田村田畛、北は上花園村、廣久内村田畛云々に見ゆ。

享保の頃までは此村鶴田に作りしか、ゆゑありて今は釣田に作れり。また鶴田といふ郷名も多し、山本郡に鶴形村あり、是も元祿の頃より鶴の字障りありて今は釣形に作れり。鶴田も元祿の頃より釣田に作り、なほ新田の二字を加へられたり。枝郷、郡邑記に、鶴田村廿二軒、田向村二軒、中村二軒、五輪田村一軒、上鶴田村八軒云々。今存在枝郷むかしとことなり、上釣田廿戸、下釣田廿四戸、五輪田村一戸、中村二戸。

水田源は玉川掛り也。

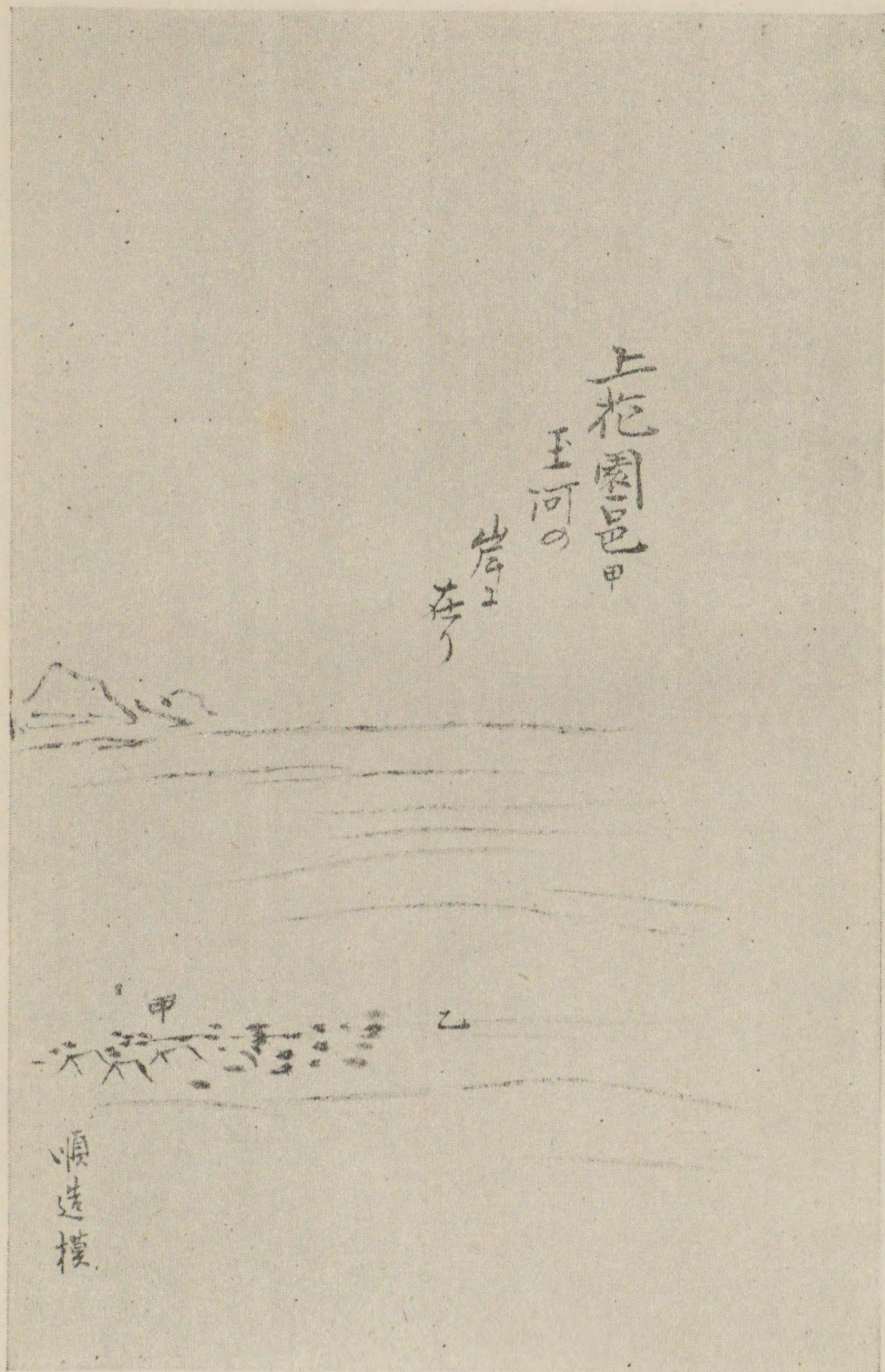
水田陸田字地 齋藤川端 石頭 五輪 いかり ほろ石 清水桶 鉾 田向 出雲谷地 前堂

大川端 大柳 河童淵 柳原 三棟 中荒井 野中云々。

神 社 部

總鎮守愛宕大権現 祭日六月廿四日、別當修驗宗本願院。

稻荷大明神、八幡宮 枝神二柱、別當並同。此末社二柱ノ内八幡宮と申奉るは、中古鶴野明神と稱奉り



上花園邑
甲
玉河の
岩上
在り

順達樓



甲 勝楽村中河魚
 乙 鳥海嶽
 丙 上花園村
 玉川踰之
 見所
 山

順達模
 地

七



山

東

七

し御神なり。鶴野明神、古へは香椎明神とまをし奉りし御神號たり。そもく香椎宮、ゆるよしある御神、拾芥抄下諸社のくたりに、香椎、筑前、承保四年 月 日香椎焼亡。公卿宣云、社或神功皇后廟、或稱仲哀天皇廟、無一定。資綱云、仲哀天皇廟也、多亮抄有所見歌々、と見得たり。此愛宕社地に赤松の大樹二本あり、一本は周回八尺、一本は六尺めくるといへり。ふりたる處と見ゆ。

稻荷大明神 一戸鎮守、祭日十月十日、齋主勘左衛門。

垂跡大明神 同、祭日六月十六日、齋主甚助。

彌都波能賣 同、祭日六月廿八日、齋主善兵衛。

稻生大明神 一戸鎮守、祭日十月十日、齋主善兵衛。

水神社 同、祭日六月廿日、齋主久助。

本願院修驗別當

愛宕村五輪堂本覺寺、開基藥上院道慶。永祿年中白岩前郷より配寺なり、慶性院の分院也。本寺慶性院の跡これなく、其の寺跡御免地にて残れり。二世金剛院慈深、三世鶴養坊惠辨、四世本全坊正寂、五世胎藏院忠惠、六世本覺院賢如、七世大覺院圓證法師大阿闍梨。當代寛文中鶴田新田村と改めらる、そのゆゑは、横手戸村重太夫殿、小野崎權太夫殿新墾ありしよしなり。かくて鎮守愛宕社再興せり。此社内に稻荷明神、また香椎大明神を遷しまつりて、そを鶴野權現といひしか、今も八幡宮と申奉る。香椎

社由來前に記したり。八世本覺院明圓、九世本覺院快善、十世本願院宥延、十一世本願院快善、十二世本覺院快林、十三世了全坊遊善、十四世本願院深海、寛政元年入峯。十五世當現住本願院雲海、文政七年花峯修行々々見えたり。

古老の物語に、むかし鶴田掃部といふ戸澤家の武士あり、後は角館に住めりといふ。ものまなびは彌勒院といふ眞言の脇寺、某といふ寺の住僧をまなひの師とたのみて、つねにつかへまつれり。ある日此寺に、おなし弟子ともあまた集り居るほどに、何ならんか師の坊の物失せたり。さまぐさかしあなくりて、こは誰か盗きたらむと師の坊腹くろにのしりけるを、ある人聞ていふやふ、そは掃部がせしわざにこそあらめ。掃部ならて、さる事やはあるへくもしらぬなとこりくにいへるに、掃部が來るに師の坊、しかくのもの盗もて去か、そは掃部ならんと人みないふといへれば、掃部聞て大に憤て、あな恐しのわざかな、いかにわが師たりとも、こころきたなき御ふるまひかなと、おびたるだんびらぬきはなし、師の坊の法師首をころりと打落し、返刀に兩三人を薙たふし、日も暮れぬれば小門の傍に身を潜み、出て來る人とらみな討はたし、七八人斗りきりふせ家に飯りて、しかくの義也、我今人に捕はれんよ腹切て死なん。人の手にからんよりはわれと共に死へしとて、女房を打殺し、娘壹人ありしをもさし殺し、腹かき切て、はらわたを掴み出してふしたりと語り傳ふ。むかしの人はあらしき武士のみ多かり

し。その盗人も、おのが手にかけし人々のうちたりといへり。清きはらわたを人々に見よとて、つかみ出したらんかといへり。

總家員卅一戸 同人員百七十七人 同馬五十五匹。

月の入燈

白岩前郷村

(九) 屬郷十一ヶ村ノ内

里正 宇右衛門鎌田氏

此村東は南部境木香嶽、阿彌陀ヶ峯際り、此山の内南は太田山、椿山長根割り、北は生保内山長根割、下は玉川境。西は堂野口村と當邑畛、南北は官田見通し、南は小沼村、椿村、野中村三ヶ村、入角川より下齋藤川境、北は廣久内村と此村畛官田堰也云々と見ゆ。同名、同國村山、郡白岩村、雄勝郡白岩村あり。また三代實錄十八卷貞觀十二年八月廿八日、條云、參河國授正五位下智立神、祗鹿神並正五位上、狹投神正五位下、出羽國白磐神、須波神並從五位下云々と見えたり。是は白岩、須波と、今ならむ鎮座れば淀川のくたりに擧たり。さりけれと此白岩もいごとく古き處也、いにしへ、白磐城主左近將監有信朝臣とてあり、其臣下宮藤六兵衛尉正重といふ、此事小沼山觀音の緣記に見えたり。なに、まれ、其世をかけて今し世までも此往復すを白岩街道といふ。鎌倉街道、江戸街道といふか如き、其威風盛なりし世を

おもひやるべし。

白岩前郷宿ノ内家員五十六戸、同瀬戸山同三戸、同高屋鋪同九戸、同田中二戸云々と見ゆ。堀内澤、廣久内村、堂野口村入會。杉野澤、廣久内、堂野口村、釣田新田村、上花園村、道より入會なり。入角山、椿村、野中村、八日市村入會也。水田水源は玉川水懸り、夜蚊臺要害なるべし下々より官田堰一筋、廣久内共に同じ。享保郡邑記云、白岩前郷村六十三軒市日、一日十一日廿一日ト見ニ。高屋鋪村家七軒、田中村同三軒、南部領岩手郡志戸田との境、同白岩村の内木籠木香にも作れり嶽峯際り境水落次第、同領和賀郡内蕪嶽貝澤との境、白岩の内阿彌陀ヶ嶽際り境水落次第云々と見えたり。白岩に慶長の頃までは市驛もありき、近き世までも白岩善左衛門といひし武士の名も聞へたり。其後は新庄に移りき、そは戸澤家の門葉にや。御札山館の澤より水掛り、杉の澤なり、御札山中の澤もかゝりなり。入角山水元一、堰根官田かゝり、同處町堰二、堰根也。いなり澤堰かゝり、杉の澤大清水かゝり、此水源は柏木田堰爲替にて懸渡し大清水なり、云々と見えたり。

神社部

鎮守正一位稻荷大明神 祭日十月十日、祠官太田薩摩正。字地いなり澤口といふ處に鎮座ス。

季忌宮 祭日八月朔日、祠官並同。

牛頭天王社 祭日六月十五日、祠官並同。

菅大臣神社 祭日三月廿五日、祠官並同。杉の澤といふ地の河岸に鎮座なり。

神明宮 祭日七月廿五日、別當修驗寶珠院。上屋敷といふ處にあり。

荒神社 祭日四月八日、別當並同。古館といふ處に座り。

大山祇社 祭日十二月十二日、別當並同。杉の澤大石といふ處にませり。

中澤前山愛宕社 祭日九月十九日、別當禪宗雲岩寺。

白山神社 祭日九月十九日、おたき山に在り、別當並同。

市姫神社 祭日正月十一日、宿中に在り、齋主醫師玄秀。

雷公社 高屋鋪繩手下に座り、祭日六月廿四日、齋主吉右衛門。

峯薬師佛堂 祭日四月八日、一戸鎮守、齋主廣久内村久左衛門。入角山水上に座り、なかむかし、い

かなる事にや俗別當になりつるよしをいへり。

祠官太田薩摩正社記累代

白岩鎮守正一位稻荷大明神、社地東西十四間南北七間神殿九尺四面、拜殿二間三間、道路廿三間地廣二間。

天満宮社地、神殿三尺四面。稻荷神社、大銅二年丁亥四月九日建立と古記には見へたれど、さたかなるあ

かしもなきよしをいへり。上祖太田宮五郎某、寛文十年庚戌五月八日神去。二代太田權之正、貞享二年乙丑

二月十二日神去。三代若狹守、享保十二年丁子正月十七日神去。四代伯耆守、寶曆八年戊寅十一月十五日神

去。五代筑後守、寛政六年甲寅十一月廿五日神去。六代薩摩守、天明七年丁未四月朔日神去。七代太田因幡

正、享和二年壬戌九月九日神去。八代安房正、文政七年甲申九月十一日神去。九代當時祠官太田薩摩正重清

云々と見へたり。

修驗宗寶珠院歴代

白雲山白明院勝惠、慶長二年九月十八日遷化。二世白明院慈明、元和二年二月九日化。三世白明院宥深

寛永七年六月十一日化。四世寶珠院宥圓、享保二十年六月六日化。五世寶珠院快賢、寶曆六年五月廿

日化。六世寶珠院梅山、文化十五年正月六日化。七世寶珠院宥覺、現住也。慶長年中ヨリ當住迄七世

に及ぬ。以前、累世歴代詳に知れかたしといへり。

雲巖寺 宗派曹洞 歴代

龍澤山雲巖寺、開祖は最上長崎村圓同寺三世許岳玄可大和尚也、文明六年甲午八月廿八日法地となる。

開闢今至文政十二年凡三百五十六年。長享元年丁未九月廿一日示寂云々。五世田澤村田澤寺開山三翁大

益和尚、田澤寺同末山也。同五世、當寺末山南部吉祥院開山並同。六世、當寺平末葛川村法傳庵開山不空

順光和尚。七世中興、當寺末山板見内村靈仙寺開山華巖快雪和尚。當時廿三世現住繫森永岳和尚、文政

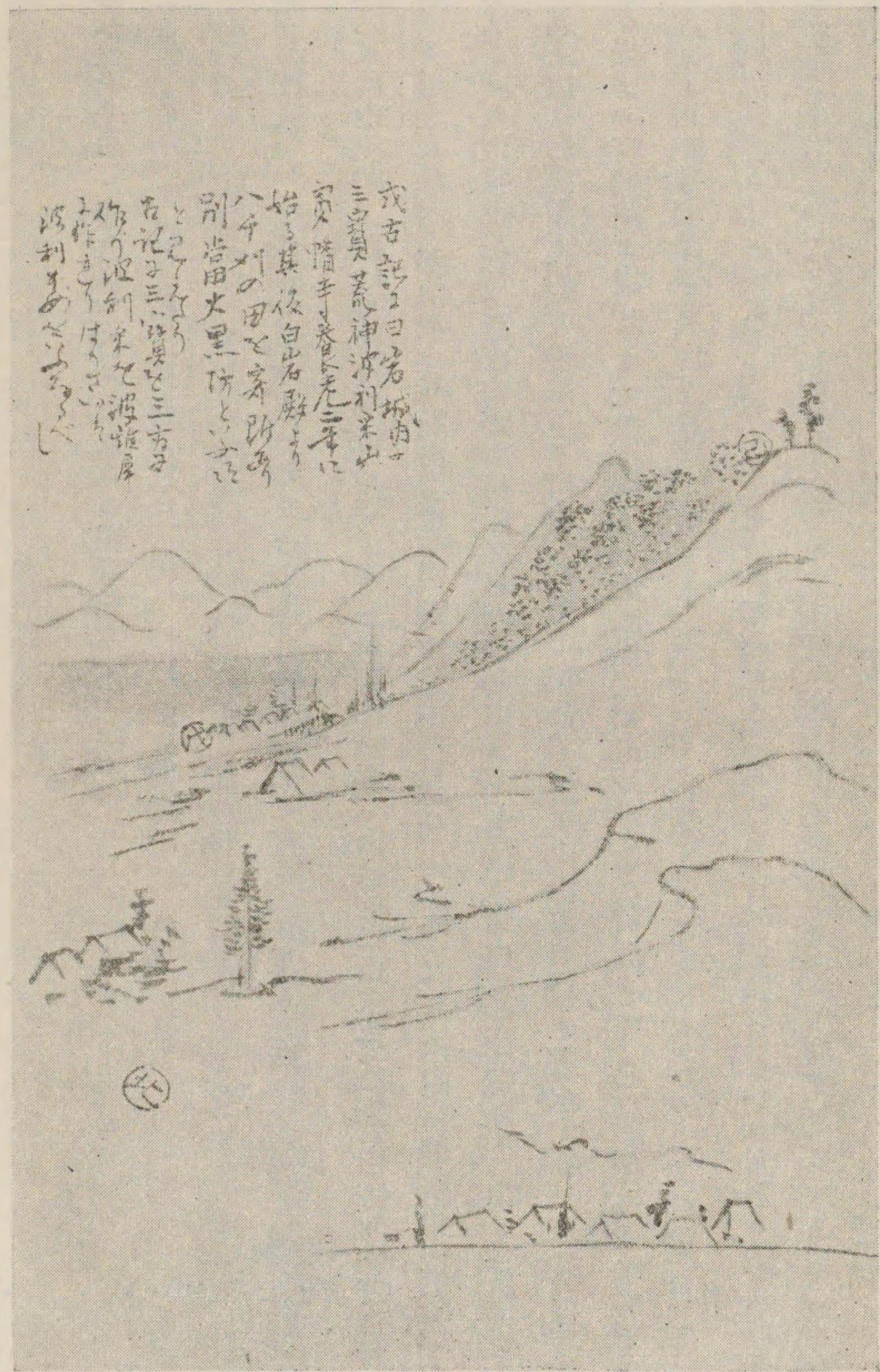
八年二月十七日土川村從寶泉寺入院也。

鎮守御神白山權現 愛宕山 兩社合座 別當雲岩寺山主。



乙平城跡 丙元町武士屋鋪跡
 丁外塚 戊大田郷藥師塚
 己山城迹 荒神社庚庚牙跡
 辛玉川 遠廣之内村

白岩村甲



戎吉記曰白岩城跡
 三浦勇義神浦利業山
 家 階平 卷上 元年 口
 始 其 依 白石 殿 跡
 八 千 村 田 之 跡 跡
 別 岩 田 火 里 跡 跡
 古 記 三 浦 勇 義 三 古 子
 作 記 利 業 七 浦 跡 跡
 上 作 記 利 業 七 浦 跡 跡
 波 利 業 七 浦 跡 跡

總家員七十戸 同人員二百八十九人 同馬員六十四匹。

斯多木の松

白岩廣久内村

(十) 屬郷十一箇村ノ内

里正 久利

兵

衛 草嶋氏
衛 藤木氏

此邑東は山根際り、西は戸伏野堀切見通上花園村野地森限り、南は前郷山水落次第官田際り堂野口村界、北は玉川流れ限り。郷山境は五社山、張木山、鳶山、水野目御札山、内澤なり、水野目御札山黒檜澤なり。東は大廣久内長根割切、西は前郷山杉澤長根割前郷山まで、南は入角山盼薬師道際り、南は前平山まで。御運上山は堀内澤玉川落、行田澤玉川落、合澤玉川落、大廣久内山田といふ處水元也。東は南部、境木番ヶ嶽より阿彌陀ヶ峯、南は太田山境より薬師嶽長根道通り大廣久内澤まで、北は生保内長根割下り女平より玉川際り、西は廣久内澤口際り云々といへり。

考に廣久内はもと夷語にして、ひるかないの轉語にこそあらめ。ひるかは良といふ言なり、ないは澤なり、良澤てふ事をしかいへるにやあらんかし。堀内はぼむないの轉語、ぼんは少きを云ひ、わかきをも言ひ、ないは澤をいふ也。なへて、ところ／＼に某内某内といふか多きは、みな澤といふ夫人か辭なり。枝郷 廣久内家十八戸、合野同十二戸、竹原同五戸、町屋鋪同一戸、寺内同一戸、下町同十七戸、中川

原同廿一戸、田野尻同二戸、河童淵同十戸、下場同廿四戸、大柳同三戸、古名なり、今云ふ堂野口の事なり、むかしは古木の柳生ひたりしにや。

田畠の字處 したき松 山田 竹原 山神堂 内澤掛り 前田 栗澤 大橋 大寶院塚 白岩盼町屋敷 古町 外又 水神 柳 中川原。外は凡枝郷の字なれば省たり。

新磐堰といふあり、そも／＼文政九年丙三月の頃より堀り始め、水源は若狹といへる地の堰口にて御座の石と云ふ處の岩切り貫き、したき松といふ處へ通し蛇石といふ處へ通し、岩切貫き山田と云ふ處へ通り、岩坂といふ處よりまた堀り抜き前坂といふへ通し、それより前山根通り五社といふ堂山へ堀りぬき、前郷界にて平地に堀り出て前郷の内高屋鋪といへる處へ通しぬ。此四とせ五とせの勳功をおもひやるべし。

神 社 部

鎮守八幡宮 祭日四月八月兩十五日、祠官太田伊賀頭。本宮廣三間四面、社地十二間廿五間也。

末社市姫社祭日正月十二日、並に庚申祭日四月十四日。此二柱は八幡宮のえだ神なり。市神は、いにしへ此處に市立しとき齋ひし御神なり。

五社大權現 祭日七月廿一日、一戸鎮守、齋主九兵衛。

廣久内白山宮 祭日十二月十六日、同、齋主兵右衛門。

同山神社 祭日十二月十二日、同、齋主久左衛門。

下町八幡宮 祭日八月十五日、此條如前、祠官遠江正之。

馬頭觀音 祭日七月十九日、同、齋主市左衛門。

中川原稻荷大明神 祭禮十月十日、同、齋主徳右衛門。

寺内、水神社 祭日九月十六日、同、齋主又兵衛。

中川原稻荷大明神社三 祭日十月一日、同、齋主六右衛門。

諏訪大明神社 祭日七月廿七日、同、齋主作左衛門。

船場神變大菩薩堂 祭日十二月七日、同、齋主吉兵衛。

同稻荷大明神社 祭日十月十日、一戸鎮守、齋主吉三郎。

會楚觀世音 祭日十二月十七日、同、齋主孫左衛門。

中川原正一位稻荷大明神 祭日十月十日、同、齋主久兵衛。

同雷光社 祭日十一月十七日、同、齋主並同。

霹靂社 祭日十一月十七日、同、齋主吉三郎。

同稻荷大明神 祭日十月十日、同、齋主長助。

下町稻荷大明神 祭日十月十日、同、齋主伊三郎。

同稻荷大明神 祭日十月十日、同、齋主吉兵衛。

入角山峯藥師如來 祭日四月八日、同、齋主久左衛門。

會野稻生大明神 祭日十月十日、齋主甚左衛門。

祠官太田伊賀頭累世歴代

白岩廣久内鎮守八幡宮、祠官なり。先祖は藤津重恒靈社、天明四年甲辰七月十三日神去。明和六年庚寅五月受領して若狹守藤原重恒といふ。二代藤津重政靈社、寛政六年甲寅五月五日受領丹波正重政といふ、文化十二年甲戌二月十一日神去行年六十一歳。三代太田伊賀頭藤原重爲、寛政六年甲寅五月受領、存生云々。上花園村鎮守稻荷大明神は小貫儀右衛門殿の鎮守にして、神主は久保田の千田左膳也。さりけれど延享四年丁卯四月八日遷宮ありて、其後神事式等も、遠方なれば是をたのまれ、太田伊賀守つかまつり行ひ奉る也、云々と見へたり。

總家員百四戸 人員四百九十六人 同馬員六十四匹。

前田の穂なみ

白岩堂野口村 (十一尾)

屬郷十一村之内
廣久内ニ加郷也

里正

久利

兵衛

衛草薙氏
藤本氏

此村東は九郎左衛門坂より前郷界、地森見通し地森より錢神坂、西は下堰向と上花園田界、南は錢神より釣田愛宕堂、ほろ石より月見堂見通し花園村界、北は廣久内村田界際也といへり。田地水元は玉川かりなり。田畠字處、杉澤はた、中田、後田、前田、せに神、齋藤川はた、五輪也といへり。

神 社 部

鎮守水神社 祭日九月十六日、齋主儀右衛門。

堂の口はむかし大柳といひし地なり、大柳はいとく古き村名なりと郷の古老の語りけり。

總家員九戸 同人員三十六人 同馬員三疋。

國本善治校字

秋田叢書第十卷終

昭和八年四月十日印刷
昭和八年四月十五日發行

秋田叢書第十卷

不許複製 (非賣品)

編纂兼 發行人 秋田叢書刊行會

代表者 深澤多市

印刷者 濱野英太郎

東京市麴町區紀尾井町三番地

印刷所 東京印刷株式會社麴町出張所

東京市麴町區紀尾井町三番地



發行所

秋田縣横手町

秋田叢書刊行會

代表者

深澤多市

振替仙臺八、二五二番

I 3 N 51

